第６章ゼネラル
テクニカル ルール
（ＧＴＲ）

第６章 ゼネラル　テクニカル　ルール （ＧＴＲ） 5
6.1 ※通則 12
6.2 安全 13
6.3 標的および標的基準 15
6.4 ※射場とその他設備 24
6.5 ※ゲージと測定器具 29
6.6 ※ 選手権大会の運営 31
6.7 競技用服装および用具 33
6.8 ※ 競技ジュリーの任務と職務 35
6.9 ※ 組織委員会の任命する競技役員 36
6.10 競技会におけるＥＳＴ操作 37
6.11 競技会手順（6.17のファイナル競技手順も参照すること） 40
6.12 選手およびチーム役員の行動ルール 48
6.13 ※故障 50
6.14 採点と成績手順 51
6.15 同点の順位決定（タイブレーク） 53
6.16 抗議（プロテスト）と上訴（アピール） 53
6.17 オリンピックのライフルおよびピストル種目のファイナル 54
6.18 ライフルおよびピストルのミックス種目 71
6.19 書類様式 75
6.20 ＩＳＳＦドレスコード 84
6.21 索引 87
付則 紙標的採点に関するルール 97
1.0 紙標的および採点ゲージ 97
2.0 射場および射座の備品 100
3.0 競技役員の任務 101
4.0 競技手順 102
5.0 採点手順 103
6.0 ３００m種目の採点および示点手順 105
ゼネラル テクニカル　ルール （ＧＴＲ） 国内適用規定 107
付則１ 障がい者の競技参加 118
付則２ 紙標的に関するルール 118
付則３ 公益社団法人 日本ライフル射撃協会国内危害予防規則 119
添付１１文的の複数同時使用のガイドライン（GTR 6.3.3.6） 120
添付２ ファイナルー２５mセンターファイアピストル 2011 のファイナルの方法 122
添付３ビームライフル種目のガイドライン 127

ルール番号

すべてのＩＳＳＦルールはルール番号手順により４段階の番号（例：6.10.3.5）を限度に番号付けられている。これらのルールに５番目のレベルが必要な場合はａ）、ｂ）、ｃ）等で示す。

※については国内適用規定も参照のこと。

追は、国内適用のために追加した項目であり、国内適用規定を参照のこと。

定義と略号

以下はＩＳＳＦゼネラルテクニカルルールとＩＳＳＦライフル、ピストルルールに使われている特殊単語と略号の定義である。

単語	定義
選手（Athletes）	スポーツ競技会の競技者または参加者。
Bib 番号/スタート番号（Bib Number/Start Number）	選手権大会に参加するそれぞれの選手には特有の Bib またはスタート番号が発給される。この番号は選手の確認や追跡に使用され、練習や試合の時に選手の背中に付けられていなければならない。
選手権大会（Championship）	複数の種目がプログラムされた１つの射撃競技大会。ＩＳＳＦルールの適用、テクニカルデレゲートとジュリーの派遣、アンチドーピング検査の実施によってＩＳＳＦからの認定と監督を受けた大会は特に大文字のＣを使って表す。
競技会（Competition）	複数種目の選手権大会を含むスポーツ競技会または単独種目による大会。
射撃コース（Course of Fire）	種目内の競技ステージを説明するもので、各シリーズおよび各ステージの発射弾数、射撃の種類および制限時間を定める。
ＣＲＯ	Chief Range Officer：射場長
種目（Discipline）	種目（Event)の共通的な特徴で分けたグループ。射撃は５種類（ライフル、ピストル、ショットガン、ムービングターゲット、ターゲットスプリント）の種目（Discipline）から構成される。
ＥＳＴ	Electronic Scoring Targets：電子標的
種目（Event）	個別の進行方法とルールにより行われる特定の射撃種目。
ファイナル（Final）	ファイナルとは種目の最終競技ステージのことである。個人種目のファイナルでは、本選上位８名の選手が最終順位およびメダルの決定のために新しい（０点から始まる）競技を行う。
ＦＯＰ	Field Of Play：競技場 射撃において、ＦＯＰとは、射撃線後方の、競技中の選手および勤務中の競技役員だけが立ち入ることのできる区域、射撃線または射台、およびその前方の標的やバックストップまたは安全区域までの射場がそれに相当する。
ＩＴＯ	International Technical Official（国際競技役員）、通常、ＩＳＳＦが任命したジュリーを指す。
本射（MATCH Shots）	選手の得点として採点または記録される射撃弾
ＭＱＳ	Minimum Qualification Score：最少資格得点
Ｍｉｎ.	分（Minute、Minutes）
ＮＴＯ	National Technical Official（国内競技役員）、通常、主催国連盟が任命した射場役員やレフリーを指す。
オリンピック種目（Olympic Event）	各オリンピック大会のプログラムに含まれる国際オリンピック委員会に承諾された射撃スポーツ種目。射撃競技では１５種目ある。各オリンピック種目は本選とファイナルで行われる。
オープン種目	選手の性別や年齢の制限なく実施される種目
ＰＥＴ	競技前練習（Pre-Event Training）
ランキングリスト	ＩＳＳＦ選手権大会の選手の成績に基づく２種類のランキングリストがある。 １．世界ランキング：年間のＩＳＳＦ選手権大会における各選手の成績に基づくランキ

	ングリスト

	２．オリンピック大会出場資格ランキング：オリンピック大会予選期間中のＩＯＣによって認可されたＩＳＳＦオリンピック予選競技会における各選手の成績に基づくランキングリスト
ＲＰＯ	Ranking Points Only（ランキングポイントのみ）－ 成績表において、ランキングポイントを得るためだけにエントリーした選手に付けられる記号。この選手はファイナルに進出できない。
ＲＴＳ	成績(Results)、計時(Timing)と採点(Scoring)。ＲＴＳの過程は競技実施の一部であり、そこには射座割表の準備、標的の採点、採点上の問題の解決および成績表の準備と発行が含まれる。
ラウンド（Round）	射撃種目における競技場面。射撃種目は予選ラウンド、本選ラウンド、ファイナルに場面分けされる。ショットガン種目では２５標的シリーズの事を「ラウンド」と呼ぶこともある。
Ｓｅｃ.	秒（Second、Seconds）
シリーズ（Series）	射撃ステージまたは射撃コース内の一連の射撃。
試射(Sighting Shots)	射撃種目において、本射に先立って撃たれる練習またはウォームアップのための射撃弾
スポーツ（Sport）	共通の要素と一つの団体が統括するということで区別される競技のこと。射撃は選手が銃で標的を撃ち、その得点で順位を競うという“スポーツ”である。 ＩＯＣは射撃を夏季オリンピック大会における２８の中心スポーツの１つとして認めている。
スポーツプレゼンテーション（Sports Presentation)	観客やテレビ視聴者にとってより興味深く有益なものにするために、射撃種目の運営の中で使用されるアナウンス、音楽、色および教育的メディアのような映像、音響および情報。
射座割（Squadding）	ライフルおよびピストル種目に参加した選手の射群および射座の割り振りまたはショットガン種目での射群への選手の割り振り。この過程を経て射座割表が作られる。
ステージ（Stage）	射撃コースの中の一場面または一部分。ライフルの三姿勢種目はそれぞれの射撃姿勢の３つのステージから構成され、女子２５ｍピストルでは精密射撃と速射の２つのステージから構成される。
射座割表（Start List）	競技大会中に作られる各種目に参加する選手の射群、射座または射群と射群における射順に関する公式書類。
開始時刻（Start Time）	開始時刻は各射撃種目において本射の開始を告げる号令がかけられる時刻。
団体種目（Team Events）	ＩＳＳＦは団体種目を承認している。 団体種目は３人の選手の得点の合計点を基にして順位付けされる。 ミックス種目は同一国の男子１名および女子１名によって行われる。
ＴＤ	Technical Delegate ＩＳＳＦ執行委員会に任命されたＩＳＳＦ高等官で、組織委員会とＩＳＳＦ間の主たる調整役員。

ＩＳＳＦ承認射撃種目

この表はＩＳＳＦ承認射撃種目の一覧であり、国際オリンピック委員会および／またはＩＳＳＦ総会（1.6）によって承認された各種目のステータスと、ＩＳＳＦ運営理事会（1.7.3.1）によって承認された競技形式および発射弾数に関する基本的な技術事項を示している。

・ＩＳＳＦ選手権大会において、男子、少年男子、女子および少年女子の種目が個人戦のみとなるか個人戦と団体戦（3 人）とミックス種目となるかは、その大会で定められた規定と競技予定による。(3.8)

・ステータスは各種目に関して承認されたステータスを示している。

ａ）Ｍ＝男子種目として承認されている種目
ｂ）Ｗ＝女子種目として承認されている種目
ｃ）ＭＪ＝少年男子種目として承認されている種目
ｄ）ＷＪ＝少年女子種目として承認されている種目
ｅ）Olympic＝オリンピック種目としてＩＯＣに承認されている種目
ｆ）ＷＣＨ＝世界選手権大会で実施必須の種目
ｇ）ＷＣＨＳ＝通常の世界選手権大会で実施できない場合、別開催の世界選手権大会として開催される別開催世界選手権大会の種目（3.3.6.3 および 3.3.6.4 参照）
ｈ）オリンピック種目は本選とファイナルが行われ、非オリンピック種目は本選とオプションのファイナルが行われる
ｉ）ＩＳＳＦ種目のテクニカルルールは、ゼネラルテクニカルルールおよび各種目のルールに記載されている。ライフルは7.0、ピストルは8.0を参照する。
ｊ）ライフルおよびピストルのファイナルのテクニカルルールは 6.17 に記載されている
ｋ）ライフルおよびピストルのミックスチーム種目のテクニカルルールは 6.18 に記載されている。

男子および少年男子の種目				
種目名	略号	ステータス	本選／全射撃コース	ファイナル
１０ｍエアライフル（立射）	ＡＲＭ	Ｍ、ＭＪ、Olympic、WCH	６０発	２４発
５０ｍライフル三姿勢（膝射、伏射、立射）	Ｒ３ＰＭ	Ｍ、ＭＪ、Olympic、WCH	３×２０発	３５発
５０ｍライフル伏射	ＲＰＲＭ	Ｍ、ＭＪ、WCH	６０発	
３００ｍライフル三姿勢（膝射、伏射、立射）	３００Ｒ３ＰＭ	Ｍ、ＷＣＨＳ	３×２０発	
３００ｍスタンダードライフル三姿勢（膝射、伏射、立射）	３００ＳＴＲ３ＰＭ	Ｍ、ＷＣＨＳ	３×２０発	
３００ｍライフル伏射	３００ＲＰＲＭ	Ｍ、ＷＣＨＳ	６０発	
１０ｍエアピストル	ＡＰＭ	Ｍ、ＭＪ、Olympic、WCH	６０発	２４発
２５ｍラピッドファイアピストル（８、６、４秒射シリーズ）	ＲＦＰＭ	Ｍ、ＭＪ、Olympic、WCH	３０＋３０発	４０発
２５ｍスタンダードピストル（１５０，２０，１０秒射シリーズ）	ＳＴＰＭ	Ｍ、ＭＪ、WCH	２０＋２０＋２０発	
２５ｍセンターファイアピストル（精密および速射シリーズ）	ＣＦＰＭ	Ｍのみ、ＷＣＨ	３０＋３０発	
２５ｍピストル（精密および速射シリーズ）	ＳＰＭ	ＭＪのみ、ＷＣＨ	３０+３０発	
５０ｍピストル	ＦＰＭ	Ｍ、ＭＪ、WCH	６０発	

女子および少年女子の種目				
種目名	略号	ステータス	本選／全射撃コース	ファイナル
１０ｍエアライフル（立射）	ＡＲＷ	W、ＷＪ、Ｏlympic、WCH	６０発	２４発
５０ｍライフル三姿勢（膝射、伏射、立射）	Ｒ３ＰＷ	W、ＷＪ、Ｏlympic、WCH	３×２０発	３５発
５０ｍライフル伏射	ＲＰＲＷ	W、WJ、WCH	６０発	
３００ｍライフル三姿勢（膝射、伏射、立射）	３００Ｒ３ＰＷ	W、ＷＣＨＳ	３×２０発	
３００ｍライフル伏射	３００ＲＰＲＷ	W、ＷＣＨＳ	６０発	
１０ｍエアピストル	ＡＰＷ	W、ＷＪ、Ｏlympic、WCH	６０発	２４発
２５ｍピストル（精密および速射シリーズ）	ＳＰＷ	W、ＷＪ、Ｏlympic、WCH	３０+３０発	５０発
２５ｍスタンダードピストル（１５０、２０、１０秒射シリーズ）	ＳＴＰＷ	W、ＷＪ、ＷＣＨ	２０＋２０＋２０発	
２５ｍセンターファイアピストル（精密および速射シリーズ）	ＣＦＰＷ	W, ＷＣＨ	３０＋３０発	
５０ｍピストル	ＦＰＷ	W、ＷＪ、ＷＣＨ	６０発	

男女各１ 名によるミックス種目				
種目名	略号	ステータス	本選	ファイナル
１０ｍエアライフル（立射）	ＡＲＭＴ	M＋W、ＭＪ＋ＷＪ	３０発ずつ	本選上位４チームによる１ステージのファイナル。各選手最大２４発。
１０ｍエアピストル	ＡＰＭＴ	M＋W、ＭＪ＋ＷＪ	３０発ずつ	本選上位４チームによる１ステージのファイナル。各選手最大２４発。
この他のミックスチーム種目は執行委員会の承認の下ＩＳＳＦ選手権大会で実施することができる。				

6.1 **通則**

6.1.1 **※ＩＳＳＦルールの目標と目的**

ＩＳＳＦはＩＳＳＦの認可を受けて行われる射撃競技を監督統括する目的でテクニカルルールを制定している(ＧＲ3)。ＩＳＳＦテクニカルルールの目標はＩＳＳＦ選手権大会およびＩＳＳＦが認可した競技会の運営の統一を確立することである。オリンピック大会における射撃競技はＩＯＣが認可する。それらは全世界における射撃スポーツに適用されこのスポーツの発展を促進する。

ａ）ＩＳＳＦゼネラルテクニカルルール（ＧＴＲ）は射場基準、標的規格、採点手順およびすべての射撃種目における具体的な競技手順を含む。種目別ルール（ＤＲ）はライフル、ピストル、ショットガン、ムービングターゲットおよびターゲットスプリントの５つの射撃種目でそれぞれに適用される。

ｂ）ＧＴＲおよびＤＲはＩＳＳＦ憲章に従って運営理事会により認可される。

ｃ）ＧＴＲおよびＤＲよりＩＳＳＦ憲章およびＧＲが優先される。

ｄ）ＧＴＲおよびＤＲはオリンピック大会の翌年の１月１日より４年間有効となるよう認可される。特別な場合を除いては、ＩＳＳＦルールはこの４年間は変更されない。

6.1.2 **ＧＴＲおよびＤＲの適用**

ａ）ＩＳＳＦ選手権大会とは、オリンピック、世界選手権、ワールドカップ、ワールドカップファイナル、大陸選手権、大陸大会、ジュニア世界選手権、ジュニアワールドカップでＩＳＳＦ ＧR3.2.1 とこれらのルールに従い、ＩＳＳＦの監督下で行われる、射撃スポーツ競技会のことである。

ｂ）ＩＳＳＦは、執行委員会の承認を得て、試合管理のＩＳＳＦ基準（例えば、テクニカルデレゲート、ジュリー、ドーピングコントロール、参加手順、成績管理など）が満たされるその他の競技大会を、最少資格得点やランキングポイント（ＭＱＳ/ＲＰＯ）の得点が獲得でき、世界記録が公認される競技大会、例えばグランプリ競技会、として認定することができる。

ｃ）すべてのＩＳＳＦ選手権大会にはＩＳＳＦ ＧＴＲとＤＲによって運営されなければならない。

ｄ）ＩＳＳＦは、ＩＳＳＦ選手権大会ではない地域、国内、その他の競技会であっても、ＩＳＳＦの種目が含まれている場合、ＩＳＳＦルールを適用し、それらによって運営すべきであることを推奨する。

ｅ）すべての競技役員、選手、コーチおよびチームリーダーはＩＳＳＦルールを熟知し、ルールが遵守されることを確実にしなければならない。

ｆ）ルールに従うのは各選手の責任である。

ｇ）右利きの選手に適用されるルールは、左利きの選手の場合、その逆が適用される。

ｈ）男子種目または女子種目に特に適用されるルールの他は、双方に同等に適用されなければならない。

ｉ）図表内に示される数値等は通番のルールに等しい効力を持つものとする。

6.1.3 **ＴＲの範囲**

ＴＲに含まれるものは:

ａ）ＩＳＳＦ選手権大会の準備と組織に関するルール

ｂ）すべての射撃種目あるいは２つ以上の種目に適用されるルール（ゼネラルテクニカルルール）

ｃ）１つの射撃種目に適用されるルール（スペシャルテクニカルルール）

6.1.4 **用具と服装の一律基準**

射撃は、用具や服装が競技の実施に重要な役割を果たすスポーツである。選手はＩＳＳＦルールに適合する用具と服装のみを使用しなければならない。他の選手よりも不当な利益を与える可能性があり、かつこのルールで特に言及されていない銃器、装置、用具、付属品またはその他の物、あるいはこのルールの精神に反する物は、禁止される。用具と服装に関するＩＳＳＦルールは、他の選手よりも不当な利益を与える用具、服装または付属品を持つ選手がいないようにするため、厳格に適用される（6.7.9参照）。

6.1.5 **※ＩＳＳＦ選手権大会の組織と監督**

6.1.5.1 **※ＩＳＳＦによる監督　ＩＳＳＦ執行委員会は、ＩＳＳＦ憲章 1.8.2.9 およびＧR3.5 に従い、各ＩＳＳＦ選手権大会にＩＳＳＦテクニカルデレゲート、ジュリー、技術役員を任命する。任命されるのは：**

ａ）テクニカルデレゲート

ｂ）競技／用具検査／ＲＴＳジュリー

ｃ）上訴ジュリーを任命することはできる。別の方法として、ＴＤが必要に応じて上訴ジュリーを

任命することができる。
d）公式成績提供者：エントリー、選手の成績、競技進行、成績の表示、成績表の保管に必要な電子技術を提供し、操作する責任を持つ。
e）ＩＳＳＦは国内レフェリーを支援するために、国際レフェリーを任命することができる

6.1.5.2 **組織委員会　ＧＲ3.5.1 に従って、各ＩＳＳＦ選手権大会では組織委員会が設置されなければならない。組織委員会は射撃競技会の準備、運営、管理に責任を持つ。組織委員会は次の役員を、　ＩＳＳＦと協力をして、任命しなければならない。**
a）射場長、射場役員：射撃種目の実際の運営、管理に責任をもつ。
b）ＲＴＳ長および必要な補助員：ＲＴＳ室を設置し、エントリー、認定、選手権大会期間中の採点と成績作成に責任を持つ。
c）用具検査長、用具検査役員：用具検査の実施に責任を持つ。
d）ＩＳＳＦ選手権大会の組織委員会として責任を果たすために必要なその他すべてのスタッフ。

6.2 安全

安全は最重要課題である。

6.2.1 安全通則

6.2.1.1 ※ＩＳＳＦルールはすべてのＩＳＳＦ選手権大会に適用されなければならない特別な安全要件を定めたものである。ＩＳＳＦジュリーと組織委員会は安全に対する責任を負う。

6.2.1.2 射撃場に必要な特別安全規定は国によって異なるため、組織委員会は追加の安全規定を定めることができる。ジュリー、射場役員、チーム役員および選手には、競技会プログラムによって特別安全規定を周知しなければならない。

6.2.1.3 選手、射場勤務員、役員および観衆に対する安全を期するために射場内での銃器の運搬、行動等には常時細心の注意を払わなければならない。銃の安全措置を守らせることは射場役員の義務であり、銃の安全措置と銃の取り扱いのルールの全てを適用させることは選手やチーム役員の義務である。

6.2.1.4 安全予防措置には、大会のすべての参加者への安全な食事、手洗いおよび飲用に適した水の提供を含めなければならない。また、選手および射場役員の熱疲労または低体温症を確実に予防するため、スケジュールは適切に管理されなければならない。

6.2.1.5 ＩＳＳＦは、射場内の他の人たちの安全に対して重大な恐れを起こすような選手に関する情報を適格な機関から得た場合、その選手の競技会への参加受け入れを拒否できる。

6.2.1.6 ※安全確保のためにはジュリー、レフェリーまたは射場役員はいつでも射撃を中止させることができる。選手やチーム役員は、危険な行為や事故につながる事態を発見した場合はただちに射場役員、レフェリーまたはジュリーに報告しなければならない。

6.2.1.7 ※用具検査役員、射場役員またはジュリーは選手の用具(銃器を含む)を本人の許可なく本人の立会と認識のもとに手に取ることができる。しかしながら、安全の問題がかかわる時には、その行動は即座に取られなければならない。

6.2.2 銃器取り扱い規則

6.2.2.1 安全確保のため、すべての銃器はいついかなる時でも最大限の注意をもって取り扱われなければならない。競技中および練習中は射場役員の許可なしに銃器を射線から動かしてはならない。

6.2.2.2 ※このルールによってセフティフラッグを外す事が認められているとき以外は、すべてのライフルおよびピストルには常に、蛍光オレンジまたは似たような色の素材でできているセフティフラッグが挿入されていなければならない。エアガンに弾が装填されていないことを明示するために、セフティフラッグ（セフティライン）は銃身全体を貫通する十分な長さでなければならない。その他の全ての銃において、セフティフラッグは薬室（銃身の最後部）に挿入されることにより、薬室が空であることを示す役割を持たなければならない。ショットガンに弾が装填されてないことを示すためには、銃の機関部が開放されていなければならないが、それはショットガンが銃架に置いてあるときにも適用される。
a）銃ケースなどから出された全てのライフルとピストルは、選手の射座入り前、射座から離れる時、競技終了後、射線より前に作業員が出なければならない時にはセフティフラッグが挿入されていなければならない。ファイナルにおいては、準備および試射時間が始まるまでセフティフラッグを抜くことできない。

ｂ）このルールで要求されているにもかかわらずセフティフラッグを使用していなかったり、ショットガンを開放していなければ、ジュリーは銃器にセフティフラッグを挿入するまたはショットガンを開放するように指導し、警告を与えなければならない。
ｃ）もしジュリーが、警告を受けた後もルールにより要求されるセフティフラッグの使用またはショットガンの開放を拒否している選手を確認した場合、その選手は失格（ＤＳＱ）とされなければならない。

6.2.2.3 射座において銃器は常に安全な方向に向けられていなければならない。機関部やブリーチは銃器が標的エリアの安全な方向に向けられるまで閉じられてはならない。

6.2.2.4 選手は銃を置いて射座を離れるときまたは射撃が完了またはショットガンのラウンドが完了したときには、銃の機関部（ボルトまたは閉鎖機構）を開放して抜弾し、セフティフラッグを挿入しなければならない。射座を離れる前または射場を離れる前に選手はそれを確認し、また射場役員またはレフェリーは銃の薬室、銃身または弾倉内に残弾のないこととセフティフラッグが挿入されていることまたはショットガンが開放されていることを確認しなければならない。

6.2.2.5 射場役員のチェックを受けずに銃器を格納したり射座から持ち出した場合、ジュリーが重大な安全に関する違反があると判定したならば、その選手は失格となる場合がある。

6.2.2.6 競技中、銃器を手から離して置くときは、銃弾および／または弾倉を取り除き、機関部を開け、ショットガンにおいては銃を開放してからのみ置くことができる。エアガンにあっては、安全のため蓄気レバーまたは装填口を開けたままにしなければならない。

6.2.2.7 射撃線または射台の前方に作業員がいるときは銃器の取り扱いは許されずセフティフラッグが挿入されていなければならず、ショットガンは抜弾され開放されていなければならない。もしジュリーや射場役員または技術役員が、練習、競技またはファイナル中に射撃線より前に行く必要がある場合、射場長（ＣＲＯ）により認可され、制御されてなければならず、射撃線の前方での行動は、すべての銃がセフティフラッグを挿入した後、ショットガンの場合は抜弾され開放された後にのみ、許可される。

6.2.2.8 射座または射台以外の射場内では、射場役員、レフェリーまたはジュリーの指示による場合を除き、銃器は銃ケースに入れるか、または銃架に立てておかなければならない。

6.2.3 射場内での号令

6.2.3.1 射場長、レフェリーまたは他の適切な射場役員は“ＬＯＡＤ”、“ＳＴＡＲＴ”、“ＳＴＯＰ”、“ＵＮＬＯＡＤ”や他の必要な号令を出す責任がある。射場役員やレフェリーは選手が号令に従っているか、銃器を安全に取り扱っているかを確認しなければならない。

6.2.3.2 銃器や弾倉には、射座、ショットガンでは射台において“ＬＯＡＤ”、“ＳＴＡＲＴ”または“ＲＥＡＤＹ”の号令の後にのみ装填できる。これ以外のときにはショットガン、銃器や弾倉は抜弾されていなければならない。

6.2.3.3 弾倉付きのライフルや５０ｍピストルであっても、装填は一発しかできない。５連発エアピストルを１０ｍエアピストル種目に使用する場合も、装填は一発ずつ行うこと。

6.2.3.4 銃弾、空気銃弾、銃弾の入った弾倉またはショットガンの空薬きょうが銃に接したとき、銃が装填されたとみなされる。“ＬＯＡＤ”の号令が出されるか、または選手が自分の射台にいて自身の射順になるまで、銃弾、空気銃弾または銃弾の入った弾倉を銃器、薬室または銃身の中や上に置いてはならない。

6.2.3.5 選手が“ＬＯＡＤ”または“ＳＴＡＲＴ”の号令の前、“ＳＴＯＰ”または“ＵＮＬＯＡＤ”の号令の後に弾を発射した場合、その安全性が問われるならば、その選手は失格になる場合がある。

6.2.3.6 “ＳＴＯＰ”の号令か信号があった場合、選手はただちに射撃を中止しなければならない。“ＵＮＬＯＡＤ”の号令があった場合、全選手は銃器および弾倉から弾を抜き、安全な状態にしなければならない(エアガンを抜弾するときは、射場役員の許可を得ること)。“ＳＴＡＲＴ”または“ＲＥＡＤＹ”の号令が再び出されたときのみ射撃は再開できる。

6.2.4 安全性の追加要求

6.2.4.1 **空撃ち**とは弾が装填されてない銃器の引金機構を解き放つこと、または空撃ち機構が付いているエアガンで空気などを出すことなく撃発動作をすることを意味する。空撃ち、照準練習は射撃線または指定された場所や方向でのみこのルールに従って許可される。
指定された場所以外または指定された方向と違う方向に向けて空撃ちを行っている選手がいた場

合、ジュリーの多数決により、安全を理由にその選手は失格になることがある。
ジュリーは指定された場所以外でのテストショットさせないように、常に確認しなければならない。

6.2.4.2 エアまたはＣＯ２シリンダーが有効期限内であることは選手の責任である。このことは用具検査でチェックすることができる。

6.2.5 **耳の保護**

6.2.5.1 すべての選手、射場役員ならびに２５ｍ、５０ｍ、３００ｍ射場の射撃線のすぐ近くにいる人々は耳栓、イヤーマフまたは類似の聴力保護用具を使用しなければならない。射場敷地内では、警告が明示され、すべての人々が聴力保護用具を使用できなければならない。選手またはコーチは、ＦＯＰ内では、いかなるタイプの音声拡大装置や受信装置を組み込んだイヤープロテクターは装着してはならない。競技会役員はＦＯＰ内でも音声拡大装置や受信装置を組み込んだイヤープロテクターの装着を許される。聴覚障がいのある選手は、ジュリーの承認を得て、音声拡大装置を身に着けることができる。

6.2.5.2 ショットガン選手が耳の保護具を着けずに、射撃できる状態で射台にいた場合、その選手には、担当レフェリーから１回目の違反として、「警告」（イエローカード）が科せられる。競技中またはＰＥＴにおいて、２回目の違反が発覚した場合、担当ジュリーより１ターゲットの「減点」（グリーンカード）が科せられる（そのラウンドの第１標的がLOSTとなる）。

6.2.6 **目の保護**

すべてのショットガン選手は、射撃中は、強化ガラスなどの射撃眼鏡または類似の目に対する保護用具を使用しなければならない。9.2.7参照

6.3 **標的および標的基準**

6.3.1 **※標的の全般的必要条件**

6.3.1.1 ※ＩＳＳＦ選手権大会のライフルおよびピストル種目で用いられる標的は電子標的（ＥＳＴ）または紙標的であり、ショットガン種目ではクレー標的（通常またはフラッシュ）が用いられる。
注）紙標的の取り扱いに関する特則は「紙標的に関するルール」として、このルールの付則となっている。

6.3.1.2 ＩＳＳＦ選手権大会で使用されるすべての標的はこのルールによって与えられる各得点圏の幅、標的の大きさ、その他規定された値が守られていなければならず、ＩＳＳＦの承認を得なければならない。

6.3.1.3 競技会中に、ＩＳＳＦ代理人またはＩＳＳＦ　ＴＤによりランダムチェックが実施される。

6.3.2 **電子標的の必要条件**

6.3.2.1 ※電子標的はＩＳＳＦによってテストされ、公認されたものだけを使用しなければならない。

6.3.2.2 ＥＳＴにおける精度は弾着の採点において少なくとも小数点得点圏の半分の精度が要求される。紙標的における得点圏の大きさに関する許容範囲はＥＳＴには適用されない。

6.3.2.3 ※すべてのＥＳＴ標的装置は、それぞれの競技に使用される標的の黒圏の大きさ（6.3.4）に相当する黒色の照準エリアおよびその照準エリアを取り囲む無反射の白または黄色がかった白色のエリアが表示されていなければならない。

6.3.2.4 ＥＳＴによって記録された得点は競技用標的（6.3.4）の得点圏の大きさに従って決定されなければならない。

6.3.2.5 ＥＳＴに当たった弾ごとに、その弾の結果としてその位置と得点が射座のモニター上に提示されなければならない。

6.3.2.6 １０ｍＥＳＴでは、発射された弾が標的に当たったかどうかの決定ができるように紙ロールまたは証拠となる他の素材のストリップが使われていなければならない。

6.3.2.7 ＥＳＴシステムのメインコンピューター以外のメモリー（バックアップメモリー）からの各選手の結果のプリントアウトは競技中および競技後すぐに利用できなければならない。

6.3.2.8 ＥＳＴを使用するとき、標的装置は、各ＩＳＳＦ選手権大会に先立ってテクニカルデレゲートの監督のもと、通常の使用条件で正確な採点をしていることを確認するためのチェックを受けなけ

ればならない。

6.3.3 **ＩＳＳＦ標的基準**

標的はこのルールにある得点圏の大きさ、許容範囲、仕様を守らなければならない。

6.3.3.1 ライフルとピストルの標的は整数値で、またはＥＳＴもしくは電子式紙標的採点機を使用する場合には小数値で採点することができる。小数値の得点は、整数値の各得点圏を１０等分した得点圏に、０（例：10.0、9.0など）から９（例：10.9、9.9など）までの小数値を付けて決定する。

6.3.3.2 ※ライフルとピストルの予選および本選は整数値で採点する。ただし、ＩＳＳＦ選手権大会の男子・女子（それぞれジュニアを含む）の１０ｍエアライフル、５０ｍライフル伏射、および１０ｍエアライフルミックスチーム（ジュニアを含む）の予選および本選は、小数値で採点しなければならない。

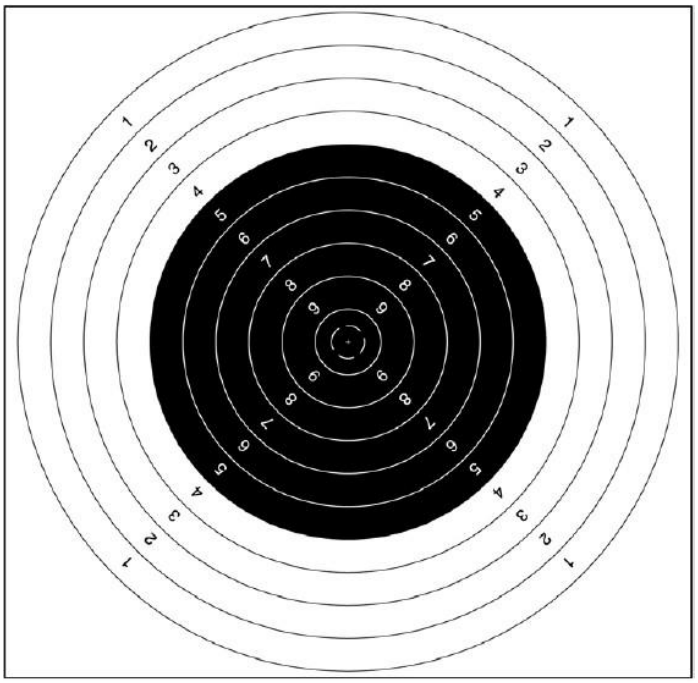
6.3.3.3 ライフルとピストルのファイナルおよびライフルミックスチームの本選とファイナルおよびピストルのミックスチームのファイナルは、このルールに書かれている小数採点に基づくヒットゾーンのヒットーミススコアが使用される２５ｍピストル種目のファイナルを除き、小数値で採点される。

6.3.4　**公式ＩＳＳＦ標的**

6.3.4.1　**※３００ｍライフル標的**

１０点圏	１００mm	（±０．５mm）	５点圏	６００mm	（±３．０mm）
９点圏	２００mm	（±１．０mm）	４点圏	７００mm	（±３．０mm）
８点圏	３００mm	（±１．０mm）	３点圏	８００mm	（±３．０mm）
７点圏	４００mm	（±３．０mm）	２点圏	９００mm	（±３．０mm）
６点圏	５００mm	（±３．０mm）	１点圏	１０００mm	（±３．０mm）

Ｘ圏：５０mm（±０．５mm）
黒点圏（５～１０点圏）: ６００mm（±３．０mm）
圏線の幅：０．５mm ～ １．０mm
標的紙の大きさ：最小１３００mm×１３００mm
（標的紙と同色の的枠を使用する場合は１０２０mm×１０２０mm）
１点～９点の得点はそれぞれの得点圏の中にそれぞれが斜めの対角線をなす位置に印刷される。１０点圏には数字の印刷はない。



３００ｍライフル標的

追 6.3.4.1-2　１５０ｍライフル標的
追 6.3.4.1-3　１００ｍライフル標的
追 6.3.4.1-4　その他ビッグボアライフル競技用標的

6.3.4.2　**※５０ｍライフル標的**

１０点圏	１０．４ｍｍ	（±０．１ｍｍ）	５点圏	９０．４ｍｍ	（±０．５ｍｍ）
９点圏	２６．４ｍｍ	（±０．１ｍｍ）	４点圏	１０６．４ｍｍ	（±０．５ｍｍ）
８点圏	４２．４ｍｍ	（±０．２ｍｍ）	３点圏	１２２．４ｍｍ	（±０．５ｍｍ）
７点圏	５８．４ｍｍ	（±０．５ｍｍ）	２点圏	１３８．４ｍｍ	（±０．５ｍｍ）
６点圏	７４．４ｍｍ	（±０．５ｍｍ）	１点圏	１５４．４ｍｍ	（±０．５ｍｍ）

Ｘ圏：５ｍｍ（±０．１ｍｍ）
黒点圏（３点の一部～１０点圏): １１２．４ｍｍ（±０．５ｍｍ）
圏線の幅：０．２ｍｍ ～ ０．３ｍｍ
標的紙の大きさ：最小２５０ｍｍ×２５０ｍｍ
１点～８点の得点はそれぞれの得点圏の中にそれぞれが垂直・水平をなす位置に印刷される。１０点圏、９点圏には数字の印刷はない。
インサート標的（２００ｍｍ×２００ｍｍ）は使用できる。

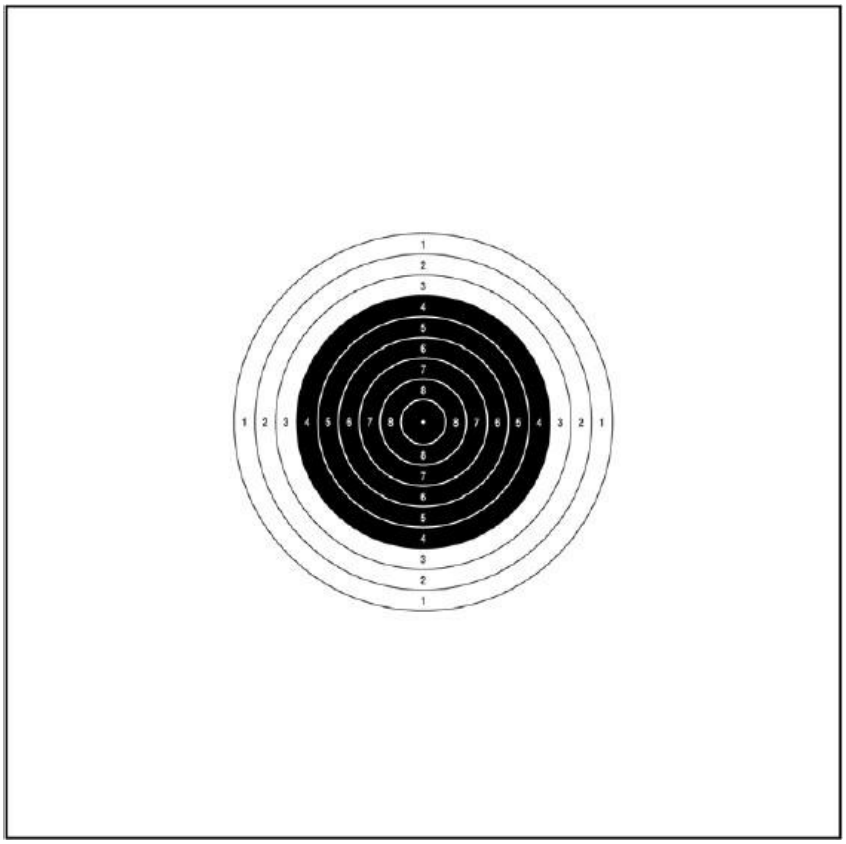


５０ｍライフル標的

6.3.4.3　　**※１０ｍエアライフル標的**

１０点圏	０．５mm	（±０．１mm）	５点圏	２５．５mm	（±０．１mm）
９点圏	５．５mm	（±０．１mm）	４点圏	３０．５mm	（±０．１mm）
８点圏	１０．５mm	（±０．１mm）	３点圏	３５．５mm	（±０．１mm）
７点圏	１５．５mm	（±０．１mm）	２点圏	４０．５mm	（±０．１mm）
６点圏	２０．５mm	（±０．１mm）	１点圏	４５．５mm	（±０．１mm）

Ｘ圏：１０点圏を完全に撃ちぬいた時、エアピストル外線ゲージを用いて決定する。
黒点圏（４～９点圏): ３０．５mm（±０．１mm）
白点で表示される１０点圏：０．５mm（±０．１mm）
圏線の幅：０．１mm ～ ０．２mm
標的紙の大きさ：最小８０mm×８０mm
１点～８点の得点はそれぞれの得点圏の中にそれぞれが垂直・水平をなす位置に印刷される。９点圏には数字の印刷はない。１０点は白点である。
標的を見やすくするために、標的の後ろに使う１７０mm×１７０mmの大きさで、標的の紙質や色に類似した台紙が提供されるべきである。



１０ｍエアライフル標的

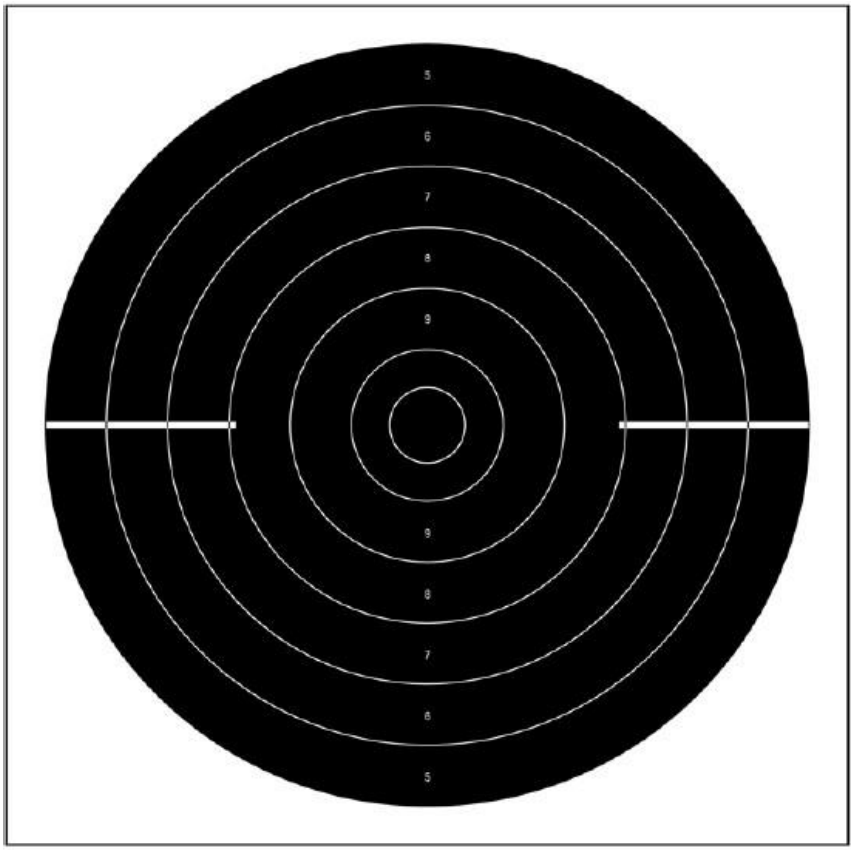
追6.3.4.3-2　　**１０ｍビームライフル標的**

6.3.4.4　　**※２５ｍラピッドファイアピストル標的**

（２５ｍラピッドファイアピストル、２５ｍセンターファイアピストルと２５ｍピストルの速射ステージ用）

１０点圏	１００ｍｍ	（±０．４ｍｍ）	７点圏	３４０ｍｍ	（±１．０ｍｍ）
９点圏	１８０ｍｍ	（±０．６ｍｍ）	６点圏	４２０ｍｍ	（±２．０ｍｍ）
８点圏	２６０ｍｍ	（±１．０ｍｍ）	５点圏	５００ｍｍ	（±２．０ｍｍ）

Ｘ圏：５０ｍｍ（±０．２ｍｍ）
黒点圏（５～１０点圏）: ５００ｍｍ（±２．０ｍｍ）
圏線の幅：０．５ｍｍ ～ １．０ｍｍ
標的紙の大きさ：最小　幅５５０ｍｍ　高さ５２０ｍｍ ～ ５５０ｍｍ
５点～９点の得点はそれぞれの得点圏の中に垂直をなす位置のみに印刷される。１０点圏には数字の印刷はない。数字の縦の長さは約５ｍｍ、太さは約０．５ｍｍでなければならない。黒点圏の左右の方向には数字に代わって白色の水平照準ラインがある。このラインは長さ１２５ｍｍ、幅５ｍｍとする。



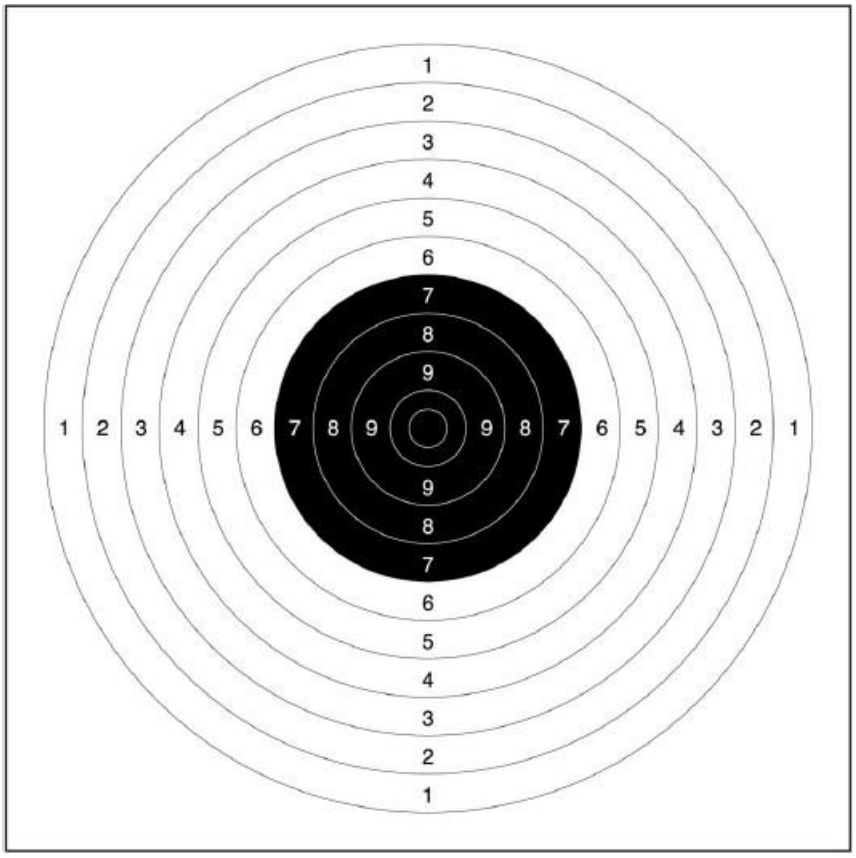
２５ｍラピッドファイアピストル標的

6.3.4.5　　**※２５m精密／５０mピストル標的**

（５０mピストル、２５mスタンダードピストル、２５mセンターファイアピストルと
２５mピストルの精密射撃ステージ用）

１０点圏	５０mm	（±０．２mm）	５点圏	３００mm	（±１．０mm）
９点圏	１００mm	（±０．４mm）	４点圏	３５０mm	（±１．０mm）
８点圏	１５０mm	（±０．５mm）	３点圏	４００mm	（±２．０mm）
７点圏	２００mm	（±１．０mm）	２点圏	４５０mm	（±２．０mm）
６点圏	２５０mm	（±１．０mm）	１点圏	５００mm	（±２．０mm）

Ｘ圏：２５mm（±０．２mm）
黒点圏（７～１０点圏): ２００mm（±１．０mm）
圏線の幅：０．２mm ～ ０．５mm
標的紙の大きさ：最小　幅５５０mm　高さ５２０mm～５５０mm
１点～９点の得点はそれぞれの得点圏の中のそれぞれが垂直・水平をなす位置に印刷される。１０点圏には数字の印刷はない。数字の縦の長さは約１０mm、太さは約１mmで、規定の距離から通常の監的スコープで容易に読み取れるものでなければならない。

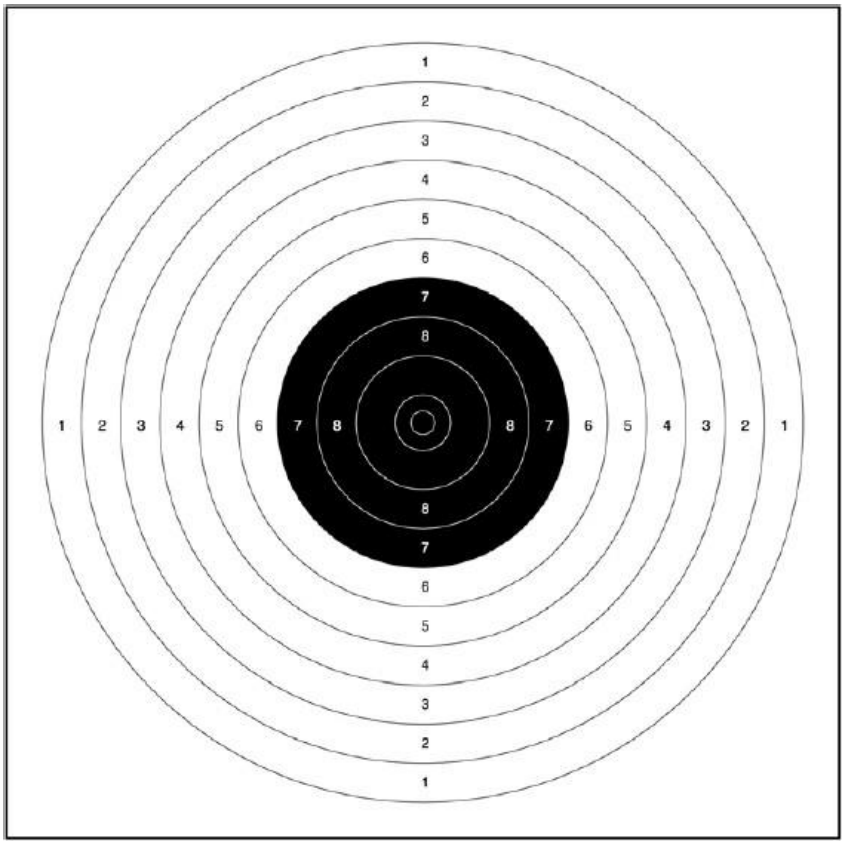


２５m精密／５０mピストル標的

6.3.4.6　**※１０ｍエアピストル標的**

１０点圏	１１．５mm	（±０．１mm）	５点圏	９１．５mm	（±０．５mm）
９点圏	２７．５mm	（±０．１mm）	４点圏	１０７．５mm	（±０．５mm）
８点圏	４３．５mm	（±０．２mm）	３点圏	１２３．５mm	（±０．５mm）
７点圏	５９．５mm	（±０．５mm）	２点圏	１３９．５mm	（±０．５mm）
６点圏	７５．５mm	（±０．５mm）	１点圏	１５５．５mm	（±０．５mm）

Ｘ圏：５．０mm（±０．１mm）
黒点圏（７～１０点圏): ５９．５mm（±０．５mm）
圏線の幅：０．１mm ～ ０．２mm
標的紙の大きさ：最小１７０mm × １７０mm
１点～８点の得点はそれぞれの得点圏の中のそれぞれが垂直・水平をなす位置に印刷される。９点圏、１０点圏には数字の印刷はない。数字の縦の長さは２mm以内でなければならない。



１０ｍエアピストル標的

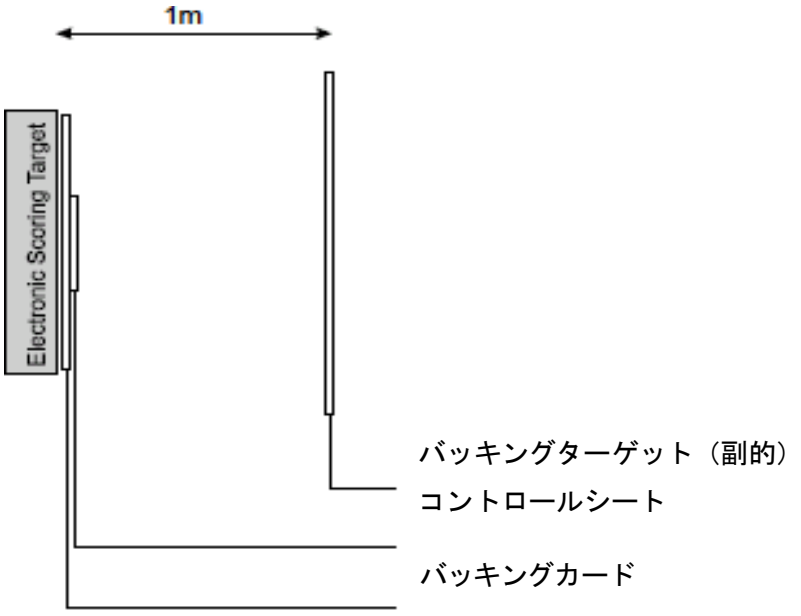
追 6.3.4.6-2　**ビームピストル（デジタル）標的**
追 6.3.4.6-3　**ビームピストル（ビーム）標的**

6.3.5　**標的コントロールシステム**

ライフルおよびピストル種目では、競技会運営の助けとして標的採点およびコントロールシステムを使用しなければならない。

6.3.5.1　**※ＥＳＴ標的コントロールシステム**

ＥＳＴ用のコントロールシステムとして、バッキングターゲット（副的）、バッキングカード、コントロールシートが使われる（図参照）。



6.3.5.2　**５０ｍおよび３００ｍＥＳＴのバッキングターゲット（副的）**

誤射の位置判定のため、標的の後方できれば 0.5m～１mの位置に設置されたバッキングターゲットを使用しなければならない。標的とバッキングターゲットとの距離は正確に測定され、記録されなければならない。この距離は可能な限り全標的で同じでなければならない。

6.3.5.3　**２５ｍＥＳＴのバッキングターゲット（副的）**

ａ）すべての２５ｍピストル種目において、標的を外した弾痕の特定を助けるためにバッキングターゲットが使用されなければならない。

ｂ）バッキングターゲットの大きさは、最小限、２５ｍピストル標的枠（５的分）の巾と高さをカバーするものでなければならない。バッキングターゲットは標的の１ｍ後方に、すべて同じ距離で設置されるべきである。バッキングターゲットは標的と標的の間に撃ち込まれた弾を認識するために、横に連続しているか、あるいは枠と枠の間にすき間のないものでなければならない。

ｃ）２５ｍＥＳＴ用のバッキングターゲットは標的の色に似た中間色の非反射紙で作られていなければならない。

ｄ）２５ｍ種目では選手ごと、ステージごとに新しいバッキングターゲットが提供されなければならない。

6.3.5.4　**２５ｍＥＳＴのコントロールシート**

ＥＳＴの直後の範囲はコントロールシートによって覆われていなければならない。新しいコントロールシートが選手ごと、ステージごと供給されなければならない。もしコントロールシートの外に弾痕があった場合、コントロールシートが取り外される前にコントロールシートとバッキングカードの弾痕の位置関係を記録しておかなければならない。

6.3.5.5　**５０ｍおよび３００ｍＥＳＴのバッキングカードとコントロールシート**

すべての５０ｍおよび３００ｍＥＳＴの背面にはバッキングカードが装着されていなければならない。小形の交換可能なコントロールシートがバッキングカードに取り付けられているべきである。コントロールシートまたはバッキングカードは各射群ごとに交換され、回収されなければならない。もしコントロールシートの外に弾痕があった場合、コントロールシートが取り外される前にコントロールシートとバッキングカードの弾痕の位置関係を記録しておかなければならな

い。

6.4 ※射場とその他設備

6.4.1 全般的必要条件

6.4.1.1 ＩＳＳＦ選手権大会における射場設置の最小必要条件はＧＲ3.6.1 に示すとおりである。それらの条件は最小限のものであり、ライフル／ピストルの大規模なワールドカップ大会においては、 １０m射場、５０m射場ともに８０射座を推奨する。

6.4.1.2 世界選手権大会やオリンピックでは独立したライフル／ピストル種目のファイナル射場が要求される。ＩＳＳＦとしてはワールドカップにおいても独立したファイナル射場が利用できることを推奨する。

6.4.1.3 大陸連合は大陸選手権大会における最小限の射場必要条件を決めておかなければならない。

6.4.1.4 トラップ射場とスキート射場は合体させることができる。独立したダブルトラップ射場が提供できない場合はトラップ射場をダブルトラップ射場に転用しなければならない。できるならば、トラップ、ダブルトラップ、スキートのファイナルは同じ射場で行われるべきである。

6.4.1.5 ライフルおよびピストル射場で選手、役員、観客が使用する場所は日光、風、雨を防ぐ物で覆われていなければならない。これらの覆いは特定の射座や射場の一部に明らかに有利となるものであってはならない。

6.4.1.6 ＩＳＳＦは、新設射場においては障がい者にも利用可能なものとすることを推奨する。既存の射場においては障がい者が利用可能となるように改修すべきである。

6.4.1.7 世界選手権大会やオリンピック大会に使用される射撃場は少なくとも１年前に完成していることが望ましい。

6.4.1.8 オリンピック大会、ＩＳＳＦ世界選手権大会、ＩＳＳＦワールドカップ大会のライフルおよびピストル種目の予選、本選、ファイナルではＩＳＳＦによって公認された電子標的（ＥＳＴ）が使用されなければならない。電子標的システムには競技中の途中経過の成績による順位表を示すディスプレイと観客のために各選手の弾痕と得点を映し出すモニターまたはビデオボードが含まれていなければならない。

6.4.1.9 ※テクニカルデレゲートは、射場およびその他の設備がＩＳＳＦルールに適合し、選手権大会を実施できる状態に整えられていることを確認するための検査に責任を負う。テクニカルデレゲートは、組織、射場および設備の検査に「テクニカルデレゲート用チェックリスト」（ＩＳＳＦ本部から入手できる）を使用すべきである。

6.4.1.10 テクニカルデレゲートは、射距離と標的の規格を除き、ＩＳＳＦの主旨と精神に反するものでなければ若干の規格変更を承認してもよい。

6.4.2 全般および運営上の設備

次の設備が設置されているかまたは射撃場の近くになければならない。

ａ）選手休憩所
ｂ）本選射場およびファイナル射場の近くにある選手のための更衣室
ｃ）ＩＳＳＦ役員とジュリーの利用するミーティングルーム
ｄ）組織委員会の事務室と執務室
ｅ）ＲＴＳ（成績、計時および採点）業務のための、十分な保管設備を備えた業務室。
ｆ）各射場にＲＴＳと成績表作成のためのコントロール室
ｇ）すべてのライフル、ピストルおよびショットガン射場に空撃ちまたはウォームアップのための場所
ｈ）すべての１０m射場での選手やコーチが利用可能な圧縮空気の提供。圧縮空気タンクは転倒防止のため壁や他の構造物に結び付けられていなければならない。
ｉ）公式記録や告知を掲示するためのメインスコアボード１面および競技予定や速報を掲示するための射場スコアボードを射場ごとに１面。さらに選手休憩所にもスコアボードがあるべきである。
ｊ）安全な銃器保管庫。
ｋ）更衣室を備えた用具検査室。
ｌ）適切な作業台とバイスを備えた銃器修理店舗。
ｍ）銃器や用具メーカーが製品サービスを行うための無料仮店舗。
ｎ）商品展示用のスペースを利用できるようにすべきである。出店料金を課することができる。

ｏ）安全な食事や軽食・飲み物を提供する食堂または施設。
ｐ）十分な数のトイレと手洗い所。
ｑ）無線インターネットおよび電子メール通信サービス。競技会進行（成績提供、ＩＳＳＦ－ＴＶ、管理運営）に関するものと一般用は別々の回線としなければならない。
ｒ）表彰会場またはファイナル射場に設置できる可搬式の表彰台および背景幕。
ｓ）メディア、ラジオ、テレビ取材者のための設備。
ｔ）トイレを備えたアンチドーピングコントロール施設。
ｕ）適切な医療施設
ｖ）駐車場
ｗ）ショットガンファイナルレンジ近くの選手準備場所

6.4.3 **１０ｍ、２５ｍ、５０ｍおよび３００ｍのライフルおよびピストル射場の全般基準**

6.4.3.1 新しく２５ｍ、５０ｍおよび３００ｍの屋外射場を建設する場合は、できる限り競技の間、選手の背後に太陽が位置するように設計されるべきである。射場設計は標的上に影が入らないように配慮しなければならない。

6.4.3.2 射場には標的線と射撃線が設置され、それらは平行でなければならない。

6.4.3.3 射場の設計と建設は次の特徴を持っているとよい。
ａ）必要ならば、射場の周囲に安全壁をめぐらせてもよい。
ｂ）暴発等による射撃場からの流れ弾に対する安全策として、射撃線と標的線との間に、射場を横断するバッフルを設置することもできる。
ｃ）１０ｍ射場は屋内でなければならない。
ｄ）２５ｍ、５０ｍ射場については屋外設置であるべきであるが、法的な要請、気候による必要性がある場合またはファイナル射場は例外的に屋内または閉鎖された環境下に設置できる。
ｅ）３００ｍ射場では少なくとも２８５ｍの距離を屋外とすべきである。
ｆ）５０ｍ射場では少なくとも３５ｍの距離を屋外とすべきである。
ｇ）２５ｍ射場では少なくとも１２．５ｍの距離を屋外とすべきである。
ｈ）２５ｍおよび５０ｍファイナル射場は屋内射場でも屋外射場でもよい。

6.4.3.4 射座の後方に射場役員およびジュリーが活動するために十分な空間を設けなければならない。観客のための空間も設けなければならない。この空間は少なくとも射撃線の後方７．０ｍ以上の位置に設置された適当な柵などによって選手や役員の活動する空間とは区別されなければならない。

6.4.3.5 ※各射場の両端に、選手や役員が時刻をはっきり見ることができる大型の時計（カウントダウン時計を推奨する）を備えなければならない。ファイナル射場の準備エリアにも時計を備えなければならない。射場の時計は成績用コンピューターと同期させ、すべての計時装置が同じ時刻を示すようにしなければならない。ライフルとピストルのファイナル射場には、各射撃の残り時間を示すカウントダウン時計を備えなければならない。

6.4.3.6 標的枠または標的装置には正対する射座と同じ（左から始まる）番号が付けられていなければならない。それらの番号は正常な視覚をもつ人が通常の条件で容易に確認できる大きさでなければならない。それらの番号は対照的な色で交互に塗られているべきである。２５ｍ射場の５的の標的グループは左から順に“Ａ”から始まる文字がつけられなければならない。２５ｍ射場の各標的は、ＡとＢグループの標的には１１から２０を、ＣとＤグループの標的には２１から３０というように番号が付けられなければならない。

6.4.4 **３００ｍライフル、５０ｍ射場の風旗**

6.4.4.1 射場の空気の動きを示すために綿布製またはポリエステル製で重量約１５０ｇ／m^2 の長方形の風旗が設置されているべきである。風旗の高さは弾の飛行や選手が標的を見る際の妨げになることなく弾道線の中心域に対応しなければならない。風旗の色は背景に対し目立つ色でなければならない。２色を使用したものや縞模様の風旗の設置は許されるし、推奨されるものである。

6.4.4.2 **風旗の大きさと設置場所**

射　　場	設　置　距　離	風 旗 の 大 き さ
５０m射場	１０mおよび３０m	５０mm×４００mm
３００m射場	５０m	５０mm×４００mm
	１００mおよび２００m	２００mm×７５０mm

6.4.4.3 ※５０m射場では、風旗は射撃線から規定の距離の位置に各射座を分ける射撃線より標的線までの仮想線上に設置される。風旗はバッフルの選手側の位置に設置されなければならない。

6.4.4.4 ※５０m射場を屋内１０m射場として使用する場合は、風旗が風を提示できるように１０m地点の風旗は射屋から十分離れた遠くに設置されなければならない。

6.4.4.5 ※３００m射場では、風旗は射撃線から上記の距離の位置に４射座ごとに次の射座との境界線となる射撃線より標的線までの仮想線上に設置される。風旗はバッフルの選手側の位置に設置されなければならない。

6.4.4.6 選手は、準備試射時間の始まる前に、風旗が標的を見えにくくしているかを確認しなければならない。風旗の位置は射場役員またはジュリーのみが変更できる。

6.4.4.7 個人の用意した風向計等の使用および選手による風旗の位置の変更は禁止される。

6.4.5 **射距離**

6.4.5.1 射距離は射撃線から標的面までの距離を測定したものでなければならない。

6.4.5.2 ※射距離は以下の許容差を条件として、できる限り正確でなければならない。

１０m射場	±０．０５m
２５m射場	±０．１０m
５０m射場	±０．２０m
３００m射場	±１．００m

6.4.5.3 ５０mのライフル、ピストル、ムービングターゲット兼用射場の許容差
略

6.4.5.4 ※射撃線は明瞭に示されていなければならない。射距離は標的線から射撃線の選手側の端までの距離が計測されなければならない。選手の足または伏射姿勢での選手の肘を射撃線上に置いたり、射撃線を越えて標的側に置くことはできない。

6.4.6 **標的中心位置**

標的中心位置とは標的の１０点圏の中心の位置を計測したものでなければならない。

6.4.6.1 **標的中心の高さ**

標的の中心は射座の床面の高さから測って次の表の通りでなければならない。

射　場	基準の高さ	許　容　差
３００m射場	３．００m	±４．００m
５０m射場	０．７５m	±０．５０m
２５m射場	１．４０m	＋０．１０m／－０．２０m
１０m射場	１．４０m	±０．０５m

標的群または射場内のすべての標的の中心の高さは同じでなければならない（±１ｃｍ）。

6.4.6.2 ※３００m、５０m、１０mライフル、ピストル射場における標的中心位置の水平方向での許容差

３００m、５０m、１０mでの標的の中心は、正対する射座の中心におかれていなければならない。射座の中心の射撃線から直角方向での標的の中心線との水平方向の許容差は

射　　場	中心から両方向への最大許容差
３００m射場	６．００m
５０m射場	０．７５m
１０m射場	０．２５m

6.4.6.3　５０ｍおよび１０ｍムービングターゲット射場と２５ｍピストル射場における射座の位置の水平方向での許容差

射座の中心は次の位置になければならない。

ａ）ラピッドファイア射場では５的からなる標的グループの中心。
ｂ）ムービングターゲット射場では開口部の中心。
ｃ）射座の中心は、正対する標的の中心に置かれていなければならない。標的の中心線から直角方向での射座の中心線との水平方向の許容差は

射　　場	両方向への最大許容差
２５ｍ射場	０．７５ｍ

6.4.7　**※ライフルおよびピストル射場の射座の全般基準**

射座は振動したり動いたりしない安定した、堅い、頑丈な構造のものでなければならない。射撃線から後方約１．２０ｍまでの部分は全方向に対し水平でなければならない。それより後方の部分は水平または後方に向かって数ｃｍの勾配をつけたもののどちらかでなければならない。

6.4.7.1　射撃テーブル上から射撃を行う場合、そのテーブルは長さ約２．２０ｍで幅０．８０ｍから１．００ｍ、頑丈で安定したもので、移動ができるものでなければならない。射撃テーブルは後方へ最大１０ｃｍ傾斜していてもよい。

6.4.7.2　**※射座の備品**　射座には次のものが備えられていなければならない。

ａ）高さ０．７０ｍ～１．００ｍの机または台１脚。ライフル選手はその高さを変えるために卓上にいかなる道具や物を置くことはできない。
ｂ）伏射、膝射用のマット１枚。選手は射場から提供されたマットを改変してはならない。マットの前部分約５０ｃｍ×８０ｃｍの部分は５０mm以内の厚さで圧縮性のある材質のもので、なおかつ服装検査用の測定器で測ったとき１０mm以上の厚さのものでなければならない。マットの他の部分は最大で５０mm最低でも２mmの厚さでなければならない。マット全体は最小でも８０ｃｍ×２００ｃｍの大きさがなければならない。別の方法として、薄いマットと厚いマットの２種類を用意してもよいが、２枚を合わせた寸法は上記の寸法を超えてはならない。　私物のマットの使用は禁止される。
ｃ）本選ラウンドにおける選手用の椅子または腰掛け１脚；ファイナル射場においては射座の中または近くに選手用の椅子または腰掛けを置いてはならない。
ｄ）新設の射場では射撃線前方に位置する防風スクリーンの設置は推奨されない。しかし風の条件ができるだけ射場全体で均一になるようにする必要性があるときは、防風スクリーンを使用してもよい。
ｅ）３００ｍ射場の射撃線で仕切りスクリーンを設置する必要がある場合、そのスクリーンは軽いフレームに向こう側が透けて見える材質で作られるべきである。スクリーンは射撃線の前方へ少なくとも５０ｃｍは突出し、約２．００ｍの高さがあるべきである。

6.4.8　**※３００ｍ射場の射座基準**

射座は幅１．６０ｍ以上、長さ２．５０ｍ以上でなければならない。射座幅を縮小できるのは、伏射姿勢の選手が隣の選手を妨げることなく左脚を隣の射座に置けるように仕切りスクリーンが設置されている場合に限る。

6.4.9　**５０ｍ射場の射座基準**

ａ）射座は幅１．２５ｍ以上、長さ２．５０ｍ以上でなければならない。
ｂ）射座は、３００ｍ射撃と兼用されるならば、幅１．６ｍ以上でなければならない。

6.4.10　**※１０ｍ射場の射座基準**

ａ）※射座の幅は１．００ｍ以上なければならない。
ｂ）机または台の選手に近い側の端は、１０ｍ射撃線の１０ｃｍ前方に位置しなければならない。
ｃ）※５０ｍ射場と兼用の場合、射座の幅は最小１．２５ｍなければならない。

6.4.11　**２５ｍピストル射場の射場および射座基準**

6.4.11.1　２５ｍ射場には風、雨、日光や薬莢の射出から選手を十分に防護するための屋根とスクリーンが設置されなければならない。

6.4.11.2　射座には床面から最低２．２０ｍの高さの屋根または覆いをかけなければならない。

6.4.11.3　２５ｍ射場は５的からなる標的グループ２つで構成されるセクションに分けられていなければならない。２つの５標的グループを１ベイという。

6.4.11.4　２５ｍ種目においては、ラピッドファイアピストル種目では５的１グループにつき選手１名を配置し、２５ｍピストル、２５ｍセンターファイアピストルおよび２５ｍスタンダードピストルの各種目では５的１グループに選手４名（標的1-2-4-5）、３名（標的1-3-5）、または例外的に５名（全標的）を配置しなければならない。

6.4.11.5　２５ｍ射場は間に仕切りのない構造または防護通路で分割されている構造のどちらも許される。仕切りのない構造の射場では標的役員は射撃線側から標的の位置までその都度移動する。防護通路は、使用する場合、射場関係者の標的線への安全な往復が保障されなければならない。防護通路使用時には、確実な安全コントロールシステムが提供されなければならない。

6.4.11.6　各セクションは全セクションの集中制御も各セクションの独立運用もできるようになっているべきである。

6.4.11.7　射座の広さは次の通りでなければならない。

種　目	幅（左右）	奥行（前後）
２５ｍラピッドファイアピストル	１．５０ｍ	１．５０ｍ
２５ｍピストル、２５ｍセンターファイアピストルおよび２５ｍスタンダードピストル	１．００ｍ	１．５０ｍ

6.4.11.8　射座は排出された薬莢から選手を保護するため、また射場役員が監視できるように透き通ったスクリーンで仕切られていなければならない。そのスクリーンは射座間に置かれるか吊り下げられ、排出された薬莢が他の選手に当たるのを防げるほど十分な大きさがなければならない。スクリーンは役員や観客から選手を見えにくくしてはならない。

6.4.11.9　４５°参照線は射座の左側または右側の射場の壁またはセクションの分割壁に設置されるべきである。

6.4.11.10　各射座には次の備品が備えられていなければならない。

ａ）移動または調整可能な大きさ約０．５０ｍ×０．６０ｍで高さ０．７０ｍ～１．００ｍの机または台１脚。

ｂ）本選中、選手は最大高が１．００ｍになるようにテーブルの上に用具やサポートスタンドを置くことができる。

ｃ）ファイナル中、ピストル選手は合計高が１．０ｍを超えない範囲でテーブルの上にアジャスタブルサポートスタンド(8.6.3)を置くことができる。

ｄ）本選ラウンドにおける選手用の椅子または腰掛け１脚；ファイナル射場においては射座の中または近くに選手用の椅子または腰掛けを置いてはならない。

6.4.11.11　**機能確認射場**　選手が銃器の機能テストを行えるように、標的の貼られていない特別に指定され監督された機能確認射場が用意されなければならない。

6.4.12　**２５ｍピストル種目の標的露出時間（正面静止時間）は、**

ａ）２５ｍラピッドファイアピストル：８秒、６秒、４秒

ｂ）２５ｍスタンダードピストル：１５０秒、２０秒、１０秒

ｃ）２５ｍピストルと２５ｍセンターファイアピストルの速射ステージ：１発ごとに３秒間正面を向き、次の７秒間（±０．１秒）は側面を向く。

6.4.13　**２５ｍ電子標的システムの基準**

電子標的を使用する場合、計時装置は規定の採点時間に合計０．３秒を加えるように設定しなければならない。これは、規定の射撃時間に許容差の＋０．１秒と追加時間の＋０．２秒を加えたものである。追加時間は、紙の回転標的では有効なスキッドショットとなる弾を、電子標的でも同じ基準で採点するためのものである。グリーンライトは規定時間＋０．１秒間点灯し、電子標的はその後の追加時間０．２秒間も有効弾の記録と採点を続けなければならない。現在、多くの２５ｍＥＳＴシステムでは、レッドライトおよびグリーンライトの両方の表示が標的枠の上部に配置されている。

6.4.14　**※屋内射場の要求照度（ルクス）**

屋内射場	全　　体	標 的 面	
	推奨最小値	最小値	推奨値
１０ｍ	５００	１５００	＞１８００
２５ｍ	５００	１５００	＞２５００
５０ｍ	５００	１５００	＞３０００

ファイナル射場は全体の最少照度が５００ルクスで射撃線の最少照度が１０００ルクスでなければならない。新設射場では射撃線の照度は１５００ルクス付近を推奨する。

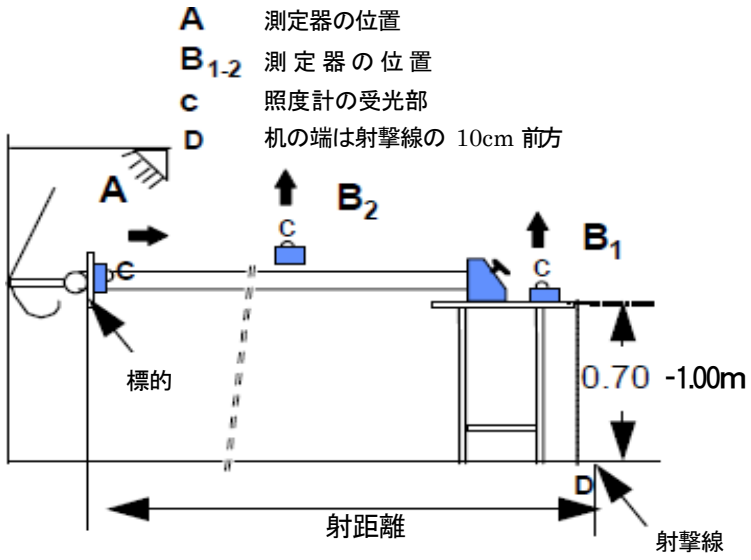
6.4.14.1　※すべての屋内射場では標的や射座に影などが生じないような十分でまぶしくない光度の人工照明が設置されなければならない。標的の後方は反射のない、明るく均一な中間色の背景にしなければならない。

6.4.14.2　外部照明による標的面の照度は、測定器で測定し、標的の高さで射座に向いた位置で測らなければならない（ Ａ ）。内部照明による標的面の照度の測定は、標的表面からの反射光を測定することで行われなければならない。ＬＥＤ画面に標的の照準マークを表示する承認済みＥＳＴシステムは、標的面の照度を測定する際の光量が大幅に低くなる。

6.4.14.3　光測定、特にＬＥＤ照明においてはルーメンで測定することもできる。

6.4.14.4　射場全体の照度の測定は、測定器で測定し、射座（Ｂ１）と射座と標的線の中間点（Ｂ２）で測定器を天井の照明に向けて測定しなければならない。

屋内射場の照度測定



6.5　**※ゲージと測定器具**

ａ）各組織委員会はＩＳＳＦ選手権大会の開催期間中、用具検査に使用するゲージや測定器具など道具一式を用意しなければならない。

ｂ）用具検査を実施する上で必要な用具検査器具の詳しいリストとそれらの器具の仕様と性能の表はＩＳＳＦ本部に用意してある。

ｃ）ＩＳＳＦテクニカルデレゲートまたは用具検査ジュリーのチェアパーソンは競技会に先立ってすべてのゲージおよび測定器具を検査し承認しなければならない。

ｄ）用具検査器具の検査に使用する校正用試験器具はＩＳＳＦ本部から入手できる。この校正用試験器具を用いて、毎日の検査開始前、および競技後検査で失格を検討する場合に、検査器具を校正しなければならない（校正報告様式はＩＳＳＦ本部から入手できる）。

ｅ）選手の衣服等の厚さ、固さ、柔軟性の検査に用いる測定器具はこのルール（下記 6.5.1）に従って製造されていなければならず、なおかつＩＳＳＦ技術委員会によって承認されていなければならない。

6.5.1 **厚さ測定装置**



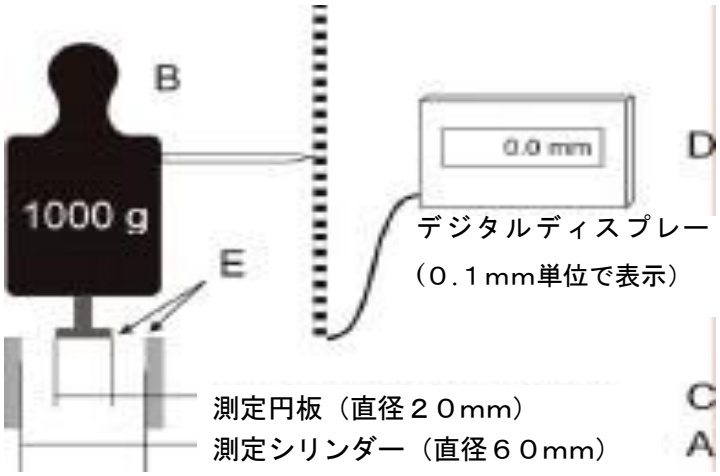
服装、靴の厚さを測定する装置は１/１０ｍｍ（０．１ｍｍ）まで測定可能なものでなければならない。測定は５．０ｋｇの重さをかけた状態で行われなければならない。測定装置には直径３０ｍｍの平らな円盤が２枚向かい合わせに装着されていなければならない。

6.5.2 **固さ測定装置**

服装の固さを測定する装置は１/１０ｍｍ（０．１ｍｍ）まで測定可能なものでなければならず、以下の寸法を満たさなければならない。

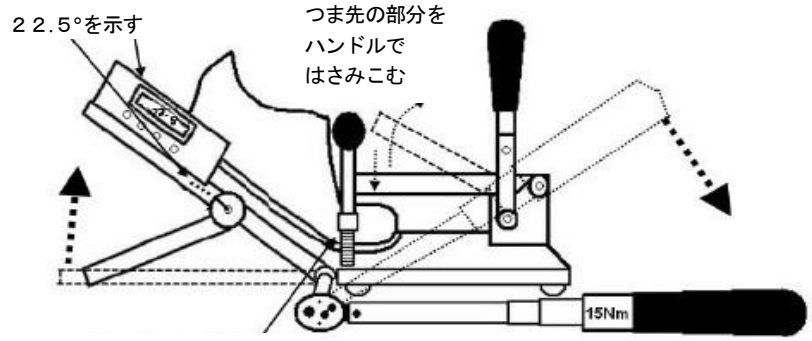
A	測定シリンダー	直径６０mm
B	測定おもり	１０００ｇ（取っ手、測定円板Ｃを含む）
C	測定円板	直径２０mm
D	デジタルディスプレー	０．１mm単位で表示
E	測定円板（C）と測定シリンダー（A）の縁の丸みは、最大で半径０．５mmを超えてはならない。	

・固さの測定は、測定シリンダー“A”の上に引っ張ったりすることなく生地/素材を水平に置かなければならない。
・その上から測定円板“C”で測定おもり“B”の重量をかける。



6.5.3 **靴底の柔軟性測定装置**

靴底の柔軟性測定に用いる装置は、靴底に上方への正確な圧力（１５Ｎm）を加えた場合の柔軟性を、靴底のなす角度として正確な測定が可能でなければならない。



靴の屈曲点　　トルクハンドルを下方向に押すことにより靴を載せたプラットフォームが持ち上げられる。１５Ｎmの力をトルクレンチで加え、トルクレンチがカチッと音を発する前に示されていた角度を読みとる。

6.6　**※選手権大会の運営**

6.6.1　**選手権大会のプログラムとスケジュール**

ＩＳＳＦ選手権大会の運営は、ＩＯＣまたは適切な大陸ＮＯＣ連合の憲章や規定に従って実施されるオリンピック大会や大陸大会の射撃選手権大会の運営を除き、このルールに従って実施されなければならない。

6.6.1.1　**公式大会プログラム**　　ＩＳＳＦ事務局は標準的な大会プログラムの提供および選手権大会の前年の１１月に完成させるように各組織委員会と公式大会プログラムの準備に協力をする。公式大会プログラムは大会への参加要請、スケジュール、公式シンボルおよびロゴ、参加申込書の様式などを含み、それらはＩＳＳＦのウェッブサイトに掲載されることになり、組織委員会は公式大会プログラムが完成したらできるだけ早くそれを発行し、すべてのＩＳＳＦの会員連盟に送付しなければならない。ＩＳＳＦＴＤは組織委員会とともに選手権大会の全般情報を作成し、その選手権大会の開始６か月前までにオンラインにて公表することが望ましい。

6.6.1.2　**公式スケジュール**　　ＩＳＳＦ事務局、組織委員会およびその大会のテクニカルデレゲートは各選手権大会の詳細な公式スケジュールを準備しなければならない。選手権大会のスケジュールには、公式到着日、１日以上の公式練習または競技前練習（ＰＥＴ）、競技実施の必要日数と公式出発日が含まれているべきである。世界選手権大会の公式練習日、開閉会式を含めたスケジュールは２０日間を超えないようにすべきである。組織委員会およびＩＳＳＦの選択として、公式練習日（ＰＥＴ）以前に追加の非公式練習日として射場を開けることはできる。

6.6.1.3　公式スケジュールは開会式、非公式練習、競技前練習、予選の射群、本選の射群またはショットガンのラウンド、代表者会議、用具検査、ファイナル出頭時刻、ファイナルおよび表彰式の日時が入っていなければならない。ISSF選手権大会のプログラム作成において、本選終了からファイナル出頭時刻まで最低1時間30分を確保しなければならない。テクニカルデレゲートによって承認されたスケジュール変更は最終参加締切りの後できるだけ早く作成され、全参加選手団に配布されなければならない。

6.6.1.4　**参加資格および制限**　国内競技連盟は、ＩＳＳＦ選手権大会で、表彰対象となる選手を各国各種目最大３名参加させることができる。加えてワールドカップ大会では、組織委員会は、ランキングポイント獲得のみ（ＲＰＯ）、オリンピックＭＱＳ資格を争う（ＭＱＳのみ）または表彰対象外（ＯＯＣ）の参加者として各国各種目最大２名の追加選手を受け入れることができるが、その際、その国のその種目の参加者が３名を超えていることが前提となる。

6.6.1.5　**最大参加数**　組織委員会とテクニカルデレゲートは各種目の最大参加数（射座数）をプログラムの中で提示しなければならない。種目の最大参加数を超えた最終参加者は待機リストに載せられ、遅れた参加の締め切り（Late Entry Deadline）の前に参加枠の空きが出た場合に限り受け入れ られる。

6.6.2　**代表者会議（テクニカルミーティング）**

競技会ディレクターとテクニカルデレゲートによって進行される代表者会議は、競技の詳細やスケジュールの変更をチームリーダーに知らせるために、競技開始日の前日に実施する予定がされていなければならない。参加チームにとってより有益であるならば、ショットガン種目のための代表者会議を別に設定することができる。

6.6.3　**※練習**

6.6.3.1　**公式練習**　公式練習は、時間が許すならば、プログラムの中に割り当てられる。

6.6.3.2　**競技前練習（ＰＥＴ）**　　競技前練習は各個人種目の予選または本選の前に行われなければならない。ライフル、ピストル、ムービングターゲットの個人種目については、各選手が自分の競技する射

座で１射群あたり４０分以上（ラピッドファイアピストルにおいては１射群あたり３０分以上、ムービングターゲットにおいては１射手あたり１５分以上）の練習がその種目の競技実施の可能な限り前日にできなければならない。この練習時間は公式練習に追加されるものである。ミックス種目が同様の個人種目の後に続いてある場合、競技実施予定に空き時間があるときには、射座を指定しない形式での競技前練習を予定することができる。もしミックス種目のＰＥＴがプログラム内で実施できるときは、３０分以上が与えられるべきである。

6.6.3.3 **非公式練習**　公式練習および競技前練習に加えて、射場が空いているならば、選手は追加の非公式練習の機会を得られるべきである。通常、到着日にも設定される。

6.6.3.4 電子トレーニング／追跡装置

電子トレーニング／追跡装置は、競技前練習（ＰＥＴ）中、競技中（予選、本選、ファイナル）には使用できないが、公式および非公式練習中には使用できる。

6.6.4 **参加と参加確認**

各国連盟は公式到着日の３０日前の最終参加締切りまでにＩＳＳＦオンライン登録サービスに参加申込書を送付しなければならない（ＧＲ3.8.3.2）。

ａ）**遅れた参加の申し込み**は、追加の罰金の支払いと空き射座があれば、公式到着日の３日前まで提出することができる（ＧＲ3.8.3.3）。

ｂ）組織委員会に対する**参加確認**と参加料の支払いは、参加証明書の提出とともに、到着時にチームリーダーが完了しておかなければならない（ＧＲ3.8.4.1）。

ｃ）参加者の変更はＧＲ3.8.3.4 に従ってのみ行うことができる。参加者の変更は変更の生じる種目の競技前練習（ＰＥＴ）の行われる前日の正午１２時までに完了しなければならない。

6.6.5 **射座割表**

ａ）ライフルおよびピストル種目の射座割表は各種目の競技前練習の行われる前日の１６時までには発表され、配布されていなければならない。ミックス種目については 6.18.1.4 参照。

ｂ）**サステナビリティ選択**　組織委員会が競技会場全域において普通に利用できる広範囲のＥメール配布システムまたはワイヤレスインターネットシステムと公開された情報ステーションを提供することができるならば、テクニカルデレゲートの承認を得て、組織委員会は、印刷された射座割表を配布しない、ペーパーレスシステムを使うことができる。

ｃ）**選手交代** 団体種目に限り、例外的に、該当種目の予定開始時刻の遅くとも１時間前までなら、選手を、すでに登録されている別の選手に交代することができる。このルールは競技が何回かに分けて行われたり、数日に渡って行われる場合でも適用される。

6.6.6 **ライフルおよびピストル種目における射座割の基本原則**

ａ）射座と本選における射群のくじ引きは、テクニカルデレゲートの監督のもと、ランダムに、この目的に合ったコンピュータプログラムで実施されなければならない。

ｂ）ファイナルにおける射座割も、6.17.1.2 に従い、ランダムに割り付けられる。

ｃ）射座割の決定にくじを用いることに際して、テクニカルデレゲートは射場の制約条件を考慮することを承認しなければならない。テクニカルデレゲートはＭＱＳのみ、ＲＰＯおよびＯＯＣの選手を射場の特定の場所に集めることを承認することができる。

ｄ）選手個人や各チーム（国）はできる限り平等に近い条件のもとで射撃ができるようにすべきである。

ｅ）同じチーム（国）の選手が隣接する射座に割り当てられるべきではない。

ｆ）各チーム（国）の選手はできる限り平等に各射群に割り振られるべきである。

ｇ）エアライフルまたはエアピストル種目において選手の数が射座数を超える場合、射座割は抽選によって２またはそれ以上の射群に振り分けられなければならない。

ｈ）団体戦が複数の射群で行われるときは各チームの構成メンバーの選手を各射群に平等に割り当てなければならない。

ｉ）ライフル種目の競技が２日以上に渡って行われる場合、それぞれの日にすべての選手が同じ姿勢で同じ弾数を撃たなければならない。

ｊ）ピストル種目の競技が２つのパートまたは日に分けて実施される場合、後半または２日目が始まる前にすべての選手が前半または１日目を終えていなければならない。すべての選手はそれぞれの日に同数のシリーズを撃たなければならない。

6.6.6.1 ※５０ｍおよび３００ｍ**屋外射場における予選**

選手の数が使用可能な射座数を超える場合、予選が行われなければならない。スケジュールに制限がある場合、テクニカルデレゲートによって予選を放棄することができる。

ａ）※予選はその種目の全コースを実施しなければならない。予選における得点はその種目の団体戦に参

加している選手の得点として使用される。

ｂ）すべての選手をランダムに割り当てる。

ｃ）予選の射群は本選の実施される日の前日に実施されるべきである。

ｄ）予選通過者は各射群の上位者から、各射群の射座割表に掲載された参加者数と同比率で、選出されなければならない。各射群からの予選通過人数は、代表者会議（テクニカルミーティング）で発表されなければならない。

ｅ）**計算式**:
使用可能な射座数÷射座割掲載参加者総数×各射群の射座割掲載参加者数＝予選通過者数
（例）６０射座で１０１人参加の場合
第１射群：５４名→３２.０８（６０÷１０１×５４）＝３２名予選通過第
２射群：４７名→２７.９２（６０÷１０１×４７）＝２８名予選通過

ｆ）予選が必要な場合、各チームの選手は予選の各射群に同数ずつ振り分けられなければならない。団体戦の得点は予選の得点によるものとする。

ｇ）第１射群に各チームの２名を第２射群に残りの１名を配分するには射座が不足してしまう場合、予選は各射群に１名ずつを配置する３つの射群により実施される。

ｈ）予選を通過できなかった選手は本選に出場することは許されない。

ｉ）予選通過者の最下位における同点の場合の順位決定は、同点の順位決定規則による。

ｊ）ジュニアワールドカップにおいて予選が予定されず、複数の射群が設定されている場合、チームリーダーには、第１射群および後続の各射群に割り当てる自チームの選手を指定することを認めなければならない。

ｋ）５０ｍ三姿勢種目の本選が１射群のみで実施される場合、上位８名がファイナルに進出する。

6.6.6.2 **スケジュールと射座割－２５ｍラピッドファイアピストル**

ａ）後半の３０発のステージは、すべての選手が前半の３０発のステージを完了した後、開始されなければならない。参加者数がすべての射群の射座を満杯にするには足りない場合、前半および後半のステージの最終射群の射座を空けて調整されるべきである。

ｂ）後半のステージの射群は、前半のステージの得点による順位に従い、低い順位の選手が早い射群になるようにするが、競技が１日で終わる場合は後半のステージの射座割は前半のステージと同じにすべきである。各射群の射座はくじ引きで決められる。

6.6.6.3 **スケジュールと射座割－２５ｍピストル女子**

この種目は１または２日間のスケジュールで行うことができる。可能であるならば、速射ステージとファイナルを２日目に行う２日間のスケジュールとすべきである。２日間のスケジュールの場合、精密射撃ステージのＰＥＴを１日目の前に、速射ステージのＰＥＴを１日目の精密射撃ステージの終了後に行うべきである。

6.7 **競技用服装および用具**

6.7.1 ＩＳＳＦはＩＳＳＦ選手権大会において選手が使用できる競技用の服装および用具に関して明確なる基準を制定した。また、これらの基準は他の選手よりも不正に有利となる選手のいない公正で平等な競技会の原則を守るために用具検査において調べるためのものである。

6.7.2 選手は、ＩＳＳＦ選手権大会で自分の使用する全ての用具と服装がＩＳＳＦルールを遵守していることを保証する責任を負う。

6.7.3 選手のすべての用具は、用具検査ジュリー、組織委員会が設置する用具検査係、および各競技ジュリーによる検査の対象となる。

6.7.4 **服装および用具の基準**

6.7.4.1 特定の種目の中で使用されるルールに規定された用具については、各種目のルールを参照すること。

6.7.4.2 選手の両脚、胴、または腕の動きを過度に制限したり固定したりする、キネシオもしくは医療用または同様のテープの使用を含む、特別な装置、方法、衣服の使用がライフルおよびピストルの選手に禁止されるのは、選手の技術を人工的に向上させないためである。

6.7.4.3 ラジオ、ｉＰｏｄｓ、または似たようなタイプの音響発生または通信装置の使用は、競技役員を除き、ＦＯＰでは競技中および練習中も禁止される。

6.7.4.4 携帯電話およびその他の電子通信機器は、競技エリア（FOP）への持ち込みを禁止する。

6.7.4.5 ＴＶ放送のある公式ＩＳＳＦイベントや選手権大会では、１０ｍおよび５０ｍのライフルおよびピストル種目のファイナリストは自身の銃器にライブエイミング装置を装着しなければならない。装

置の装着はファイナルに先立ってＩＳＳＦ ＲＴＳ役員およびスポーツプレゼンテーション技術員および役員の支援と監督により、ファイナル控室で行われる。この装着には十分な時間と手慣れたスタッフおよび役員のサポートの提供がされなければならない。これらの機器はスポーツおよび選手の技術の映像表現およびＴＶ放送に不可欠な要素であり、ＩＳＳＦイベントにおけるこのサービスの提供を確実にするためにあらゆる措置を施さなければならない。

6.7.5 **※ＩＳＳＦドレスコード**

公式スポーツ行事に適したマナーに則った服装で射場に現れることは選手、コーチおよび役員の責任である。選手と役員の服装はＩＳＳＦドレスコードを遵守しなければならない。6.20 のＩＳＳＦドレスコード全文を参照すること。

6.7.6 **※用具検査**

6.7.6.1 組織委員会は用具検査ジュリーの監督のもと用具検査を行う用具検査係を設置しなければならない。用具検査サービスは、選手が競技前の用具検査をできるように、全ての選手に対して利用できるようになっていなければならない。ＩＳＳＦルールの遵守を保証するために、用具検査ジュリーと用具検査係はランダム競技後検査を行わなければならない（6.7.9）。

6.7.6.2 **※用具検査手順**

ａ）組織委員会はチーム役員および選手に、競技開始前または競技中に、用具検査をいつ、どこで行うことができるかを通知しておかなければならない。

ｂ）用具検査室は、公式練習日からライフル、ピストル、ムービングターゲットの競技が終了する日まで、選手の用具の自主検査のために開けられていなければならない。

ｃ）毎日の検査前、および競技後検査において失格を検討するときには、検査器具の点検にＩＳＳＦの校正用検査器具を使用しなければならない。

ｄ）選手には自分の使用する用具が競技後検査に合格するという確証がもてなければ、その用具を検査するために用具検査室に持っていくことを推奨する。

ｅ）用具検査係はすべてのライフル用射撃ジャケット、射撃ズボンおよび靴に、選手に登録された固有のシリアルナンバーを持つタグが付けられていることを確実にしなければならない。タグはタグを壊すことなく取り外すことができないように設計されてなければならない。"One Time Only 検査"で発行されたタグはこの要求を満たしている。タグのないジャケット、ズボンおよび靴はＩＳＳＦルールを遵守しているか検査され、選手に登録されたものとしてタグが取り付けられなければならない。用具検査ジュリー及びライフルジュリーは、ルール 7.5.1.2 に従い、ランダム検査でジャケット、ズボンおよび靴のタグを利用する。

ｆ）用具検査係は用具検査で検査したすべての用具の選手の名前、メーカー、銃番号および口径を用具検査票（コントロールカード）に記録し、保存しなければならない。

ｇ）用具検査係はすべてのピストルをＩＳＳＦデータベースに登録し、選手にカードを発行しなければならない。未登録または未記録のピストルは、ＩＳＳＦルールに違反していないか確認され、選手ごとに登録されなければならない。

ｈ）エアまたはＣＯ２シリンダーが製造者の定める有効期限（最大１０年）内にあることを確実にするのは選手の責任である。用具検査でこのことを確認し、助言や推奨を行うことができる。

ｉ）用具検査票のコピーが１枚選手に渡される。選手は用具とともにその検査票を常に持っていなければならない。もし選手が用具検査票をなくした場合、その再発行には１０．００ユーロの料金がかかる。

ｊ）ライフル用の服装を同じ選手権大会中に２度目以降の検査に提出する場合、再検査費用として２０．００ユーロを課す。服装の各品目を用具検査へ提出できるのは３回までとする。３回目の検査にも合格しなかった服装は競技で使用してはならず、使用した場合は失格とする。

ｋ）スキート選手においては、スキートマーカーテープの後部にシール、前部に小形のリベットが付けられる。

6.7.7 **※Ｂｉｂ（スタート）番号および選手の着用物**

6.7.7.1 すべての選手は競技中常にＢｉｂ（スタート）番号を着用している上着の腰よりも上の背中の部分につけていなければならない。Ｂｉｂ（ゼッケン）には選手に与えられたその選手権大会での番号、姓、名の頭文字、所属国名（ＩＯＣ国名略称のみ）が示されていなければならない。国旗を使用する場合は、ＩＯＣ国名略称の左側に配置されなければならない。名前に使われる文字の高さはできる限り大きくすべきであるが、いずれの文字および数字も高さ２０mm未満であってはならない。

6.7.7.2 **Ｂｉｂ番号**およびファイナルスタート番号は、競技前練習中および競技のすべてのステージで、上着の腰より上の背部に着用しなければならない。Ｂｉｂ番号が発給されているのに着用していない

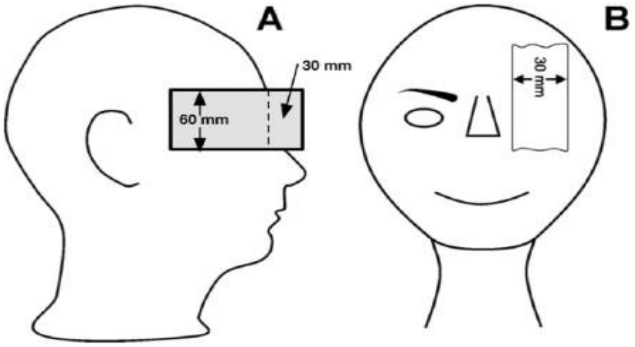
場合、選手は競技できない。ショットガンおよび２５ｍラピッドファイアピストルのファイナルに先立つ出頭時間に、新しいファイナルスタート番号を発給する。他のライフルおよびピストルのファイナルでは、ファイナルスタート番号は着用しない。

6.7.7.3 すべての選手は**ＩＳＳＦ競技者資格、ＩＳＳＦ商権ならびにＩＳＳＦスポンサーシップ/広告ルール**を守らなければならない。このルールは服装の上に付けられた標章、スポンサー、広告、トレードマーク等に関する制限と制裁について規定している。

6.7.8 **ブラインダー**

6.7.8.1 帽子、キャップ、眼鏡枠またはヘッドバンドに取り付ける**サイドブラインダー**（片側または両側）は高さ６０ｍｍを超えないものの使用がショットガンの選手に限り許される（Ａ）。サイドブラインダーの前端は、横から見たときに、額の中心から伸ばされる直線より３０ｍｍを超えて前方に延びてはならない。

6.7.8.2 照準に使用しない眼を覆う**１個のフロントブラインダー**は幅３０ｍｍを超えないものの使用がすべての選手に許される（Ｂ）



6.7.9 **競技後検査**

6.7.9.1 ※競技後検査は予選および本選の後に“ＩＳＳＦ用具検査ガイドライン”に明示された手順に従って行われなければならない。用具検査ジュリーはすべての競技後検査の運営を監督する責任を負う。服装とテーピングの検査には、選手と同性の審判が対応できるようにしなければならない。次に明示された競技後検査項目を通過できなかった場合、失格（ＤＳＱ）となる。

ａ）ライフル種目：射撃用服装（ジャケット、ズボン、靴、グローブ）、下着、テーピングおよびライフル銃の規格（該当するならば引き金の重さを含む）

ｂ）ピストル種目：靴、テーピング、引き金の重さ、ピストルおよびグリップの規格（８．１２）および該当するならば弾速と弾頭の重さ。

ｃ）ショットガン種目：ショットガンルールを参照。

ｄ）ムービングターゲット種目：銃の重さ、スコープの倍率（１０ｍ）、引き金の重さ（５０ｍ）およびマーカーテープ。

ｅ）全種目：競技後検査への書面による出頭の通知を受け取ったのに出頭しない場合。

6.7.9.2 競技後検査に通らなかった選手が出た場合、用具検査ジュリーのチェアパーソンまたは他の一人の用具検査または競技ジュリーは検査が正確に行われていたことを確認し、選手を失格にしなければならない。確認の手順には、検査器具の測定が正確であることを確認するために、ＩＳＳＦ検査器具調整器具の使用が含まれなければならない。

6.7.9.3 競技後検査による失格に対する上訴は、上訴ジュリーに提出できる。上訴ジュリーは検査が正しく行われたかどうかを判断しなければならないが、検査を繰り返してはならない。上訴ジュリーがこの失格を覆せるのは、検査が不正確に行われたと認めた場合に限る。

6.7.9.4 選手が銃、服装または用具に変更または変更を試みたという確かな証拠をジュリーが手に入れた場合、その選手を指名選択検査（特定の選手を選ぶ）することができる。

6.7.9.5 本選後に行うすべての競技後の指名選択検査において、ライフルおよびピストル種目のすべてのファイナリスト（失格を考慮して上位10名）も対象に含めなければならない。これはファイナルプレパレーションエリアでの検査に追加して行う。

6.8 **※競技ジュリーの任務と職務**

ジュリーは組織委員会の任命した競技役員を助言し、援助し、監督する責任を負う。

ａ）競技（ライフル、ピストル、ショットガン、ムービングターゲット、ターゲットスプリント）ジュリーは各種目の競技運営を監督する。

ｂ）ＲＴＳ（成績、計時および採点）ジュリーは採点および成績処理を監督し、公

式成績プロバイダーと協力して、大会成績本を作成する。

ｃ）用具検査ジュリーは選手の服装および用具の検査を監督する。

ｄ）ＶＡＲシステム　ＶＡＲが使用される場合、担当のジュリーはＶＡＲシステムの機能と運用に責任を負い、ファイナル中に必要に応じモニターを操作する。担当ジュリーはシステムの運用を監督し、発表されたプロトコルに従って適切に使用されていることを保証する。

6.8.1　組織委員会およびＩＳＳＦに任命された射場役員、ＲＴＳ役員、レフリーは、ジュリーによる助言、監督を受けながら、競技会の実質運営に責任を負う。射場役員とジュリーは互いに、ＩＳＳＦルールに則り、練習および競技を進行していくことに責任を負い、競技会の開催中、公正で公平なルールの実施を確保しなければならない。

6.8.2　すべてのジュリーは、勤務中には、公式ＩＳＳＦ公認ジュリーベスト（赤色）を着用しなければならない。ジュリーベストはＩＳＳＦ承認サプライヤーから購入することができる。すべての射場役員は、勤務中には、見分けのつくベスト（緑色が望ましい）を着用するかまたは見分けのつく方法をとることを推奨する。すべての標的役員または射撃線の前での作業のある係員は蛍光色のベストまたは目立つ腕章を着用することを推奨する。

6.8.3　競技の開始前に競技ジュリーはＩＳＳＦ規則に適合しているかを確かめるため、それぞれの担当の射場を検査し、射場係員などの組織構成と配置を点検しなければならない。ジュリーの点検は従前に行われたテクニカルデレゲートによる点検と連携して行われるべきである。

6.8.4　ジュリーはたえず選手の射撃姿勢や用具を観察しなければならない。

6.8.5　ジュリーは、練習および競技中いつでも、選手の銃、用具、姿勢などを検査する権利を持つ。

6.8.6　練習および競技中、ジュリーは選手の衣服および用具がＩＳＳＦスポンサーシップ/広告ルール（4.4～4.7、6.7.7.3）を遵守しているかチェックする責任を負う。

6.8.7　競技中では、ジュリーは選手が撃発しようとするときや速射種目のシリーズ中または射台にいる場合の接近は避けるべきである。しかしながら、危害予防に関する場合は即座の行動を取らなければならない。

6.8.8　ジュリーの過半数は競技中、常に射場にいて、必要とあらばジュリー会議を開き、即座に裁定を下すことができなければならない。

6.8.9　ジュリーは競技中、独自の裁定を下す権利を持つが、少しでも疑問のある場合は他のジュリーや射場役員またはレフェリーに相談すべきである。チーム役員または選手が一人のジュリーの裁定に同意できない場合、書面の抗議を行う事によって、ジュリーの多数決による裁定を求めることができる。

6.8.10　ジュリーは、選手の持つ国籍、人種、宗教、民族、文化にかかわらず、完全に公平な裁定を下さなければならない。

6.8.11　ジュリーは、ＩＳＳＦルールに従って、提出されたどんな抗議も扱わなければならない。ジュリーは射場役員またはレフェリーや直接の関係者との協議後にその抗議に対する裁定を下すものとする。

6.8.12　ジュリーは、抗議の裁定によっては、ファイナルに出場することができるかもしれない選手のある場合、ファイナルの開始時刻を遅らせなければならない。抗議がファイナル出場資格を得る可能性のある選手に関わらない場合、ＲＴＳジュリーはファイナルの射座割表を発表することができる。公式最終成績はすべての抗議および上訴の裁定が下されるまで発表することはできない。

6.8.13　ジュリーはＩＳＳＦルールに規定されてないあらゆる問題に対して裁定を下さなければならない。その裁定は、ルールの精神と意図の中で行われなければならない。そのような裁定は、各選手権大会後にテクニカルデレゲートに提出されるジュリーチェアパーソンの報告書の中に含まれていなければならない。

6.8.14　※選手およびチーム役員はジュリーになることはできない。ジュリーは競技中いかなる時もＩＳＳＦルールの範囲を超えて選手に助言、指導、補助をしてはならない。

6.8.15　ジュリーチェアパーソンはジュリーのスケジュール管理とすべての公式および競技前練習を含むすべての時間に十分な人数のジュリーを確保することに責任を負う。

6.8.16　ジュリーチェアパーソンは、選手権大会後できるだけ早くテクニカルデレゲートを通してＩＳＳＦ事務局長に提出されるジュリーの裁定と行動に関する報告書を準備しなければならない。

6.9　※組織委員会の任命する競技役員

6.9.1　射場長（ＣＲＯ）の任務と職務

射場長(ＣＲＯ)は射場ごとに（全ショットガン射場に１名のみ）任命されなければならない。射場長はすべての射場役員と射場勤　務員の統括者であり、競技種目の適切な運営に責任を負う。射場長はすべての射場内の号令の発 令に責任を負い、すべての射場勤務員がジュリーに対して協力す

ることを保証する責任をも負う。射場長は射場設備の故障に対し早急な措置を行う責任を負い、射場を運営するために必要な専門 家や資材を確保する責任を負う。射場長の支援、特に種目や競技中に生じた不測の事態に関する 射場の文書や射場事故報告書（様式ＩＲ）の維持管理のために副射場長の任命を強く推奨する。

6.9.2 **射場役員（ＲＯ）の任務と職務**（ショットガンを除く）

射場役員(ＲＯ)は標的グループの各セクションまたは１０射座ごとに任命されなければならない。

ａ）射場役員は、担当する標的セクションでの競技運営について射場長に対して責任を負わなければならない。

ｂ）射場役員は選手の名前とＢｉｂ番号をチェックして、射座割表と一致していることを確認しなければならない。

ｃ）射場役員は選手の銃、用具および装備が検査、承認されていることを確認しなければならない。

ｄ）射場役員は選手の射撃姿勢および用具をチェックし、不審があればジュリーに報告しなければならない。

ｅ）射場役員は射場長の号令が遵守されていることを確実にしなければならない。

ｆ）射場役員は競技中に生じる故障、抗議、妨害または他のさまざまな問題について必要な行動をとらなければならない。

ｇ）射場役員は口頭の抗議を受理し、直ちにジュリーに報告しなければならない。

ｈ）射場役員はすべての不測の事態、妨害、罰則、銃器故障、誤射、許可された追加時間、承認された再射などを事故報告書（ＩＲ）、標的上またはプリンター用紙に適切に記録する責任を負わなければならない。

ｉ）選手との会話や、得点に関するその他のコメントを控えなければならない。

6.9.3 **ＲＴＳ（成績、計時および採点）長（ＣＲＴＳＯ）の任務と職務**

ＣＲＴＳＯは選手権大会ごとに任命されなければならない。ＣＲＴＳＯはすべてのＲＴＳＯおよびエントリーや成績発表に関する係員の統括者である。ＣＲＴＳＯは選手権大会におけるすべての採点および成績処理の正確な実施に責任を負う。

6.9.4 **ＲＴＳ役員（ＲＴＳＯ）の任務と職務**（ショットガンを除く）

本選の行われる射場ごとに１名のＲＴＳＯが任命されるべきである。ＲＴＳＯは各射場において、 ＲＴＳジュリー、競技ジュリー、射場役員および公式成績作成員とともに採点と成績処理の実施 を進める。

6.10 **競技会におけるＥＳＴ操作**

6.10.1 **ＥＳＴ技術役員**

ａ）ＥＳＴ技術役員は電子標的装置の操作、保守に責任を負う。

ｂ）ＥＳＴ技術役員は射場役員やジュリーに助言することはできるが、ＩＳＳＦルールの適用に関していかなる裁定も下してはならない。

ｃ）ＥＳＴ技術役員は公式成績作成員または組織委員会によって指名されるが、ＥＳＴ操作と電子競技会運営システム（コンピューターソフトウェア）の取り扱いに関する研修を修了した者でなければならない。

6.10.2 **標的役員**

ａ）標的役員はＥＳＴの操作と保守を補助するために組織委員会によって任命される。

b）各種目の各射群に先立って、標的役員は標的の白い部分に弾痕がないこと、標的枠上のすべての弾痕が明示してあることを確認しなければならない。

c）競技会中、標的役員はバッキングターゲットとバッキングカードを治痕しコントロールシートを交換する。

d）**バッキングターゲット、バッキングカード、コントロールシート**の治痕および交換は採点が完了するまで行ってはならない。

6.10.3 **ジュリーの任務 ― ＥＳＴ**

6.10.3.1 ＲＴＳジュリーは採点と成績処理の監督をし、採点に関する疑問または抗議の解決を助けるため射場にいなければならない。競技ジュリーは、ＲＴＳジュリーが２名以下しかいない状態で行動や裁定が必要となった場合、補助をしなければならない。

6.10.3.2 種目の各射群の前にジュリーは以下の項目について確認するためにＥＳＴを点検しなければならない。

ａ）標的の白い部分に弾痕がないこと。
ｂ）標的枠上の弾痕が明確に示されていること。
ｃ）コントロールシートが交換されていること。
ｄ）バッキングカードとバッキングターゲットに、コントロールシートに覆われている中心部分以外に、弾痕がないこと。

6.10.4 **ＥＳＴでの射撃**

ａ）選手は練習期間中にモニター画面の標的表示の切り替え(ズーム)および試射、本射の切り替えボタンの取り扱いに慣れておかなければならない。
ｂ）１０ｍ、２５ｍおよび５０ｍの単姿勢種目では試射から本射への切り替えは、射場係員の操作によって行われる。疑問を感じた選手は射場役員に手助けを頼まなければならない。
ｃ）三姿勢種目では、選手が膝射または伏射を終了した後の本射から試射への切り替えおよび本射への再切り替えは射手の責任において行われる。選手は伏射および立射の本射前には弾数無制限の試射を撃つことができるが、これらの試射のための追加時間は許されない。もし選手が姿勢切り替えの後、本射から試射への切り替えを不注意で怠った場合、前の姿勢のエクストラショットとして記録された弾痕は無効とされ、標的は試射に切り替えられなければならない。
ｄ）選手のモニター画面はそのどの部分についても覆い隠すことは許されない。画面全体がジュリーおよび射場係員に見えなければならない。
ｅ）選手ならびに射場役員は、ジュリーの承諾のある場合を除き、その射群またはその種目が終了する前にプリンタコントロールパネルおよび/またはプリンター用紙に触れてはならない。
ｆ）選手は射場を離れる前に得点を確認し署名をプリンター用紙(合計の次)にすべきである。
ｇ）選手がプリンター用紙に署名しなかった場合、それをＲＴＳ室に送ることを許可するためにジュリーまたは射場役員はそのプリンター用紙に頭文字で署名すべきである。

6.10.5 **試射中の得点表示に関する不満**

選手が、試射の間に、電子標的の示す弾着や採点に不満を持った場合、ジュリーはその選手に対し射座の変更を提案することができる。
ａ）選手には適切な延長時間が与えられる。
ｂ）ジュリーは可能な限り迅速に選手が不満を訴えた射座で行われた試射を**ＥＳＴの検査手順**に従って検査を行う。
ｃ）この一連の検査で選手が不満を訴えた射座の電子標的が正しい結果を提示していたことが確認された場合、その選手には第一シリーズの最も低い得点に２点の減点が科せられる。

6.10.6 **ロール紙やゴムバンドの動きの異状**

選手の不満の原因がロール紙やゴムバンドの動きの異状にあると、ジュリーが確認した場合、
ａ）選手は予備射座に移動する。
ｂ）選手にはその種目の残り時間に認められた追加時間を加えた時間が与えられ、この中で弾数無制限の試射が許される。
ｃ）選手はジュリーによって決められた数の本射弾を再射し、加えてその種目を完射するに必要な数の本射弾を撃つ。
ｄ）その射群が終了した後、ＲＴＳジュリーがそれぞれの標的で採点された得点のうちどれを採用するかを決定する。
ｅ）最初の射座のモニターに正しく表示されたすべての本射弾の得点と２番目の射座の標的に発射したその種目を完了させるために必要な数の本射弾のすべての得点を加えたものが選手の得点として計算される。

6.10.7 **得点に関する抗議**

得点が表示され記録されたにもかかわらず、選手が表示された得点に関して 6.16.5.2 に従い抗議した場合。
ａ）射群終了後、次の射群のために標的のデータがリセットされる前に、技術役員または射場役員によって、不満や抗議のあった標的とその両隣の標的の詳細なプリンターリザルト（ログプリント）が出力されなければならない。
ｂ）射群完了後、**ＥＳＴの検査手順**が実施される。
ｃ）表示されないまたは間違った表示の弾痕はＲＴＳジュリーによって採点されなければならない。
ｄ）ＲＴＳジュリーが抗議にかかる弾痕は正しく採点されていたと確認した場合、２点の減点が科せられる（6.16.5.2.C）。

6.10.8 **得点に関する抗議または不満に対する電子標的（ＥＳＴ）の検査手順**

6.10.8.1　得点に関する抗議、不満または得点の不表示などがあった場合、ジュリーは次の物を回収しなければならない（それぞれの物に射座番号およびカード、シート、標的の方向と射群、シリーズ、回収時刻が記入されていなければならない）。

ａ）コントロールシート（２５ｍ/５０ｍ）。コントロールシートの外に弾痕がある場合、コントロールシートを取り外す前に、コントロールシートとバッキングカードにある弾痕の位置関係を記録しておかなければならない。
ｂ）バッキングカード（２５ｍ／５０ｍ／３００ｍ）。
ｃ）バッキングターゲット（２５ｍ）。
ｄ）黒色ロール紙（１０ｍ）。
ｅ）黒色ラバーバンド（５０ｍ）。
ｆ）射場事故報告書。
ｇ）ログプリント。
ｈ）電子標的のコンピューターに記録されたデータ（必要に応じて）。

6.10.8.2　ジュリーはＥＳＴの表面、的枠を調べ、黒点の外にあるどのような弾痕の位置も記録しなければならない。

6.10.8.3　ＲＴＳジュリーの許可が出る前にログの消去を行ってはならない。

6.10.8.4　弾痕の数はそれらの位置関係も考慮に入れて数えられなければならない。

6.10.8.5　ジュリーは上記の物を調べ、正式なジュリー裁定が下される前に、独自の査定をしなければならない。

6.10.8.6　ジュリーは制御コンピューターの示す成績に手動で修正をする(例えば、減点や故障後の修正された成績の記入など)際には監督をしなければならない。

6.10.9　**ＥＳＴの故障**

これらのルールは１０ｍ、５０ｍおよび３００ｍのＥＳＴに適用される。２５ｍＥＳＴの故障に関してのルールはピストルルール 8.10 を参照。

6.10.9.1　**射場のすべての標的が故障した場合**

ａ）故障の起きた時刻とその時の経過射撃時間は射場長とジュリーによって記録されなければならない。
ｂ）各選手の撃ち終わった本射弾数は数え、記録しなければならない。射場が停電した場合、標的装置に登録された発射弾数を確認するために、電力供給が回復するまで待つ必要が生じることがある。この確認には、必ずしも射座のモニターに表示されている必要はない。
ｃ）故障が回復し、全標的が機能するようになれば、競技の残り時間には５分間が加えられる。競技の再開される時刻は、拡声器を通じて、少なくとも５分前までに通知される。選手は競技再開前の５分間に、自分の姿勢を取り直すことを認められなければならない。弾数無制限の試射が、残り時間の中で本射再開前にのみ、許されなければならない。

6.10.9.2　**１個の標的が故障した場合**

ａ）電子標的が５分間以内に修理できない場合、選手は予備射座に移動しなければならない。
ｂ）射撃の準備が整った時点で、５分間が残り競技時間に追加される。
ｃ）選手には本射再開前に弾数無制限の試射が許される。

6.10.9.3　**モニターに弾痕の位置表示や得点記録がなかった場合**

選手はただちに異状を最寄りの射場役員に知らせなければならない。射場役員は不満の受付時刻を記録しなければならない。１名以上のジュリーがその射座に出向かなければならない。選手はその電子標的に対し、もう１発、本射を行うように指示される。
この弾痕の得点および位置がモニター上に記録され表示された場合

ａ）選手はこのまま競技を継続するように指示されなければならない。
ｂ）このエクストラショットの得点と位置および発射時刻は記録されなければならない。
それが何発目か(不明の弾痕を含む)、その得点、その位置および射座番号は、書面でジュリーに報告され、個票と射場事故報告書に記録されなければならない。
ｃ）その射群の終了後、**ＥＳＴの検査手順**を適用する。ＲＴＳジュリーは、この情報とエクストラショットの発射時刻および位置を用いて、エクストラショットを含むすべての発射弾がコンピューターの記録に登録されているかどうかを判断する。
ｄ）すべての弾痕が正しく記録されていた場合、疑問のあった発射弾（表示、記録のなかった弾）の得点はその選手の得点として計算される。エクストラショットとして疑問の示された直後に発射された弾についてはこれを得点に含め、最終弾（規定弾数を超えたもの）が取り消され

る。

ｅ）疑問のあった発射弾の弾痕が**ＥＳＴの検査手順**によっては見つからなかった、または標的外の失中と確認された（注：これは、疑問のあった発射弾の弾痕が、１０m種目では回収された黒色ロール紙または標的面に見つけられなかった、２５m種目ではバッキングターゲット、コントロールシートまたはバッキングカードに見つけられなかった、５０mまたは３００m種目では標的外の弾痕の証拠があったことを意味する。）場合、疑問のあった発射弾は０点として採点され、最終弾（規定弾数を超えたもの）が無効とされなければならない。

ｆ）疑問のあった発射弾の弾痕が見つかった、またはコンピューターメモリー内で特定された場合、ＲＴＳジュリーはその発射弾の得点を決定し、採点しなければならない。

ｇ）５０mまたは３００m種目の疑問のあった発射弾が見つからなかった場合、ジュリーは標的外の弾痕として０点と採点し最終弾を無効とするか、または標的外の弾痕としての確かな証拠がないなら標的システムに異常が生じたと結論を下すことができ、その場合は、見つからなかった弾痕の代わりにエクストラショットと最終弾の得点を採点する。

6.10.9.4 **または、指示されたエクストラショットが記録、表示されず、ＥＳＴが５分以内に修理できない場合**

ａ）選手は予備射座に移動しなければならない。

ｂ）射撃の準備が整った時点で、５分間が残り競技時間に追加される。選手には弾数無制限の試射が許される。

ｃ）**１０mおよび５０mのライフルおよびピストル種目では**、選手は前の射座で記録、表示されなかった２発の本射を再射する。

6.11 **競技会手順（6.17　のファイナル競技手順も参照すること）**

6.11.1 **１０mおよび５０mライフルとピストルおよび３００mライフル種目のルール**

6.11.1.1 **準備および試射時間**

選手はその種目の公表された競技開始時刻の少なくとも２５分前に射座へ呼び入れられなければならない。用具準備のための１０分間を与え、その後、本射開始前の最終準備と弾数無制限の試射のために１５分間の準備および試射時間を与えなければならない。

ａ）準備及び試射時間は本射の公式開始時刻の約３０秒前に終わらせなければならない。

ｂ）準備および試射時間の開始１０分前までに試射的は上げられていなければならない。

ｃ）選手は射場長が選手を射座に呼び寄せる前に銃や用具の射座への持ち込みをすることはできない。

ｄ）複数の射群がある場合、すべての射群で射座への用具の持ち込みのための時間が同じになるようにしなければならない。

ｅ）射場長が選手を射座に呼び寄せた後は準備および試射時間前であっても、選手は射撃線において銃を取り扱い、据銃、照準、空撃ち（空撃ちのためにセフティフラッグを外すことができる）をすることができる。ファイナルでは、選手は準備および試射時間が始まるまではセフティフラッグを外したり、空撃ちをすることはできない。

ｆ）ジュリーと射場役員による競技前チェックは準備および試射時間が始まるまでの１０分間に完了しなければならない。

ｇ）準備および試射時間は“**ＰＲＥＰＡＲＡＴＩＯＮ　ＡＮＤ　ＳＩＧＨＴＩＮＧ　ＴＩＭＥ．．ＳＴＡＲＴ**（プレパレーション　アンド　サイティング　タイム．．スタート）”の号令により開始される。“**ＳＴＡＲＴ**（スタート）”の号令前の発射はできない。

ｈ）準備および試射時間の**開始前**に１発以上の弾を発射してしまった選手には、安全にかかわる場合は、失格が科されることがある。安全上の問題のない場合（6.2.3.5）は、本射の１発目を０点として記録しなければならない。

ｉ）準備および試射時間が１４分３０秒を過ぎたとき、射場役員は“**３０　ＳＥＣＯＮＤＳ**（サーティー　セコンズ）”とアナウンスしなければならない。

ｊ）準備および試射時間の終了時刻には、射場長の“**ＥＮＤ　ＯＦ　ＰＲＥＰＡＲＡＴＩＯＮ　ＡＮＤ　ＳＩＧＨＴＩＮＧ．．．ＳＴＯＰ**（エンド　オブ　プレパレーション　アンド　サイティング．．．ストップ）“の号令が発せられなければならない。その後、標的役員が本射への切換えをできるように、約３０秒間の休止をとらなければならない。

ｋ）“**ＥＮＤ　ＯＦ　ＰＲＥＰＡＲＡＴＩＯＮ　ＡＮＤ　ＳＩＧＨＴＩＮＧ．．．．ＳＴＯＰ**（エンド　オブ　プレパレーション　アンド　サイティング．．．．ストップ）“の号令の後、“**ＭＡＴＣＨ　ＦＩＲＩＮＧ．．．ＳＴＡＲＴ**（マッチ　ファイアリング．．．スタート）”の号令の前に選手が弾を発射した場合、その弾は本射として採点してはならず、さらに本射第１発目に２点の減点が科せられる。

ｌ）故障については 6.13 に従って処理される。用具の故障に関して追加時間は許されない。ジュリーは、故障を直して射座に戻ってきたときに追加の試射を与えることができるが、全て（追加の試射と本射の残り）の弾は当初に許されている時間内に撃ち終わらせなければならない。

6.11.1.2 **本射の開始**

ａ）すべての標的が本射に切り替えられた後、射場長は“ＭＡＴＣＨ ＦＩＲＩＮＧ．．．ＳＴＡＲＴ（マッチ ファイアリング．．．スタート）”の号令をかける。本射は射場長の“ＳＴＡＲＴ（スタート）”の号令により開始されたものとみなされる。

ｂ）本射開始後のすべての発射弾は本射として記録されなければならない。しかしながら空撃ちは許される。

ｃ）本射開始後は、５０ｍおよび３００ｍライフル三姿勢種目の姿勢の切り替え時（7.7.3 参照）およびルールに基づくジュリーの許可を受けた場合を除いて、試射は許されない。

ｄ）このルールに反するすべての試射の発射弾は本射弾とみなされ、０点と記録されなければならない。

ｅ）射場長は拡声器により競技時間終了の１０分前および５分前に、残り時間を選手に知らせなければならない。

ｆ）射場長やジュリーによって時間延長が認められていない場合、本射時間中に発射できなかった弾は最後の本射標的に失中（０点）として記録されなければならない。

ｇ）１０ｍＥＳＴを使用した本射中にジュリーが射座内の選手の位置の側方への３０cm 以上の移動を指示した場合、選手には本射再開前に２分間の延長時間と追加の試射が与えることができる。

6.11.1.3 “**ＳＴＯＰ**（ストップ）”の号令

競技は“**ＳＴＯＰ**（ストップ）”の号令によって中断しなければならない。

ａ）“ＳＴＯＰ”の号令の後に発射された弾は０点と採点されなければならない。

ｂ）その弾痕が特定できない場合、その標的の最も高い得点の弾痕から順に取り消され、０点として採点されなければならない。

6.11.2 **１０ｍエアガン種目の特別ルール**

6.11.2.1 選手が準備および試射時間前に発射ガス（空気）を放出した場合、1回目の違反には警告（Yellow Card）が出されなければならない。それ以降の違反については１回につき２点の減点（Green Card）が本射第１シリーズの最も低い得点にペナルティとして科されなければならない。

6.11.2.2 本射開始後、標的に弾痕を残さない発射ガス（空気）の放出には０点が記録される。ファイナルを除き、発射ガス（空気）の放出を伴わない空撃ちは許される。

6.11.2.3 選手がガスや空気シリンダーの交換または充填をする場合、射場役員の許可を受けた後、射座を離れて行わなければならない。競技時間中のガスや空気シリンダーの交換または充填には時間延長は認められない。

6.11.2.4 銃には１発のみ装填できる。銃に２発以上の弾が故意でなく装填された場合

ａ）選手が状況に気付いているなら、銃を保持していない手を挙げ、問題が生じたことを射場役員に示さなければならない。そして射場役員の監督下で銃の抜弾をしなければならない。この場合、ペナルティは科されない。このことによる延長時間は許されない。

ｂ）選手がその事に気づかず同時に２発を発射した場合、このことを射場役員に申告しなければならない。もし２発の弾痕が標的にあった場合、高い得点が採用され、２番目の弾痕は無効とされる。標的に１発しか弾痕のなかった場合は、この得点が採用される。

追 6.11.2-2 **ビームライフル、ビームピストル種目の特別ルール**

6.11.3 **※１０ｍ種目、５０ｍライフルおよびピストル種目、３００ｍライフル種目における中断**

6.11.3.1 選手は自らの責任によらない理由で**３分間を超えて**射撃を中断させられ、その中断が自らの銃および弾薬の故障によるものでない場合、中断された時間分の時間延長を要求できる。この中断が残り 5 分間しかないときにあった場合には中断発生時点の残り時間に１分間を加算した時間の延長を要求できる。

6.11.3.2 選手が自らの責任によらず、かつ銃または弾薬の故障によらず、**５分間を超えて**射撃を中断させられた場合、**または別の射座に移動させられた場合**、選手は残り射撃時間に許可された延長時間とさらに５分間を加えた時間の初めに、弾数無制限の追加の試射を行うことができる。

ａ）射場役員またはジュリーは射場事故報告書にこのことの完全な説明が記録されていることを確認しなければならない。

ｂ）ジュリーまたは射場役員によって許可された**延長時間**については射場事故報告書に理由を添えて

記入されなければならない。

6.11.4 **選手の遅刻**

選手が競技に**遅刻**した場合、参加はできるが追加時間は与えられない。選手が準備および試射時間の後に到着した場合、追加の試射時間は与えられないが、試射は許される。遅刻が不可抗力によるものであると証明された場合、ジュリーは、ファイナルの開始時刻の遅れや全体の射撃日程を崩さない範囲で、準備および試射時間を含めて延長時間を補償しなければならない。この場合、ジュリーはいつ、どの射座で遅刻した選手が競技を開始するのかを決定する。

6.11.5 **イレギュラーショット（不規則弾痕）— 種目または姿勢における超過弾**

１０m、５０mまたは３００m種目において、選手がその種目または姿勢の規定弾数より多くの弾を発射した場合、最終標的の超過弾は無効とされなければならない。超過弾が特定できない場合、最終標的の最高得点から順に無効とされなければならない。また選手には超過弾１発につき２点の減点が第１シリーズの低い点数から順にペナルティとして科せられなければならない。

6.11.6 **誤射（クロスファイア）**

6.11.6.1 本射の誤射は０点として採点されなければならない。

6.11.6.2 選手が試射を別の選手の試射的に誤射した場合、ペナルティは科せられない。

6.11.6.3 選手が試射を別の選手の本射的に誤射した場合、撃ち込んだ選手は自分の第１シリーズの得点から２点の減点がペナルティとして科せられなければならない。

6.11.6.4 誤射を受けたことが確認され、標的上のどの弾痕がその選手のものか特定できなかった場合、その選手には特定のできなかった弾痕のうち最も高い得点が与えられなければならない。

6.11.6.5 本射的上に規定数を超える数の弾痕がある場合、それらの弾痕が他の選手から撃ち込まれたものであることが確認できなかったときには、弾数に応じて、高得点の弾痕から順に無効とされなければならない。6.11.5も適用。

6.11.6.6 選手が自分の標的上の弾痕を**否認**したいときには、ただちに射場役員に申告しなければならない。

6.11.6.7 射場役員は問題の弾痕をその選手が撃っていないことを確認した場合、射場事故報告書と個票に必要事項を書き込み、その弾痕を無効としなければならない。

6.11.6.8 射場役員は問題の弾痕をその選手が撃っていないことを、合理的な疑いを差し挟む余地なく確認できない場合、その弾痕をその選手の撃ったものとし、記録しなければならない。

6.11.6.9 次のような事由が弾痕を取り消す正当な理由と考えられなければならない。

ａ）射場役員が選手と標的の観察によって、その選手がその弾を発射していなかったことを確認した場合。

ｂ）ほぼ同じ時刻に、隣接する２～３射座の範囲内にいる他の選手または射場役員から、弾痕が見当たらないとの報告があった場合。

ｃ）３００m種目でショットセンサーが使用される場合、誤射を受けた標的ではその誤射は記録されないが、誤射信号はコントロールセンターに表示される。誤射をした選手の弾の当たらなかった標的には誤射をしたことが表示され、０点が記録される。

6.11.7 **妨害**

射撃中に妨害を受けたと判断した選手は、銃口を標的方向に向けたまま、直ちに射場役員またはジュリーに申告しなければならない。その際、他の選手を妨害してはならない。申告が正当であると判断された場合、その発射弾は取り消され、選手はその弾またはシリーズを再射することができる。申告が正当であると判断されなかった場合、その弾痕を選手の得点として採用しなければならず、選手は射撃を続行することができる。ペナルティは科されない。

6.11.8 **競技会の特別ルール**

ａ）すべての大会において、準備および試射時間中にその種目に関する情報を観客に伝えるためにアナウンスおよび/または映像を使うことができる。準備および試射時間中、予選、本選の競技中に、音楽を流さなければならない。ファイナルの競技中にも音楽を流さなければならない（6.17.1.11）。

ｂ）射座の床面に不正な有利を得るために物質をまくことは許されない。また、許可なく射座をぬぐうことも許されない。

ｃ）床面にはがれないテープを張ったり消せない線を描くことは許されない。

ｄ）射場の設備や用具の交換や変更はできない。

ｅ）射場内の選手、役員の使うエリアは禁煙とし、同様に射場内の観客席も禁煙とする。

ｆ）携帯電話およびその他の電子通信機器は、競技エリア（FOP）への持ち込みを禁止する。

6.7.4.4参照。

ｇ）フラッシュ撮影は競技が完了するまで禁止される。

ｈ）携帯電話をサイレントモードにすること、禁煙であること、ストロボ撮影は競技が完了するまで禁止されていることを観客に知らせるための掲示が表示されていなければならない。

追 6.11.8.1 **ビームライフル、ビームピストル競技会の報道の特則**

6.11.9 競技手順－個人戦の本選および予選ステージ

6.11.9.1 １０ｍエアライフルおよび１０ｍエアピストルの男子および女子種目

種目の種類	個人戦
種目の名前	１０ｍエアライフル男子 １０ｍエアライフル少年男子 １０ｍエアライフル女子 １０ｍエアライフル少年女子 １０ｍエアピストル男子 １０ｍエアピストル少年男子 １０ｍエアピストル女子 １０ｍエアピストル少年女子
射群数	参加人数により１射群以上
射場	１０ｍ室内射場が全ての射群において使用されなければならない
標的	全射群において電子標的
採点	エアライフル：小数点採点 エアピストル：整数採点 本選の成績はファイナルへ持ちこされない
本選手順	各射群とも公開された開始時刻の２５分前に選手の射座入りが行われる 射場役員による選手チェックは準備および試射時間の始まる前に終わらなければならない
準備および試射時間	弾数無制限の試射の撃てる１５分間
本射弾数および制限時間	６０発　　１時間１５分（７５分）
射群数	理想的には、全参加選手を1射群で収めるべきであるが、参加選手数が射場の使用できる射座数を超えた場合は、抽選により、選手を2射群以上に分けなければならない（6.6.6. g）
射群間隔	本選が２射群以上ある場合、射群間隔（次射群の選手入場前に）は、用具の片付けやＲＴＳジュリーによる標的の準備および必要ならば標的枠の交換のために、１５分間とらなければならない
ファイナル進出人数	全参加選手の成績上位８名がファイナルに進出する 同点の順位決定は 6.15 により決められる

6.11.9.2 ５０ｍライフル三姿勢の男子および女子種目

種目の種類	個人戦
種目の名前	５０ｍライフル三姿勢男子 ５０ｍライフル三姿勢少年男子 ５０ｍライフル三姿勢女子 ５０ｍライフル三姿勢少年女子
射群数	参加人数により１射群以上
射場	５０ｍ室外射場が全ての射群において使用されなければならない
標的	全射群において電子標的
採点	整数採点
本選手順	各射群とも公開された開始時刻の２５分前に選手の射座入りが行われる 射場役員による選手チェックは準備および試射時間の始まる前に終わらなければならない
準備および試射時間	弾数無制限の試射の撃てる１５分間
本射弾数および制限時間	各姿勢２０発、膝射－伏射－立射の順で射撃 １時間４５分（１０５分）屋外射場使用時 １時間３０分（９０分）屋内射場使用時
予選手順	屋外射場で参加選手数が使用できる射座数を超えた場合は、予選が実施されなければならない 参加選手数が射場の使用できる射座数に十分収まる場合には、予選を行う必要はない。
射座割	予選は本選ステージの実施される日の前日に行われるべきである射座割は各射群の発

	表された射座割に従う 予選の射座割は以下の手順による 第１射群：使用できる射座にランダムに配分 第２射群：使用できる射座にランダムに配分 第３射群以降：使用できる射座にランダムに配分
射群間隔	本選が２射群以上ある場合、射群間隔（次射群の選手入場前に）は、用具の片付けやＲＴＳジュリーによる標的の準備のために、３０分間とらなければならない　選手の射座入りは第１射群と同様に行われる
本選進出者数	予選通過者は各射群の上位者から、各射群の射座割表に掲載された参加者数と同比率で、選出されなければならない 各射群からの予選通過人数は、できる限り早く発表すべきである 予選通過最大人数は会場の使用可能射座数による 予選通過最少人数は１２名 各射群の予選通過者数は次の計算式によって計算される
計算式	使用可能な射座数÷射座割掲載参加者総数×各射群の射座割掲載参加者数＝予選通過者数 （例）６０射座で１０１人参加の場合 第１射群：５４名→３２.０８（６０÷１０１×５４）＝３２名予選通過 第２射群：４７名→２７.９２（６０÷１０１×４７）＝２８名予選通過 ２射群または３射群の場合も同じ計算式を用いる

6.11.9.3　**５０ｍライフル伏射の男子および女子種目**

種目の種類	個人戦
種目の様式 順位決定	参加選手数が射場の使用可能射座数を超えない限り、１射群で行われる。 ファイナルは行わない 本選の結果順位によってメダルが授与される
種目の名前	５０ｍライフル伏射男子 ５０ｍライフル伏射少年男子 ５０ｍライフル伏射女子 ５０ｍライフル伏射少年女子
射群数	参加人数により１射群以上
射場	５０ｍ室外射場が全ての射群において使用されなければならない
標的	全射群において電子標的
採点	小数採点
準備および試射時間 本射弾数および制限時間 射群数	各射群とも公開された開始時刻の２５分前に選手の射座入りが行われる 射場役員による選手チェックは準備および試射時間の始まる前に終わらなければならない 弾数無制限の試射の撃てる１５分間 ６０発　５０分 参加選手数が射場の使用できる射座数を超えた場合は、２射群以上の予選を実施しなければならない
予選手順 射座割 射群間隔	 射座割は各射群の発表された射座割に従う 予選の射座割は以下の手順による 第１射群：使用できる射座にランダムに配分 第２射群：使用できる射座にランダムに配分 第３射群以降：使用できる射座にランダムに配分 射群が２射群以上ある場合、射群間隔（次射群の選手入場前に）は、用具の片付けや

	ＲＴＳジュリーによる標的の準備のために、３０分間とらなければならない 選手の射座入りは第１射群と同様に行われる
本選進出者数	予選通過者は各射群の上位者から、各射群の射座割表に掲載された参加者数と同比率で、選出されなければならない 各射群からの予選通過人数は、できる限り早く発表すべきである 予選通過最大人数は会場の使用可能射座数による 予選通過最少人数は１２名 各射群の予選通過者数は５０ｍ三姿勢種目で用いたのと同じ計算式によって計算される

6.11.9.4 **３００ｍライフル伏射の男子および女子種目**

この種目は、以下の点を除き、５０ｍライフル伏射種目と同様に行われる。

射場	３００m室外射場が全ての射群において使用されなければならない
採点	整数採点
本射弾数および制限時間 電子標的 紙標的（監的壕使用または標的交換機）	 ６０発　１時間 ６０発　１時間１５分（７５分）

6.11.9.5 **３００ｍスタンダードライフルの男子および女子種目**

この種目は、屋外射場で実施される５０ｍライフル三姿勢種目と同様に行われる。

射場	３００m室外射場が全ての射群において使用されなければならない
本射弾数および制限時間 電子標的 紙標的（監的壕使用または標的交換機）	 各姿勢２０発　１時間４５分（１０５分） 各姿勢２０発　２時間１５分（１３５分）

6.11.9.6 **２５ｍラピッドファイアピストル男子種目**

種目の種類	個人戦
種目の名前	２５ｍラピッドファイアピストル男子 ２５ｍラピッドファイアピストル少年男子
ステージの数	２ステージ
射群数	参加人数により１射群以上
射場	２５m室外射場が全ての射群において使用されるべきである
標的	全射群において電子標的
採点	整数採点
本選手順	各射群とも準備時間開始の１０分前に選手の射座入りが行われる 射場役員による選手チェックは準備時間の始まる前に終わらなければならない
準備時間	両ステージとも３分の準備時間
試射時間	両ステージとも準備時間後８秒射１回の試射シリーズ５発
競技過程	各ステージ３０発 各ステージは８秒射５発シリーズ２回、６秒射５発シリーズ２回、４秒射５発シリーズ２回で構成される。 （各シリーズ各標的に１発ずつ撃ち込む） 第２ステージが開始される前に参加全選手が第１ステージを撃ち終っていなければならない
射群間	本選が２射群以上ある場合、射群間隔（次射群の選手入場前に）は、用具の片付けやＲＴＳジュリーによる標的の準備および必要ならば、標的枠の交換のために、１５分間とらなければならない
ファイナル進出人数	本選成績上位８名がファイナルに進出する
同点の場合	同点の順位決定は 6.15.1 により決定される

6.11.9.7　**２５ｍピストル女子種目／２５ｍセンターファイアピストル種目**

種目の種類	個人戦
種目の名前	２５ｍピストル女子 ２５ｍピストル少年女子 ２５ｍセンターファイアピストル女子 ２５ｍピストル少年男子 ２５ｍセンターファイアピストル男子
ステージの数	２ステージ（精密射撃ステージ、速射ステージ）
射群数	参加人数により１射群以上
射場	２５ｍ室外射場が全ての射群において使用されるべきである
標的	全射群において電子標的
採点	整数採点
本選手順	各射群とも準備時間開始の１０分前に選手の射座入りが行われる 射場役員による選手チェックは準備時間の始まる前に終わらなければならない
準備時間	精密射撃、速射の両ステージとも３分の準備時間
試射時間	両ステージとも１回の試射シリーズ５発
競技過程	精密射撃ステージ３０発と速射ステージ３０発 速射ステージが開始される前に参加全選手が精密射撃ステージを撃ち終っていなければならない
射群間	本選が２射群以上ある場合、射群間隔（次射群の選手入場前に）は、用具の片付けやＲＴＳジュリーによる標的の準備および必要ならば、標的枠の交換のために、１５分間とらなければならない
ファイナル進出人数	本選成績上位８名がファイナルに進出する（２５ｍピストル女子種目、２５ｍピストル少年女子種目）
同点の場合	同点の順位決定は 6.15.1 により決定される

6.11.9.8　**５０ｍピストル種目**

種目の種類	個人戦
種目の様式	参加選手数が射場の使用可能射座数を超えない限り、１射群で行われる
順位決定	ファイナルは行わない 本選の結果順位によってメダルが授与される
種目の名前	５０ｍピストル男子 ５０ｍピストル少年男子 ５０ｍピストル女子 ５０ｍピストル少年女子
射群数	参加人数により１射群以上
射場	５０ｍ室外射場が全ての射群において使用されるべきである
標的	全射群において電子標的
採点	整数採点インナーテン付
予選／本選手順	各射群とも公開された開始時刻の２５分前に選手の射座入りが行われる 射場役員による選手チェックは準備および試射時間の始まる前に終わらなければならない
準備および試射時間	弾数無制限の試射の撃てる１５分間
競技過程	本射６０発　　１時間３０分（９０分）
射群数	参加選手数が射場の使用可能射座数を超えた場合、２射群以上の予選射群を行う必要がある
予選手順	

射座割	射座割は各射群の発表された射座割に従う 予選射群の射座割は 6.6.6.1 に従い作成される
射群間	予選が２射群以上ある場合、射群間隔（次射群の選手入場前に）は、用具の片付けやＲＴＳジュリーによる標的の準備のために、３０分間とらなければならない
本選出場者数	予選通過者は各射群の上位者から、各射群の射座割表に掲載された参加者数と同比率で、選出されなければならない 各射群からの予選通過人数は、できる限り早く発表すべきである 予選通過最大人数は会場の使用可能射座数による
同点の場合	同点の順位決定は 6.15.1 により決定される

6.11.9.9 **２５ｍスタンダードピストル種目**

種目の種類	個人戦
種目の名前	２５ｍスタンダードピストル男子 ２５ｍスタンダードピストル少年男子 ２５ｍスタンダードピストル女子 ２５ｍスタンダードピストル少年女子
ステージの数	３ステージ
射群数	参加人数により１射群以上
射場	２５ｍ室外射場が全ての射群において使用されるべきである
標的	全射群において電子標的
採点	整数採点
本選手順	各射群とも準備時間開始の１０分前に選手の射座入りが行われる 射場役員による選手チェックは準備時間の始まる前に終わらなければならない
準備時間	３分の準備時間
試射時間	準備時間後１５０秒で５発を撃つ試射１シリーズ
競技過程	各ステージ２０発（合計６０発） 第１ステージは１５０秒射５発シリーズ４回 第２ステージは２０秒射５発シリーズ４回 第３ステージは１０秒射５発シリーズ４回で構成される。
射群間	本選が２射群以上ある場合、射群間隔（次射群の選手入場前に）は、用具の片付けやＲＴＳジュリーによる標的の準備および必要ならば標的枠の交換のために、１５分間とらなければならない
同点の場合	同点の順位決定は 6.15.1 により決定される

6.11.10 **団体戦**

6.11.10.1 **通則**

6.11.10.2 団体（チーム）
同じ国の同じ性別の３人の選手から成る。

6.11.10.3 全ての団体戦の種目は本選のみとし、ファイナルは行わない。

6.11.10.4 全ての場面において電子標的が使用されなければならない。

6.11.10.5 団体の得点は団体を構成する３人の選手の個人戦の予選／本選の得点の合計

6.11.10.6 全選手が表彰対象として参加していなければならない。ＲＰＯの選手は団体選手にはなれない。

6.11.10.7 その種目で予選が実施された場合、団体得点は予選の得点に依るものとする。

6.11.10.8 次のステージへの進出のかかった同点は、ＧＴＲに従って、決定される。

6.11.10.9 ＧＴＲはこれらのルールが言及していない事柄についても適用される。

6.11.10.10 ジュリーは各種目における想定外や異論のある事柄についてもＧＴＲに従って判断をする。

6.11.10.11 どのような罰則もＩＳＳＦルールに則って科せられる。

6.12 **選手およびチーム役員の行動ルール**

6.12.1　ＩＳＳＦ選手権大会の開催中は、どのような種類のデモまたは政治的、宗教的、民族的宣伝は許可されない。

6.12.2　各チームには、そのチーム内の規律を保つ責任を負うチームリーダーをおかなければならない。選手をチームリーダーとして任命することはできる。チームリーダーは危害予防、競技会の効率的運営、スポーツマンシップの高揚に関し絶えず競技役員に協力しなければならない。

6.12.3　**チームリーダーの責務**

ａ）必要な登録事項を正確な情報で完成させ、指定された期限内に担当役員へ提出する。
ｂ）大会要項に精通する。
ｃ）チームメンバーを指定時刻に指定射座または指定射場に承認済みの用具を携えて出頭させ、射撃の準備をさせる。
ｄ）得点をチェックし、必要なら、抗議を行う。
ｅ）仮および正式の掲示、得点、放送に注意を払う。
ｆ）公式発表受領し、チームメンバーにそれらを通達する。
ｇ）すべての公式業務においてチームを代表する。

6.12.4　**選手の責務**

ａ）正しい時刻に自身の射座または射場にルールに適応した用具を携えて出頭し射撃の準備をする。
ｂ）指定された射座で隣接の射座の選手の邪魔をしないように射撃姿勢をとる。
ｃ）他の選手の動作を邪魔したり不利な影響を与えないようにふるまう。その行為や行動が他の選手の妨げになっているとジュリーが判断した場合、その選手には、状況により、警告、減点、失格を科すことができる。

6.12.5　**競技中のコーチング**

6.12.5.1　すべての種目で、音声によらないコーチングは許される。文字による指示は音声によらないコーチングに含まれ、音声を伴わない手話も同様である。選手が射撃線についているときには、選手はジュリーおよび射場役員とのみ話すことができる。練習（ＰＥＴを含む）中のコーチングは、他の選手の邪魔にならないなら、許される。

6.12.5.2　２０２６年のＩＳＳＦ世界選手権大会から、有効な「Ａ」または「Ｂ」のＩＳＳＦコーチライセンスを保有し、チーム役員として登録されているコーチのみが、ＰＥＴ、予選、本選中にＦＯＰに立ち入ることができ、ファイナルにおいて、ファイナル射場のコーチ席に着くことが許される。

6.12.5.3　選手が予選または本選中にコーチやチーム役員と話したい場合、選手は抜弾して銃の薬室を開けセフティフラッグを挿入し安全な状態にして射撃線に置かなければならない。選手はその旨を射場役員に通告した後でのみ射撃線を、他の選手の妨げにならないようにして、離れることができる。この条項はライフルおよびピストルで用いられ、ショットガンでは用いられない。

6.12.5.4　コーチまたはチーム役員が射撃線にいる選手と話したい場合、選手が射撃線にいる間は選手に直接連絡したり話しかけたりしてはならない。チーム役員は射場役員またはジュリーの許可を得た上で選手を射撃線または射台から呼び出してもらわなければならない。

6.12.5.5　チーム役員や選手がコーチングに関するルールに違反した場合、1 回目は警告が出されなければならない。違反が繰り返された場合、選手の得点から２点が減点され、チーム役員は射座付近から離れなければならない。

6.12.6　**ルール違反に対する罰則**

6.12.6.1　**明白なおよび隠蔽された反則の裁定**

ジュリーは次の基準に従って反則の裁定をしなければならない。

ａ）明白なルール違反の場合、最初に、選手が違反を修正する機会を持つことができるように、**警告（イエローカード）**が与えられなければならない。可能な限り、警告は練習時か準備および試射時間中に与えるべきである。選手がジュリーの指示どおりに違反を修正しない場合、得点からの２点の減点が科せられなければならない（２度目の違反が起こったラウンドの最初の２ヒットターゲット）。減点（グリーンカード）を受けてなおも選手が違反を修正しなかった場合には、失格（レッドカード)(ＤＳＱ)が科せられなければならない。
ｂ）ルール違反を故意に隠蔽した場合、**失格（レッドカード)(ＤＳＱ）**が科せられなければならない。
ｃ）事態の説明を求められた選手が故意に偽りの情報を与えた場合、２点の減点が科せられなければならない（疑問点のあった直前のラウンドの最初の２ヒットターゲット）。悪質な場

合、失格を科すこともできる。

6.12.6.2 ＩＳＳＦルールに違反したり射場役員やジュリーの指示に違反した場合、ジュリー団またはジュリーは次のようなペナルティを選手に科すことができる。ショットガン種目におけるルール違反に対するペナルティは、9.16 に従い、ジュリー、主任レフリーおよびレフリーによって科すことができる。

ａ）**警告（イエローカード)**: 警告はイエローカードを提示し、**警告**であることを選手がはっきりと認識できるような方法で行われなければならない。しかしながら、他のペナルティを科す前に警告を与える必要はない。警告は射場事故報告書に記録され、個票に記入されなければならない。警告は個人のジュリーまたはレフェリーが与えることができる。与えられた警告は更なる同様の違反に対して繰り越されなければならない。

ｂ）**減点（グリーンカード)**: 得点からの減点は、個人のジュリーまたはレフェリーにより、**減点**と書かれたグリーンカードを提示することで行われる。多くの場合、２点の減点が科されるが、時間外発射やファイナルにおける空撃ちのような例外的な事項では関連したルールが示されている。減点は射場事故報告書に記録され、プリンター用紙またはショットガンにおけるスコアカードに印が付けられ、個票に記入され、そして ＲＴＳジュリーに即座に報告されなければならない。減点に際しそれに先立つ警告（イエローカード）を必要としない。

ｃ）**失格（レッドカード)(ＤＳＱ)**: 競技後検査（6.7.9.1）を合格できなかった選手またはショットガンルールの9.4.1.1または9.4.3.2.dに違反した選手は失格（ＤＳＱ）とされなければならない。その他の理由による失格はジュリーの多数決によって裁定された場合のみ科すことができる。選手の失格はジュリーによって**失格**と書かれた**レッドカード**を提示することで行われる。その種目のどの場面（予選、本選またはファイナル）においても失格となった選手は、その種目の全ての成績が抹消され、成績表の最下位に、失格となった理由を付けて表示される。

ｄ）**非スポーツマン行為（ＤＱＢ)**: 安全に関する深刻な違反または競技役員または他の選手に対する暴力または暴言行為（6.12.6.4）でジュリーの多数決により失格となった選手については、その選手権大会におけるその選手の参加した全種目の成績が抹消され、ＤＱＢと表示されなければならない。

ｅ）**アンチドーピングルール違反（ＡＤ－ＤＳＱ)**: アンチドーピングルール違反で失格となった選手については、その選手権大会におけるその選手の参加した全種目の成績が抹消され、ＡＤ－ＤＳＱと表示されなければならない。

ｆ）ペナルティは口頭説明およびイエロー、グリーン、レッドカードの提示によって示されるべきである。
ペナルティカードの大きさは約７０ｍｍ×１００ｍｍとすべきである。

ｇ）団体のメンバーが失格となった場合、その団体は順位付けされず、備考欄にＤＳＱと表示されなければならない。

ｈ）罰則または失格があった場合、ジュリーは、その理由を説明する成績表の備考を提供するか、または承認しなければならない。

6.12.6.3 **安全に関する深刻な違反**
選手が危険な方法で銃を扱うかまたは危険行為により安全規定に違反したとジュリーが確認した場合、その選手は失格（ＤＳＱ）とされなければならない（6.2.2 参照)。

6.12.6.4 競技役員または選手に対する暴力または暴言行為
ジュリー、レフリー、射場役員、他の競技役員または他の選手に対し、暴言またはつかむ、押す、突く、殴るまたは似たような方法で身体的接触を行った選手またはチーム役員は、その選手権大会から除外されることもある。このような身体的暴行または暴言はその種目を統括する責任を負うジュリーチェアパーソンに報告されなければならない。申し立ての暴力または暴言行為を裏付ける目撃者または物的証拠が 1 つ以上確認されなければならない。その後、ジュリーはその選手またはチーム役員を選手権から除外すべきかどうかの決断をしなければならない。除外の決定は上訴ジュリーに上訴することができる（6.16.6）。もしジュリーや上訴ジュリーがその暴力または暴言行為の重大性によりさらなる制裁を科すことが正当であると結論を下したならば、該当選手やチーム役員のその大会からの除外に加えて、さらなる検討のためにＩＳＳＦ倫理委員会（ＧR3.13.3.5、付則ＣＥ）に付託することができる。

6.13 **故障**

6.13.1 故障の発生は引き金を引いたときに銃が弾を発射できなかったときである。

6.13.2 故障は**許容できる**かまたは**許容できない**かのどちらかに分けられる。

6.13.2.1 **許容できる故障**

ａ）弾の不発。
ｂ）銃身内の停
弾。
ｃ）引金機構が作動したうえでの不発射または誤作動。

6.13.2.2 **許容できない故障**

ａ）選手が銃の機構を開けた場合。
ｂ）安全装置が解除されてなかった場合。
ｃ）選手が銃に適切に装填しなかっ
た場合。
ｄ）選手が引金を引かなかった場合。
ｅ）その故障の原因が選手により排除できたと合理的に判断できる場合。
ｆ）電気トリガーを使用していた場合の電池切れ

6.13.3 銃または弾薬に故障が生じた場合、選手は修理して射撃を継続することができるが、その故障が許容できる故障の場合、ルールに従い同じタイプの同じ口径の別の銃で射撃を継続することもできる。交換した銃は指名選択検査の対象となる。

6.13.4 １０ｍ、５０ｍ、３００ｍのライフル、ピストル種目の予選および本選ラウンドにおいて、故障後の銃の修理や交換のための時間延長は認められない。しかしながらジュリーは許容できる故障の場合で銃を修理または交換した後の追加の試射については認めることができる。

6.13.5 ２５ｍピストル種目における故障に関する特別ルールは 8.9.3 である。
追 6.13.5-2 **ビームライフル、ビームピストル種目における故障に関する特則**

6.13.6 ファイナルにおける故障に関する特別ルールは6.17.1.6、6.17.4.ｏおよび6.17.5.ｋにある。

6.13.7 ショットガンの故障に関する特例ルールは9.12にある。

6.13.8 射場役員、レフェリーまたはジュリーは故障が射場事故報告書または故障採点票に記録され、個票に記入されていることを確認しなければならない。

6.14 **採点と成績手順**

6.14.1 ＲＴＳ室は各種目、各射群、各ステージが終了後、可能な限り速やかに速報を射場の成績発表板に掲示しなければならない。

6.14.2 公式最終成績は、抗議時間が過ぎた後、メインスコアボードに発表されなければならない。

6.14.3 **成績配布**：大会組織委員会は速報および公式最終成績をすべての大会役員、参加団体およびメディアに配布しなければならない。これらは紙または電子媒体の成績表で行うことができる（6.6.5. ｂ“サステナビリティ選択”参照）。

6.14.4 各ＩＳＳＦ選手権大会の後、公式ＩＳＳＦ成績プロバイダーは電子版（オンライン版）公式成績本を発行する。各選手権大会の公式成績本には次の事項が含まれなければならない。
ａ）目次
ｂ）テクニカルデレゲートおよび主任ジュリー全員の署名のある成績保証のページ
ｃ）競技役員の一覧
ｄ）国別参加者一覧
ｅ）競技日程
ｆ）メダリストの氏名一
覧
ｇ）国別獲得メダル数一
覧
ｈ）新記録、タイ記録一
覧
ｉ）ＩＳＳＦ基準の種目順に並べられた最終成績表：１）男子の１０ｍ、５０ｍ、３００ｍライフル種目、２）男子の１０ｍ、２５ｍ、５０ｍピストル種目、３）男子のトラップ、スキート種目、４）男子の１０ｍ、５０ｍムービングターゲット種目、５）男子の団体種目、６）女子の１０ｍ、５０ｍ、３００ｍライフル種目、７）女子の１０ｍ、２５ｍピストル種目、８）女子のトラップ、スキート種目、９）女子の１０ｍムービングターゲット種目、１０）女子の団体種目、１１）１０ｍ、２５ｍ、５０ｍ、３００ｍ、トラップ、スキートのミックス種目

6.14.4.1 成績表には各選手のＩＳＳＦＩＤ番号を取得した際に使用した氏名(姓は大文字、名は最初の文字のみ大文字)、Ｂｉｂ番号、国名(公式ＩＯＣ略称)が記載されていなければならない。

6.14.4.2　必要に応じ成績表では以下の略号が使用されなければならない。

ＤＮＦ	Did Not Finish　（途中棄権）
ＤＮＳ	Did Not Start　（欠場）
ＤＳＱ	Disqualified　（失格）
ＤＱＢ	Disqualification for Unsportsmanlike Behavior　（非スポーツマン行為による失格）
ＷＲ	New World Record in a Final　（世界新記録）
ＱＷＲ	New Qualification World Record　（本選世界新記録）
ＥＷＲ	Equaled World Record in a Final　（世界タイ記録）
ＥＱＷＲ	Equaled Qualification World Record　（本選世界タイ記録）
ＷＲＪ	New World Record Junior in a Final　（ジュニア世界新記録）
ＱＷＲＪ	New Qualification World Record Junior　（ジュニア本選世界新記録）
ＥＷＲＪ	Equaled World Record Junior in a Final　（ジュニア世界タイ記録）
ＥＱＷＲＪ	Equaled Qualification World Record Junior （ジュニア本選世界タイ記録）
ＯＲ	New Olympic Record in a Final　（オリンピック新記録）
ＥＯＲ	Equaled Olympic Record in a Final　（オリンピックタイ記録）
ＱＯＲ	Olympic Qualification Record　（本選オリンピック新記録）
ＥＱＯＲ	Equaled Olympic Qualification Record　（本選オリンピックタイ記録）
ＭＱＳ	Minimum Qualification Score　（オリンピック大会参加最少得点）
ＲＰＯ	Ranking Points Only （ランキングポイントのみ）
ＯＯＣ	Out Of Competition　（オープン参加）

6.14.5　公式最終成績はその正確性を確認したＲＴＳジュリーによって実証されサインされなければならない。

6.14.6　すべての不測の事態、罰則、失中、故障、許可された延長時間、弾またはシリーズの再射、発射弾の取り消しなどは、射場役員やジュリーによって、すべて**射場事故報告書**、個票、プリンター用紙、およびショットガンではスコアカードに明確に印を付け、記録されなければならない。**射場事故報告書**（様式ＩＲ）の完全なコピーはＲＴＳ室に即座に運ばれなければならない。各競技の終了時には、ＲＴＳジュリーはすべての故障に関する計算と罰則が正しく成績に反映されているかを確かめるために成績表を点検しなければならない。

6.14.7　ライフル、ピストルおよびショットガン種目の得点からの減点は必ず違反が起こったシリーズまたはラウンドで行われなければならない。全般的な減点措置は、減点の生じたステージの第１シリーズの最も低い得点から行われなければならない。

6.14.8　ＲＴＳジュリーは、最終成績表の承認前に、上位１０名の個人成績と上位３チームの団体成績を確認しなければならない。ＥＳＴを使用する場合は、メインコンピューターに記録された得点を、プリンター用紙または独立したメモリーに記録された得点（6.3.2.7）と比較するとともに、事故報告書（ＩＲ）または故障採点票に記録されたすべての手動による得点修正も確認しなければならない。

6.14.9　**世界記録**
ＧＲ3.10（6.1.2.bも参照）に従って行われるすべてのＩＳＳＦ選手権大会で行われる金メダルの授与されるすべてのＩＳＳＦ種目において世界記録（ＷＲ）が認められる。どの記録も（試合で）表彰対象となる選手によって出されたもののみ認められる。ＲＰＯ、ＭＱＳのみまたはＯＯＣ資格で参加した選手の出した記録では認められない。

6.14.9.1　オリンピック記録（ＯＲ）はオリンピック大会のみで記録される。

6.14.9.2　非オリンピック種目のジュニア世界記録（ＷＲＪ）はその種目の合計点をもってジュニア世界記録とする。

6.14.9.3　本選世界記録（ＱＷＲ）とジュニア本選世界記録（ＱＷＲＪ）は、すべてのオリンピック種目の本選の合計得点によって設定する。

6.14.9.4　ＩＳＳＦ選手権大会において世界記録が生まれた場合、テクニカルデレゲートによって世界記録の確

認手順（ＧＲ3.13.3.6、付則Ｒ）の報告が作成され、ＩＳＳＦ本部に送られなければならない。

6.15 **同点の順位決定（タイブレーク）**

6.15.1 **※１０m、２５m、５０m、３００m種目の個人競技の同点**

１０m、２５m、５０m、３００m種目における同点は次のルールによってすべて順位決定がなされる。

整数点得点の場合：

ａ）Ｘ圏（インナーテン）の数の多い者。

ｂ）最終シリーズ１０発の合計点（Ｘ圏の数や小数点得点ではない）の多い者。以下均衡が破れるまでシリーズを逆順にさかのぼる。

ｃ）最終弾の得点（Ｘ圏を含む）の高い者。以下均衡が破れるまで１発ずつ逆順にさかのぼる。

ｄ）それでも同点が残り、ＥＳＴを使用していた場合、最終弾の小数点得点の高い者。以下均衡が破れるまで１発ずつ逆順にさかのぼる。

ｅ）以上をもってしても順位が決定しない場合、当該選手は同順位とし、選手の姓のアルファベット順に記載されなければならない。

小数点得点の場合：

ｆ）１０mエアライフルと５０mライフル伏射種目の予選または本選ラウンドで小数点得点を使用した場合、同点の順位決定はまず最後の１０発シリーズから逆順に小数点得点を比較し、なお同点なら、最後の発射弾から１発ずつ逆順に小数点得点を比較して決定する。

追 6.15.1-2 **ビームライフル、ビームピストル種目の個人競技の同点に関する特則**

6.15.2 **ショットガン種目の同点**（9.15 参照）

6.15.3 **ムービングターゲット種目の同点**（10.12 参照）

6.15.4 **ファイナルのあるオリンピック種目の同点**

ライフルまたはピストル種目の本選ラウンドの結果、ファイナル進出の可否が問われる順位の決定は個人種目の同点の順位決定ルール 6.15.1 によって決定される。

6.15.5 **団体競技の同点**

団体競技の同点の順位決定は、ミックスチーム種目の本選における同点の場合を含めて、チーム全員の結果を合計して、個人競技の同点の順位決定の手順を適用し決められなければならない。

6.16 **抗議（プロテスト）と上訴（アピール）**

6.16.1 すべての抗議と上訴はＩＳＳＦルールに従って裁定される。

6.16.2 **口頭抗議（バーバル プロテスト）**

6.16.2.1 選手またはチーム役員は、競技会の状況、大会役員の裁定または行動に関する抗議をレフェリー、射場役員またはジュリーに、次に示すような事態において、即座に口頭で行う権利を持つ。

ａ）選手またはチーム役員が競技会の進行がＩＳＳＦルールや大会要項に従ってないと判断した場合。

ｂ）選手またはチーム役員が競技役員、レフェリー、射場役員またはジュリーの裁定や行動に同意できない場合。

ｃ）選手が他の選手、競技役員、観客、報道関係者、その他の人々や原因によって干渉や妨害を受けた場合。

ｄ）射場設備の故障、不測の事態の解決、その他の原因により長時間射撃が中断した場合。

ｅ）射撃時間が短すぎる等、射撃時間が不規則な場合。

6.16.2.2 レフェリー、射場役員およびジュリーは口頭での抗議については即座に対応しなければならない。抗議を受け取ったレフェリー、射場役員およびジュリーは事態解決のため直ちに行動をするか、またはジュリー全員による採決に委ねることができる。そのような場合、レフェリー、射場役員およびジュリーは必要に応じて一時的に射撃を中断することができる。

6.16.3 **書面抗議（リトゥン プロテスト）**

選手またはチーム役員は、**口頭抗議**に対する処置や裁定に**同意できない**場合、ジュリーに書面をもって抗議することができる。選手またはチーム役員には口頭抗議をすることなく**書面抗議**を行う権利も持つ。すべての書面抗議はその問題が起きてから、または事態の起ったラウンドが終わったあと２０分以内に適切なジュリーに提出されなければならない。抗議料の支払義務は発生する。書面抗議および上訴は**ＩＳＳＦ抗議用紙**（様式6.19参照）で提出されなければならない。

6.16.4 **※書面抗議または上訴をジュリーに提出する際の抗議料**には次の金額を支払う。

ａ）抗議　　５０.００ユーロ

ｂ）上訴　　１００.００ユーロ
ｃ）抗議料の支払い義務は完成した抗議用紙がジュリーに届けられたときに発生する。抗議料はできるだけ速やかにジュリーまたは組織委員会に支払われなければならない。
ｄ）抗議および上訴料は抗議または上訴が認められた場合は返却されなければならないが、却下された場合には組織委員会が収納する。

6.16.5　**得点に関する抗議（スコアリング プロテスト）**
得点や標的上の弾痕の数に関するＲＴＳジュリーの裁定は最終のものであり上訴することはできない。

6.16.5.1　**得点に関する抗議時間**
すべての得点または成績に関する抗議は速報が射場スコアボード（6.4.2. ｉ）に掲示されてから**１０分以内**に提出されなければならない。この抗議締切時刻は、速報掲示時に、射場スコアボード上に示されなければならない。得点に関する抗議の提出場所は公式プログラムに掲載されていなければならない。

6.16.5.2　**電子標的の得点に関する抗議**
選手がＥＳＴに**表示された得点に対して抗議**する場合、その抗議が次弾または次シリーズ（２５m種目）の発射前か、最終弾の場合、その発射後３分以内であれば受理される。この時間制限はロール紙またはゴムバンドの送り不良または標的故障の場合には適用されない。
ａ）得点に関する抗議が行われた場合、選手はその競技の最後にもう１発の追加射撃を要求される。抗議が認められ、抗議に係る弾痕の正しい得点を決めることができなければ、このエクストラショットの点数を得点とすることができる。
ｂ）ＲＴＳジュリーが抗議に係る弾痕の得点と表示された得点が小数点 0.2 点以内なら、抗議は却下されなければならない。
ｃ）０点表示または表示なし以外の得点に関する抗議が認められなかった場合、抗議に係る弾痕の得点から２点が減点され、抗議料が支払われなければならない。
ｄ）チーム役員や選手は抗議をした弾痕の処理について知る権利を持つ。
ｅ）予選または本選ラウンドにおいて、５０ｍＥＳＴで９.５点以上の得点が表示された弾痕の得点については抗議することはできない。
ｆ）ファイナルにおいて、得点や発射弾数に関する抗議は許されない(6.17.1.7)。

6.16.6　**上訴（アピール）**
ジュリーの裁定に同意できない場合、最終であり上訴することのできないファイナル抗議ジュリーの裁定（6.17.1.10. ｄ)およびＲＴＳジュリーによる発射弾の得点と発射弾数の決定（6.16.5）を除いて、上訴ジュリーに上訴できる。上訴はジュリーの裁定が発表されて３０分以内にチームリーダーまたは代表者によって書面で提出されなければならない。**上訴ジュリーの裁定は最終である。**

6.16.7　書面抗議および上訴に関する**すべての裁定のコピー**はテクニカルデレゲートの最終報告書とともに、適切な部門や技術委員会で再検討するため、テクニカルデレゲートによってＩＳＳＦ事務局長に送付されなければならない。

6.17　**オリンピックのライフルおよびピストル個人種目のファイナル**

6.17.1　**ファイナル競技の全般手順**　これらの手順は１０m、２５mおよび５０mのライフルおよびピストルの個人種目のすべてのファイナルに用いられる。
各種目の手順については、以下の条文に記載されている。
6.17.2　－　１０mエアライフルおよび１０mエアピストルの男子および女子種目
6.17.3　－　５０mライフル三姿勢の男子および女子種目
6.17.4　－　２５mラピッドファイアピストル男子種目
6.17.5　－　２５mピストル女子種目
6.18　－　１０mエアライフルおよび１０mエアピストルのミックス種目
ショットガン種目の手順については 9.17 に示されている。

6.17.1.1　**ファイナルへの進出**　その種目のファイナル進出者を決めるために、その種目に出場するすべての選手が本選（ＧR3.3.5 および 3.3.6.5）を行う。本選における上位８名がファイナルへ進出する。

6.17.1.2　**ファイナルの射座**　ファイナルの射座は、ファイナルスタートリスト作成時に、コンピューターによって自動的に行われるくじによって割り当てられる。１０mおよび５０mの射座はＲ１－Ａ－Ｂ－Ｃ－Ｄ－Ｅ－Ｆ－ Ｇ－Ｈ―Ｒ２と表示されなければならない。２５mピストル女子のファイナルの

射座はＡ－Ｂ－　Ｒ１－Ｃ－Ｄ／Ｅ－Ｆ－Ｒ２－Ｇ－Ｈと表示されなければならない。予備的はＲ１およびＲ２と示される。２５ｍラピッドファイアピストルではＡ－Ｂ／Ｃ－Ｄと示される。

6.17.1.3 **出頭時刻と開始時刻**　ファイナルの開始時刻は、射場長が本射の第一シリーズまたは第一発目の号令をかける時刻とする。選手は、開始時刻の少なくとも３０分前にはファイナル射場のプレパレーションエリアに出頭しなければならない。遅刻した選手には、２点もしくは２ヒットの減点が本射第一シリーズまたは第一発目に科せられ、２５ｍ種目では２ヒットの減点はその選手の最初の２ヒットに科せられる。その際、選手はファイナルに使用する十分な数の弾薬およびすべての用具、競技用の服装、表彰式用のユニフォームを持参しなければならない。ジュリーは全ファイナリストの出頭確認とその氏名、国籍が正しく集計システムとスコアボードに記入されていることを確認しなければならない。ジュリーは選手が出頭したら、この時間内に可能な限り迅速に用具のチェックを完了させなければならない。ファイナル中の警備体制は、待機場所に置かれている全ての用具および選手の所持品の安全を確保するものとすべきである。

6.17.1.4 **遅刻** 出頭時刻から１０分後までにプレパレーションエリアに出頭していないファイナリストはファイナルに参加することはできず、ＤＮＳが表示されファイナルにおける最初の脱落選手として記録される。その際のファイナルにおける第一エリミネーションは第７位の選手の決定から始まる。

6.17.1.5 **採点** 本選の成績はファイナル進出の権利を選手に与えるが、得点の持ち越しはされない。ファイナル得点はルールに従い０点から始まる。減点やペナルティは違反のあった本射シリーズまたは本射弾の得点に科せられなければならない。ただし、その得点は０を下回ることはない［例：　３－１（減点）＝２、０－１（減点）　＝　０］。

6.17.1.6 **１０ｍおよび５０ｍ種目のファイナルにおける故障**　本射１発の間に発生した許容される故障（6.13.2）については、故障の修理または銃の交換のために最大１分間が与えられ、その後選手は再射を命じられる。５発または１０発シリーズで許容される故障が発生した場合で、故障の修理や銃の交換が１分以内にできるならば、そのシリーズで発射されている弾による得点は集計され、選手は故障を申告した時の残り時間に加えて修理や交換に要した１分を超えない時間分の時間の中でそのシリーズを完射することが許される。ファイナリストはファイナル中に１回のみ許容される故障が申告できる。

6.17.1.7 **得点に関する抗議**　ファイナルにおいて、得点や発射弾数に関する抗議は許されない。

6.17.1.8 **ファイナル中の電子標的に対する不満**

ａ）試射中に、標的が正しく作動していないと不満を表明した選手は、標的に対して１発撃ち込むように命じられなければならない。標的がその弾に対して正しく作動した場合は、ファイナルはそのまま継続される。正しく作動しない、またはロール紙やゴムロールの送り不良による場合ならば、射場長は全ファイナリストに対し“**ＳＴＯＰ．．．ＵＮＬＯＡＤ**（ストップ アンロード）”の号令を発し、故障した標的の選手を予備的に移動させなければならない。その選手が予備的で射撃体勢がとれたならすぐに、射場長は全ファイナリストに対し２分間の準備時間を与え、その後準備および試射時間を再開させる。

ｂ）本射中に想定外の０点表示に関する不満の表明があった場合、ジュリー（担当ジュリー、第２競技ジュリーおよびＲＴＳジュリー１名)は０点表示の弾が実際に０点なのか標的の故障なのかを判定しなければならない（ジュリーは標的検査のために、射場長に射撃を止めさせるように指示できる）。ジュリーが０点であるという確かな証拠が見つけられなければ、その選手にはエクストラショット/シリーズ（１０ｍおよび５０ｍ種目では１発、２５ｍピストル女子ではそのシリーズの完射（１発）、２５ｍラピッドファイアピストル男子ではそのシリーズの再射）を撃つ指示が与えられなければならない。そのエクストラショット/シリーズが採点された場合は、想定外の０点表示の代わりにその得点を集計することとなり、ファイナルは継続されなければならない。２５ｍラピッドファイアピストル男子のファイナルでは元のシリーズのヒット数に代わって再射シリーズのヒット数が集計されなければならない。

ｃ）想定外の０点表示に対するエクストラショット/シリーズが採点されなかった場合、選手は予備的（２５ｍＲＦＰの場合は別の標的グループ）に移動しなければならない。１０ｍまたは５０ｍのファイナルでは、予備的に移動した選手は２分間の準備および試射時間を与えられなければならない。移動した選手は、他の選手達とのファイナルに戻る前に、号令により、想定外の０点表示の出た射撃に代わる１発、シリーズ完射または再射シリーズ（２５ｍＲＦＰ）を撃つことが許されなければならない。

ｄ）ファイナルが中断している間、他のファイナリストには照準練習や空撃ちが許される。想定外の０点の問題の解決に係る中断が合計で５分を超えた場合、１０ｍおよび５０ｍ種目のファイナリスト全員に、ファイナルに戻る前に２分間の試射時間が与えられなければならない。

ｅ）５０ｍライフル三姿勢ファイナルにおいて、２２分間の本射ステージ中に予期しない０点（記録されなかった弾痕）についての申告があった場合、以下の手順を適用する。
- 担当ジュリーは直ちに当該選手の残り時間を記録し、同一標的に追加で１発を撃つよう指示する。
- 追加の１発が正常に記録された場合、その得点を採用し、記録されなかった１発は無効とする。追加時間は与えない。
- 追加の１発が記録されなかった場合、ジュリーは直ちに当該選手に予備射座への移動を指示する。この際、射場役員が補助し、他のファイナリストの妨げにならないよう注意する。移動中および射撃までの準備中、当該選手のコーチは選手に近づいて話すことができる。
- 予備射座での射撃の準備が整った時点で、当該選手は標的故障が発生した時点の残り時間に２分を加えた時間内で、残りの膝射・伏射の本射と、それに伴う必要な試射・立射の準備試射をすべて行うことができる。担当ジュリーは当該選手に最大残り時間を告知する。
- 当該選手が移動し残りの射撃を行っている間に、他のファイナリストの２２分間は終了している可能性がある。ＣＲＯは「ＳＴＯＰ，ｅｘｃｅｐｔ ｆｏｒ ｔｈｅ ａｔｈｌｅｔｅ ｏｎ ｆｉｒｉｎｇ ｐｏｉｎｔ ‘Ｘ’」と号令する。他のファイナリストは当該選手が残りの本射と立射の試射を終えるまでの間、照準練習および空撃ちを行うことができる。この所要時間は最大７分とする。
- 移動した当該選手の残り時間が終了したら、ＳＴＯＰの号令をかける。その後、全選手に立射の試射を２分間行う時間が与えられ、最初の本射シリーズの準備をする。その後ファイナルは通常どおり継続される。

6.17.1.9 **※ファイナル射場の備品** ファイナル射場には競技役員、選手、コーチ、観客のために結果順位が表示される電光掲示板とファイナリストの見ることのできるカウントダウン時計および音響システムが設備されてなければならない。もしカウントダウン時計をすべてのファイナリストが見ることができなければ、全ファイナリストからはっきり見えるモニターに、すべての制限時間が表示されなければならない。ジュリー、射場役員、コーチと脱落して射座から引き揚げる選手のために椅子が用意されていなければならない。テーブルまたはベンチが、ファイナル射場への入場前または射座から引き揚げる際に選手の用具を置いておくことができるように、用意されてなければならない。

6.17.1.10 **ファイナル役員** ファイナルの進行および監督は以下の役員配置によって行われなければならない。

ａ）**射場長（ＣＲＯ）** ＩＳＳＦのＡまたはＢライセンスをもった経験豊富な射場長がファイナルを進行しなければならない。

ｂ）**競技ジュリー** 競技ジュリーはファイナルの進行の監督を行う。ジュリーチェアパーソンは自分自身またはジュリーメンバーから一名の担当ジュリーを任命しなければならない。

ｃ）**ＲＴＳジュリー** ＲＴＳジュリーのうち一名がファイナルにおける成績決定の過程を監督するためにその場にいなければならない。

ｄ）**ファイナル抗議ジュリー** テクニカルデレゲートおよびジュリーチェアパーソンから任命された上訴ジュリーの一名と担当ジュリーおよび別の一名の競技ジュリーがファイナル抗議ジュリーとして行動しなければならず、ファイナル中に生じたあらゆる抗議に対して裁定を下さなければならない。このファイナル抗議ジュリーの裁定に対する上訴は許されない。

ｅ）**射場役員（ＲＯ）** 一または二名の経験豊富な射場役員がファイナル中の銃の安全のチェック、 ＦＯＰへの出入り関してファイナリストおよびコーチの案内および故障の申告の取り扱いについて射場長を補佐する。

ｆ）**技術役員** 公式記録提供者はＥＳＴの準備と操作、結果のディスプレイへの表示および技術的トラブルに関してジュリーとともに解決を図るために技術役員を任命する。

ｇ）**アナウンサー** ＩＳＳＦまたは組織委員会によって任命された役員が射場長とともに放送を担当し、ファイナリストの紹介、得点の発表、観客への情報の提供に責任を持つ。

ｈ）音響技術員 資格を持った技術役員がファイナルにおける音響および音楽装置を扱うために配置されなければならない。

6.17.1.11 **ファイナルの演出および音楽** ファイナルの運営は選手や選手の技の競い合いを観客やテレビの視聴者に最も強く訴えかけ、かつ彼らを最も興奮させることのできる完璧な演出の手段として色彩、照明、音楽、アナウンス、コメント、舞台および射場長の号令を用いなければならない。

6.17.1.12 **ファイナリストの紹介** “ＡＴＨＬＥＴＥＳ ＴＯ ＴＨＥ ＬＩＮＥ（アスリート トゥー ザ ライン）”の号令後、選手は一人ずつ入場し、その時にアナウンサーは各選手をその

氏名、国籍とそれぞれの短い情報によって紹介する。アナウンサーは射場長と担当ジュリーの紹介も行う。

6.17.1.13 **ファイナルにおける抗議**

ａ）ファイナルにおける抗議は口頭で即時に行わなければならない。抗議は選手またはその選手のコーチが挙手をすることによって行われる。

ｂ）ファイナルにおける抗議では抗議料は徴収されない。

ｃ）どのような抗議に対してもファイナル抗議ジュリー（3.13.3.7、6.16.6 および 6.17.1.10.d）が即座に裁定しなければならない。ファイナル抗議ジュリーの裁定は最終であり、上訴することはできない。

ｄ）ファイナルにおける抗議が認められなかった場合、２点または２ヒットの減点が抗議に関わる弾またはシリーズの得点に科せられなければならない。

6.17.1.14 **ファイナルの手順とルール**

ａ）このルール（6.17）でカバーできない事態には、ＩＳＳＦＧＴＲまたは各種目のルールが適用される。

ｂ）**出頭および用具のセットアップ**：プレパレーションエリアでの出頭報告の後、ファイナル開始時刻の少なくとも２０分前には、ファイナリストまたはコーチは選手の銃や用具を自分の射座に置くことが許されなければならない。銃ケースや用具バッグはＦＯＰに残して置いてはならない。この時には照準練習は許可されない。その後、選手は、紹介やウォームアップのために射線に呼ばれる準備をするため、プレパレーションエリアに戻っておかなければならない。コーチはＦＯＰ内にある自席に座る。

ｃ）**選手の入場**：担当する射場役員（NTO）は、開始時刻の１０分前に、ファイナル射場の近くに選手が一列に並ぶように指示を出す。ライフルのファイナリストがプレパレーションエリアから射線に呼ばれたとき、ファイナリストはジャケットやズボンのボタンやファスナーを閉じた状態の完全な服装で射線まで歩いていかなければならない。射場長は“ＡＴＨＬＥＴＥＳ ＴＯ ＴＨＥ ＬＩＮＥ（アスリート トゥー ザ ライン）”と号令をかける。「歩行」については7.5.2.3参照。

ｄ）**セフティフラッグ**：ファイナリストは、射線に呼ばれた後、銃を取り扱い、姿勢をとり、据銃し、照準練習をすることができるが、“ＰＲＥＰＡＲＡＴＩＯＮ ＡＮＤ ＳＩＧＨＴＩＮＧ ＴＩＭＥ ＳＴＡＲＴ（プレパレーション アンド サイティング タイム スタート）”または“ＰＲＥＰＡＲＡＴＩＯＮ ＢＥＧＩＮＳ ＮＯＷ（プレパレーション ビギンズ ナウ）”（２５ｍピストル）の号令がかかるまで、セフティフラッグを抜くことや空撃ちをすることはできない。

ｅ）**空撃ち**：ファイナルにおいて、空撃ちが許されるのは、準備および試射時間、姿勢の切換えと試射時間、または準備時間中に限られる。そのほかの時の空撃ちは、１０ｍおよび ５０ｍ種目においては１点、２５ｍピストル種目においては１ヒットの減点とされなければならない。

ｆ）**早すぎる装填**：射場長の“ＬＯＡＤ（ロード）”または“ＳＴＡＲＴ（スタート）”の号令のあるまで、ファイナリストはライフルやピストルに弾を装填することは許されない。これは“ＬＯＡＤ（ロード）”の号令が無い準備および試射時間において、“ＳＴＡＲＴ（スタート）”が装填の許可をも示すようにさせるためである。弾の装填とは弾、空気銃弾または弾の入った弾倉を銃に接触させることをいう（6.2.3.4 参照）。

ｇ）**据銃および照準練習**：ファイナルにおいて据銃および照準練習はファイナリストが射線に呼び出されて“ＴＡＫＥ ＹＯＵＲ ＰＯＳＩＴＩＯＮＳ（テイク ユア ポジションズ）”の号令）からファイナル終了の“ＳＴＯＰ...ＵＮＬＯＡＤ（ストップ...アンロード）”の号令がかかるまでの間、据銃や照準練習のできない選手紹介の時間をのぞいて、行うことが許される。２５ｍＲＦＰＭのファイナルにおける据銃練習については6.17.4 hおよび6.17.4 qにある。

ｈ）**スタートまたはロードの号令前の発射**：１０ｍ、２５ｍまたは５０ｍ種目のファイナルでファイナリストが“ＰＲＥＰＡＲＡＴＩＯＮ ＡＮＤ ＳＩＧＨＴＩＮＧ ＴＩＭＥ ＳＴＡＲＴ（プレパレーション アンド サイティング タイム スタート）”の号令の前、または“ＦＯＲ ＴＨＥ ＳＩＧＨＴＩＮＧ ＳＥＲＩＥＳ ＬＯＡＤ（フォー ザ サイティング シリーズ ロード）”の号令の前に弾を装填して、発射した場合、そのファイナリストは失格とされなければならない。

ｉ）**ストップの号令後の発射**：ファイナリストが“ＰＲＥＰＡＲＡＴＩＯＮ ＡＮＤ ＳＩＧＨＴＩＮＧ ＴＩＭＥ ＳＴＯＰ（プレパレーション アンド サイティング タイム

ストップ”の号令、または“**ＣＨＡＮＧＥＯＶＥＲ　ＡＮＤ　ＳＩＧＨＴＩＮＧ　ＴＩＭＥ　ＳＴＯＰ**（チェンジオーバー　アンド　サイティング　タイム　ストップ”の号令の後で、次の本射の“**ＳＴＡＲＴ**（スタート)”の号令前に弾を発射した場合、その弾は本射として採点せず、さらに次の本射１発目に２点の減点が科せられる。

ｊ）**２５ｍピストルー時間前発射**：２５ｍラピッドファイアピストル男子のファイナルでファイナリストがシリーズが始まった後、射撃開始を告げるグリーンライトが点灯する前に弾を発射した場合、そのシリーズは残った４発の得点によって採点されなければならず、さらに１ヒットの減点が科せられる。２５ｍピストル女子のファイナルで、シリーズが始まったあと、ファイナリストが採点開始を告げるグリーンライトが点灯する前に弾を発射した場合、その発射弾はミスと採点されかつそのシリーズの得点から１ヒットの減点が科せられなければならない。シリーズは“ＡＴＴＥＮＴＩＯＮ（アテンション）”の号令により始まるものとする。もしシリーズ開始前に弾を発射した場合、その弾は本射として数えられず、その後の再射または完射のシリーズの得点から１ヒット減点されなければならない。暴発を起こした選手はシリーズを続けてはならず、8.8.2.3に従って行動しなければならない。この手順に従わずそのままシリーズを続行した場合、得点はシリーズが既に開始されていた場合と同じ扱いで採点される。

ｋ）**１０ｍライフルおよびピストルー時間前発射**：１０ｍファイナルの選手が“ＬＯＡＤ（ロード）”の号令のあと“ＳＴＡＲＴ（スタート）”の号令の前に弾を発射した場合、その得点は０点となる。

ｌ）**超過弾**：ファイナリストが１シリーズまたは１発の時間中に超過弾を撃った場合、その超過弾は無効とされ、さらに2点/ヒットのペナルティを正しく記録された最後のショット/シリーズに適用しなければならない。

ｍ）**不注意の発射**：シュートオフや故障による完射または再射シリーズの際にそれに含まれないファイナリストが装填し発射した弾は無効とされなければならない。これが故意ではない間違いならばペナルティは科されない。

ｎ）**セフティフラッグ**は準備および試射時間が始まるまで、銃に挿入されていなければならない。セフティフラッグは選手紹介の時間、選手がファイナルから脱落したときまたはファイナルが終了した時には銃に挿入されていなければならない。ファイナルから脱落した選手は銃口を標的方向に向け、機関部を開放し、セフティフラッグを挿入した状態で、射座、机または用具箱（三姿勢種目）に、銃を置かなければならない。射場役員はすべての銃にセフティフラッグが挿入されているかを確認しなければならない。メダリストはファイナル終了直後、銃を持ってポーズをとることができるが、どの銃もセフティフラッグが挿入され、射場役員のチェックを受けるまで射座から持ち出すことはできない。もし選手が不注意でセフティフラッグを挿入し忘れていたら、射場役員はセフティフラッグを挿入して、安全な状態にすることが許される。

ｏ）コーチング：ファイナルの間、音声によらないコーチングは許される。２５ｍＲＦＰＭのファイナルの装弾エリアでのみ音声によるコーチングが許される。

ｐ）**間違った号令**：個人またはミックスチームのファイナルで射場長が、射群の正しい開始を誤ったり全ての選手が発射を終える前に**ストップ**をかけるなど、間違った号令を発した場合、以下の手順を行わなければならない。

個人またはミックスチームのファイナルで射場長が１発シリーズ中に誤った号令をかけた場合、**すでに発射された弾は採点しなければならない**。射場長は時計を当初の制限時間に戻し、射撃を始められなかった、または完了できなかった選手が残りの弾を撃てるよう、新たな号令をかけなければならない。

個人またはミックスチームのファイナルで射場長が複数発発射するシリーズ中に誤った号令をかけた場合、**すでに発射されている弾は採点されなければならない**が、担当ジュリーは「ストップ」の号令がかかった時に残り時間がどれだけあったかを確定しその時間に６０秒を加えた時間で、撃ち残しのある選手を完射させるためそのシリーズを再開するように、射場長に指示しなければならない。もしその際に、選手がその手順の誤解や不注意によって規定弾数より多くの弾を発射した場合、その超過弾は無効とされるがペナルティは科されない。

ｑ）**メダリストの紹介**：射場長が“ＲＥＳＵＬＴＳ　ＡＲＥ　ＦＩＮＡＬ（リザルツ　アー　ファイナル)”と宣言した後、担当ジュリーは三人のメダリストをＦＯＰに集合させなければならない、そしてアナウンサーはアナウンスによってメダリストを紹介しなければならない。

「銅メダリストは、□□代表、△△△△選手です。」
「銀メダリストは、□□代表、△△△△選手です。」

「金メダリストは、□□代表、△△△△選手です。」

ｒ）**故障**：ファイナル全体を通じて、各選手１回の故障申告が許される。選手には、不必要な遅延なくファイナルが継続できるように、故障した銃器を直すかまたは交換するための１分間を与えることができる。

ｓ）**音楽**：ファイナル中は音楽を流さなければならない。その音楽はテクニカルデレゲートにより承認されるべきである。ファイナルのすべてのステージで、観客の熱狂的な応援は奨励され、推奨される。

ｔ）**罰則**：どのようなペナルティもＩＳＳＦルールに従って科せられる。

ｕ）**想定外の事態**：上記で触れられていない事項に対してもＧＴＲは適用される。ジュリーは各種目のＧＴＲに従って、想定外や異論のある事項についても裁定を行う。

ｖ）**国別標示（ドレスコード)**: 選手はＩＳＳＦドレスコードに沿った射撃服装を身に付けなければならない（6.20）ライフル選手は、次に示すように射撃ジャケットに国別標示をつけなければならない。国旗またはＩＯＣで決められた３文字の国名略号を観客に面する側のポケットか背中の低い部分につける。

6.17.2 **ファイナル－１０ｍエアライフルとエアピストルの男子および女子**

注）時間進行がガイドラインとしてこのルールの中で示されているが、正確な時間進行についてはＩＳＳＦ本部にある“Ｃｏｍｍａｎｄｓ　ａｎｄ　Ａｎｎｏｕｎｃｅｍｅｎｔｓ　ｆｏｒ　Ｆｉｎａｌｓ”をチェックすること。

ａ）ファイナルの様式	ファイナルは制限時間２５０秒で行われる５発の本射シリーズ２回（５＋５発）とそれに続く、号令によって進行される制限時間５０秒の１４発の本射によって構成される。最下位ファイナリストの脱落は１２発目のあとから開始され、２発の本射が終わるごとに行われ、金および銀メダリストが決まるまで続けられる。ファイナルの本射は合計２４発となる。
ｂ）採点	ファイナルにおける採点は０．１点刻みで行われる。ファイナルでの得点の合計点によりファイナルの成績が決まる。同点の場合はシュートオフの成績に従って決められる。本射第一発目の前に起こった反則に対する減点は本射第一発目の成績に科せられる。その他の時点での反則に対する減点はその反則の起こった本射弾の得点に科せられる。
ｃ）用具準備時間（２０分前）	選手または選手のコーチは、少なくとも開始時刻の２０分前には、銃や用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。
ｄ）ウォームアップ時間（約１０分前）	射場長は開始時刻の約１０分前に選手を“ＡＴＨＬＥＴＥＳ　ＴＯ　ＴＨＥ　ＬＩＮＥ（アスリート　トゥ　ザ　ライン）”という号令で射座に入らせる。 選手は一人ずつ入場し、紹介を受けながら自身の射座まで歩いていき、観客に向き合うように整列する。 次にアナウンサーは射場長と担当ジュリーを紹介する。全ての紹介が終わったあと、射場長は“ＴＡＫＥ　ＹＯＵＲ　ＰＯＳＩＴＩＯＮＳ（テイク　ユア　ポジションズ）”の号令をかける。 ライフルは３０秒後、ピストルは１０秒後、射場長は“ＦＩＶＥ（５）ＭＩＮＵＴＥＳ　ＰＲＥＰＡＲＡＴＩＯＮ　ＡＮＤ　ＳＩＧＨＴＩＮＧ　ＴＩＭＥ...ＳＴＡＲＴ（ファイブ　ミニッツ　プレパレーション　アンド　サイティング　タイム　スタート)”という号令によって準備と試射の一緒になった時間を開始する。この時間には、ファイナリストは制限弾数無しの試射を行える。 準備および試射時間の終了３０秒前に、射場長は“３０　ＳＥＣＯＮＤＳ（サーティ　セカンズ）”と号令する。 ５分後、射場長は“ＳＴＯＰ...ＵＮＬＯＡＤ（ストップ...アンロード)”と号令をかける。 試射中は得点のアナウンスは行わない。 標的およびスコアボードは本射に向けクリアされてなければならない。 ６０秒後、射場長は本射第一シリーズの号令をかける。

ｅ）第一ステージ ２×５発 制限時間：２５０秒 各シリーズ　本射開始：０：００	射場長は“**ＦＯＲ　ＴＨＥ　ＦＩＲＳＴ　ＣＯＭＰＥＴＩＴＩＯＮ　ＳＥＲＩＥＳ...ＬＯＡＤ**（フォー　ザ　ファースト　コンペティション　シリーズ　ロード)”と号令をかける。５秒後、射場長は“**ＳＴＡＲＴ**（スタート)”の号令をかける。 ファイナリストは２５０秒で５発を撃つ。 ２５０秒後または全ファイナリストが５発を撃ち終えたら、射場長は“**ＳＴＯＰ**（ストップ)”と号令をかける。 “**ＳＴＯＰ**（ストップ)”の号令の直後、アナウンサーは１５～２０秒で、現在の選手の順位と特筆すべき成績についてコメントする。個々の得点はアナウンスしない。 アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“**ＦＯＲ　ＴＨＥ　ＮＥＸＴ　ＣＯＭＰＥＴＩＴＩＯＮ　ＳＥＲＩＥＳ...ＬＯＡＤ**(フォー　ザ　ネクスト　コンペティション　シリーズ　ロード)”と号令をかける。 ５秒後、射場長は“**ＳＴＡＲＴ**（スタート)”の号令をかける。 ２５０秒後または全ファイナリストが５発を撃ち終えたら、射場長は“**ＳＴＯＰ**（ストップ)”と号令をかける。 アナウンサーは再び選手とその成績についてコメントをし、この後１発ずつのステージに変わり、２発ごとに最下位のファイナリストが脱落していくことを説明する。
ｆ）第二ステージ 単発　　１４×１発 制限時間：５０秒 各１発	アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“**ＦＯＲ　ＴＨＥ　ＮＥＸＴ　ＣＯＭＰＥＴＩＴＩＯＮ　ＳＨＯＴ...ＬＯＡＤ**（フォー　ザ　ネクスト　コンペティション　ショット　ロード)”と号令をかける。 ５秒後、射場長は“**ＳＴＡＲＴ**（スタート)”の号令をかける。 各１発の制限時間は５０秒。 ５０秒後または全ファイナリストが撃発後、射場長は“**ＳＴＯＰ**（ストップ)”と号令をかけ、アナウンサーはファイナリストとその得点についてコメントする。 アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“**ＦＯＲ　ＴＨＥ　ＮＥＸＴ　ＣＯＭＰＥＴＩＴＩＯＮ　ＳＨＯＴ...ＬＯＡＤ**（フォー　ザ　ネクスト　コンペティション　ショット　ロード)”と号令をかける。 ５秒後、射場長は“**ＳＴＡＲＴ**（スタート)”の号令をかける。 この手順を第二十四発目（２回の５発シリーズと１４発）まで繰り返す。 第二十四発目が終了したら、射場長は“**ＳＴＯＰ...ＵＮＬＯＡＤ**（ストップ　アンロード)”と号令をかける。 射場役員は銃の薬室が開けられセフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。
ｇ）エリミネーション	ファイナリストが第十二発目を撃ち終わった後、最下位のファイナリストは脱落させられる（第八位)。以下、次のように最下位のファイナリストが脱落してゆく。 第十四発目の後・・・・第七位 第十六発目の後・・・・第六位 第十八発目の後・・・・第五位 第二十発目の後・・・・第四位 第二十二発目の後・・・第三位（銅メダリストの決定） 第二十四発目の後・・・第二位と第一位（銀、金メダリストの決定）
ｈ）同点の順位決定	もし脱落すべき最下位の選手が同点であった場合、同点の選手は順位決定ができるまで１発ずつのシュートオフを行う。 同点のシュートオフを行う場合は、射場長は直ちに同点の選手の苗字をアナウンスし、通常の手順に従い同点決定のシュートオフの号令をかける。
ｉ）ファイナルの完了	残った２名のファイナリストが第二十四発目を撃ち終わった後、同点も抗議もなければ、射場長は“ＳＴＯＰ...ＵＮＬＯＡＤ（ストップ...アンロード)”と号令し、そして“**ＲＥＳＵＬＴＳ　ＡＲＥ　ＦＩＮＡＬ**（リザルツ　アー　ファイナル)”と宣言する。 ジュリーはメダリストをＦＯＰに集合させ、アナウンサーは即座に、6.17.1.14.ｑ に従って、銅、銀、金メダリストをアナウンスする。

6.17.3　　ファイナルー５０ｍライフル三姿勢男子および女子

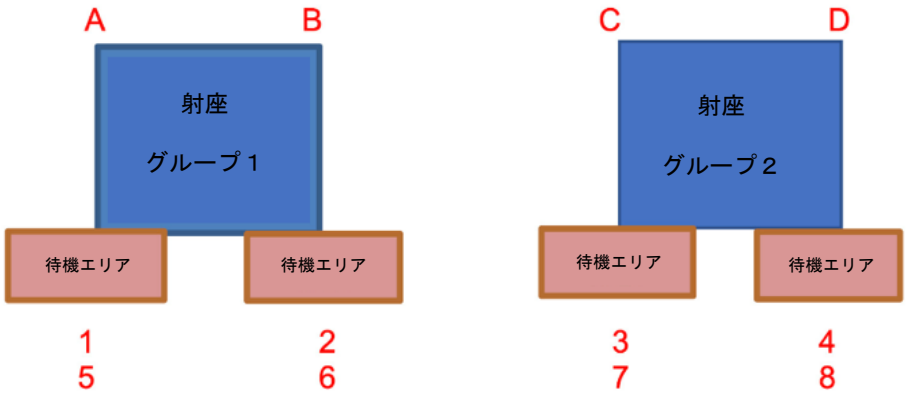
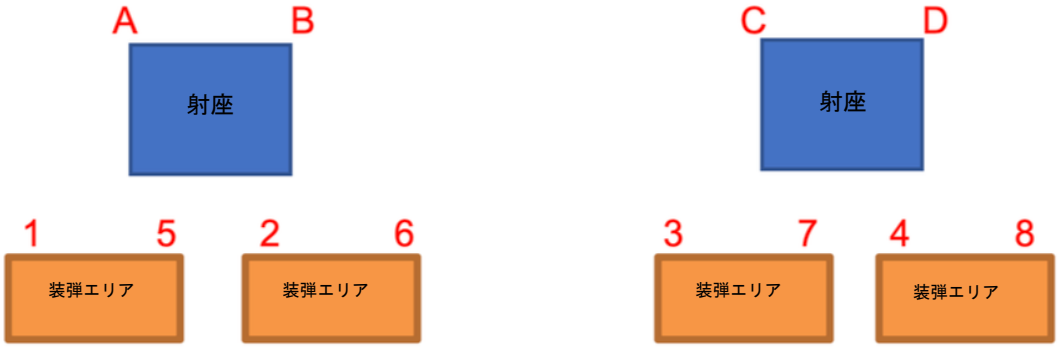
ａ）ファイナルの様式	ファイナルは、まず膝射と伏射各１０発の本射を、この順番に、２２分間で撃つ。伏射の本射を撃ち終えた選手は立射姿勢へ切り換えなければならず、残り時間内に弾数無制限の試射を行うことができる。 選手は、姿勢変換の際の、本射から試射への切り替えに責任をもつ。服装の変更は認められないが、ジッパーやその他の締め具の調整をすることは許容される。 選手は各シリーズ２５０秒の立射５発のシリーズを２回行う。この２回の立射シリーズを終了した時点で下位２名のファイナリストが脱落する。 ファイナルは号令による１発５０秒の立射が続けられ、１発ごとに最下位の選手が脱落していきながら、残った２名の選手が最終発を撃ち、金メダリストが決まるまで続けられる。最終的にファイナルでは３５発撃つことになる。
射場備品	選手には予備の弾薬を含む姿勢変換に伴う全ての用具を入れておくための箱が提供される。この箱は射座の後方に置いておかなくてはならない。 姿勢変換後射座に戻る前に、選手は不必要な用具を射座内に散らからないようにこの箱に入れなければならない。もし選手が不注意に用具をそのまま残して次の姿勢に入った場合、射場役員は、本射に入る前に、目立たないように用具を箱に入れる手助けをすることができる。 射撃マットは各選手が希望に応じて使用できるよう提供される。選手が立射姿勢をとるときには、マットを各射座の後方に置かなければならない。射場役員は使用していないマットの整理または回収を手伝うことができる。
ｂ）採点	ファイナルにおける採点は０．１点刻みで行われる。ファイナルでの得点は加算されその合計点によりファイナルの成績が決まる。同点の場合は下記ｉ）に従って決められる。 本射第一発目の前に起こった反則に対する減点は本射第一発目の成績に科せられる。その他の時点での反則に対する減点はその反則の起こった本射弾の得点に科せられる。
ｃ）用具準備時間 （２０分前）	選手または選手のコーチは、少なくとも開始時刻の２０分前には、ライフルや用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。姿勢変更に必要なすべての銃の付属品および用具は、ファイナル中を通じて選手の射座後方に置いておく１個の容器に保管しなければならない。
ｄ）準備および試射時間 膝射姿勢 （約１０分前）	射場長は開始時刻の約１０分前に選手を“ＡＴＨＬＥＴＥＳ　ＴＯ　ＴＨＥ　ＬＩＮＥ（アスリート　トゥ　ザ　ライン）”という号令で射座に入らせる。 選手は一人ずつ入場し、紹介を受けながら自身の射座まで歩いていき、観客に向き合うように整列する。 次にアナウンサーは射場長と担当ジュリーを紹介する。全ての紹介が終わった後、射場長は”ＴＡＫＥ　ＹＯＵＲ　ＰＯＳＩＴＩＯＮＳ（テイク　ユア　ポジションズ）”の号令をかける。 ファイナリストは膝射の姿勢をとり据銃や照準練習を行うことができるが、セフティフラッグを抜いたり、空撃ちを行うことはできない。３０秒後、射場長は“ＦＩＶＥ　ＭＩＮＵＴＥＳ　ＰＲＥＰＡＲＡＴＩＯＮ　ＡＮＤ　ＳＩＧＨＴＩＮＧ　ＴＩＭＥ...ＳＴＡＲＴ（ファイブ　ミニッツ　プレパレーション　アンド　サイティング　タイム...スタート）”という号令によって準備と試射の一緒になった時間を開始する。この号令の後、ファイナリストはセフティフラッグを引き抜き、空撃ちや制限弾数無しの試射を行える。 試射中は得点のアナウンスは行わない。 準備および試射時間の終了３０秒前に、射場長は“３０　ＳＥＣＯＮＤＳ（サーティセカンズ）”と号令する。 ５分後、射場長は“ＳＴＯＰ（ストップ）”と号令をかける。 選手は、ＥＳＴ技術役員が標的を本射へリセットする間、膝射姿勢を維持しなければならない。射場役員は、すべての標的が正しくリセットされていることを確認し、そのことを射場長に知らせなければならない。

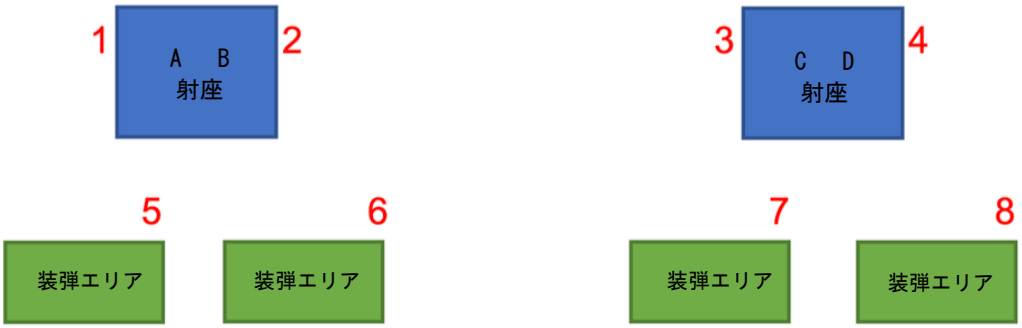
ｅ）本射 膝射と伏射	射場長は”**ＦＩＮＡＬＩＳＴＳ ＨＡＶＥ ＴＷＥＮＴＹ－ＴＷＯ ＭＩＮＵＴＥＳ ＴＯ ＦＩＲＥ ＴＥＮ ＳＨＯＴＳ ＩＮ ＥＡＣＨ ＯＦ ＴＨＥ ＫＮＥＥＬＩＮＧ ＡＮＤ ＰＲＯＮＥ ＰＯＳＩＴＩＯＮＳ ＡＮＤ ＰＲＥＰＡＲＥ ＦＯＲ ＴＨＥ ＳＴＡＮＤＩＮＧ ＰＯＳＩＴＩＯＮ**（ファイナリスツ ハブ トゥエンティトゥー ミニッツ トゥー ファイア テン ショッツ イン イーチ オブ ザ ニーリング アンド プローン ポジション アンド プリペアー フォー ザ スタンディング ポジション）”と号令をかける。 ５秒後、射場長は”**ＭＡＴＣＨ ＦＩＲＩＮＧ ＳＴＡＲＴ**（マッチ ファイアリング スタート）”と号令する。 ファイナリストは膝射を１０発撃ち、その後セフティフラッグを挿入し、伏射姿勢に切換え、弾数無制限の試射の後、伏射の本射を１０発撃つ。その伏射の本射１０発を撃ち終えた後、セフティフラッグを挿入し、立射姿勢に切換えなければならない。その後、２２分間の本射時間の終わりの射場長の”**ＳＴＯＰ**（ストップ）”の号令がかかるまで、残りの時間で弾数無制限の立射の試射を行うことができる。ファイナリストは、射場長の次の号令による、立射の本射に備えなければならない。 姿勢の切換え中はセフティフラッグを挿入し、銃口は常に標的方向になっていなければならない。 ファイナリストは本射から試射および適切な時に試射から本射に標的を切り替えることに責任をもたなければならない。 選手は、姿勢の切換えに際して、ＦＯＰ内で衣服を交換したり、射撃ジャケットまたは射撃ズボンを脱ぐことはできないが、必要に応じてジッパーやボタンを外すことはできる。射撃中および姿勢転換中におけるライフルの調整や用具の移動は選手が行わなければならない。この事には、ＦＯＰの床に落とした用具（例えばセフティフラッグの回収）を拾い上げることも含まれる。選手がＦＯＰにいるときに自力でこれらの事態を完了することができず、何らかの援助が必要となる場合には、２点の減点（グリーンカード）を科されることがある。
ｆ）射場長の号令	開始から１７分後、射場長は”**ＦＩＶＥ ＭＩＮＵＴＥＳ**（ファイブ ミニッツ）”とアナウンスする。 ２１分３０秒後、射場長は”**ＴＨＩＲＴＹ ＳＥＣＯＮＤＳ**（サーティ セカンズ）”とアナウンスする。 ２２分後、射場長は”**ＳＴＯＰ**（ストップ）”と号令をかける。
ｇ）本射 立射 ２×５発シリーズ	３０秒後、射場長は“**ＦＯＲ ＴＨＥ ＮＥＸＴ ＣＯＭＰＥＴＩＴＩＯＮ ＳＥＲＩＥＳ... ＬＯＡＤ**（フォー ザ ネクスト コンペティション シリーズ ロード)”と号令をかける。5秒後、射場長は“**ＳＴＡＲＴ**（スタート)”の号令をかける。 選手は２５０秒で立射の本射シリーズの５発を撃つ。 ２５０秒後、射場長は”**ＳＴＯＰ**（ストップ）”と号令する。 アナウンサーは、現在の順位や次のシリーズの終了時で２名の下位選手が脱落するという事実を含むその他の関連情報を短くコメントする。 同様の号令とアナウンスの手順が、全ファイナリストが立射５発のシリーズを２回終了するまで繰り返される。

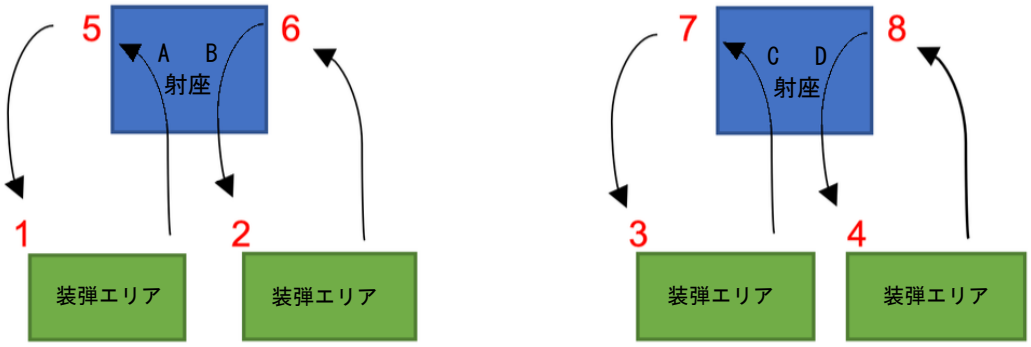
h）エリミネーション 単発シリーズ	立射の第二シリーズが終了した後、下位のファイナリスト２名は脱落させられる（第三十発目 第八位と第七位）。 アナウンサーは脱落した選手を発表し、現在の順位についてコメントする。 アナウンサーのコメントが終了するとすぐに、射場長は”**ＦＯＲ　ＴＨＥ　ＮＥＸＴ　ＣＯＭＰＥＴＩＴＩＯＮ　ＳＨＯＴ...ＬＯＡＤ**（フォー　ザ　ネクスト　コンペティション　ショット...ロード）”と号令し、５秒後に”**ＳＴＡＲＴ**（スタート）”と号令をかける。 残った６名のファイナリストは５０秒以内に１発発射する。 射撃時間のカウントダウン情報は全ての選手が確認でき続けなければならない。 ５０秒後または全てのファイナリストが撃ち終ったら、射場長は”ＳＴＯＰ（ストップ）”の号令をかける。 この手順と適切な号令が全てのファイナリストが１発を撃ち終えるまで続けられ、その後、その時点での最下位の選手が脱落する。アナウンサーは脱落した選手（第６位）を発表し、その他関連するコメントを行う。 残った５名のファイナリストは、号令に従って射撃を続け、以下、次のように１発終了するごとに最下位のファイナリストが脱落してゆく。 第三十二発目の後・・・第五位 第三十三発目の後・・・第四位 第三十四発目の後・・・第三位（銅メダリストの決定） 第三十五発目の後・・・第二位と第一位（銀、金メダリストの決定）
ｉ）同点の順位決定	もし脱落すべき最下位の選手が同点であった場合、同点の選手は順位決定ができるまでシュートオフを行う。 同点のシュートオフを行う場合は、射場長は直ちに同点の選手の苗字と射座をアナウンスし、通常の手順に従い同点決定のシュートオフの号令をかける。 もし立射の２回の５発シリーズを終了して２名の選手が同点であったなら、その両名は脱落することになるが、その同点の順位は以下のカウントバックにより決定される。 １）２回目の立射５発シリーズの得点 ２）１回目の立射５発シリーズの得点 ３）伏射シリーズの最終弾の得点、順次さかのぼる もし３名以上が立射の２回の５発シリーズを終わって同点の場合は、シュートオフを行い脱落する２名の選手を決定する。
ｊ）ファイナルの完了	残った２名のファイナリストが最終弾を撃ち終わった後、同点も抗議もなければ、射場長は“ＳＴＯＰ...ＵＮＬＯＡＤ（ストップ...アンロード）”と号令し、次に“**ＲＥＳＵＬＴＳ　ＡＲＥ　ＦＩＮＡＬ**（リザルツ　アー　ファイナル）”と宣言する。 担当ジュリーはメダリストをＦＯＰに集合させ、アナウンサーは即座に、6.17.1.14 ｑ に従って、銅、銀、金メダリストをアナウンスする。
ｋ）コーチング	コーチはファイナルの前と後に選手の用具等を運ぶ手助けができる。 ファイナル中、コーチは、伏射スリングの取り外し、射撃ジャケットの肩ストラップの調整など衣服の軽微な調整において選手を支援することはできるが、選手にその他の身体的支援をすることはできない。このときには選手との会話が許されるが、ここに記載されているコーチングや支援はすべてＦＯＰ後方のコーチテクニカルエリア内でのみ行われなければならない。 その他の時間は、音声によらないコーチングが許される。

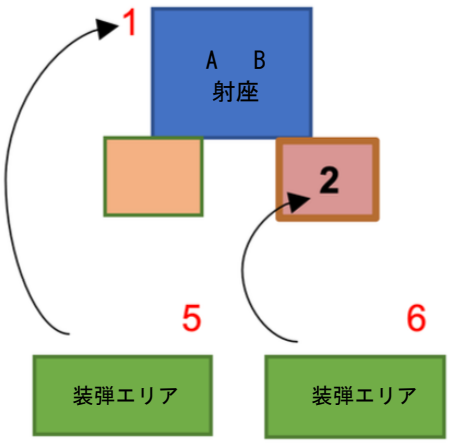
6.17.4　　ファイナルー２５ｍラピッドファイアピストル男子

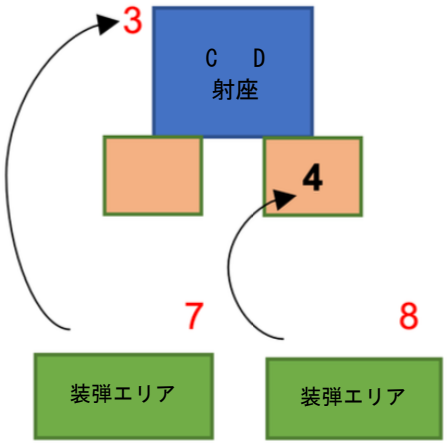
ａ）ファイナルの様式	２５ｍラピッドファイアピストル男子のファイナルは４秒射の５発シリーズのヒットオアミススコアによる８シリーズで構成され、３シリーズ目終了から最下位のファイナリストの脱落が開始され、金および銀メダリストの決まる８シリーズまで続けられる。

ｂ）標的と射座	２５ｍＥＳＴの５的グループ２つを使用しなければならない。射座はＡ－Ｂ／Ｃ－Ｄと表示される。 それぞれのグループに４名ずつファイナリストが割り当てられる。各標的グループには１．５０ｍ×１．５０ｍの射撃位置（射座）が設定される。 １～８までの、ファイナルスタート番号がレポーティングタイムに発表される。ファイナルスタート番号は本選順位に従って割り当てられる（本選１位がファイナルスタート番号１）。 下図に示すように、１、３、５、７番の選手は標的の左側のグループ（ＡとＣ）に割り当てられ、２、４、６、８番の選手は標的の右側のグループ（ＢとＤ）に割り当てられる。  号令により、２名の選手は射座に入る。その２名の選手は、撃つ順になったら、射撃位置の左右の両端で射撃姿勢をとらなければならない。そのときそれぞれの選手は、射撃位置の左右に描かれた線に少なくとも片足が触れていなければならない。
ｃ）装弾エリア	装弾エリアが、それぞれの標的グループごとに、射座の後方に設置される。射座割に従って、４名のファイナリストがそれぞれのエリアに配置される。 
ｄ）採点 減点	ファイナルでの採点はヒットオアミススコアであり、各ヒットは１ポイント、各ミスは０ポイントとして数えられる。２５ｍラピッドファイアピストル標的で９．７点以上の発射弾はヒットと数える。 ファイナルにおける得点の合計（合計ヒット数）により順位が決められる。８位から５位までの同点の順位決定はファイナルスタート番号によって順位が決定される。 本射第一発目の前に起こった反則に対する減点はファイナルにおける最初のヒットから科せられる。その他の時点での反則に対する減点はその反則の起こったシリーズの得点に科せられる。
ｅ）弾速検査	本選終了後２０分以内でファイナルのレポーティング時刻前に、全ファイナリストは、それぞれの弾薬を持って、弾速検査所に出頭しなければならない（8.4.4.3 参照）。

ｆ）出頭時刻 ３０分前と２０分前	選手は開始時刻の３０分前に用具、競技用の服装および表彰式の服装を携えて出頭しなければならない。ジュリーは選手が出頭したら可能な限り迅速に用具のチェックを完了させなければならない。選手または選手のコーチは、開始時刻の少なくとも２０分前には、封印された弾薬を含む用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。 弾薬と弾倉は、射座に置かれる試射シリーズに使用される１個の弾倉および５発の弾薬を除き、装弾エリアに置いていなければならない。試射シリーズ終了後には、弾倉と残った弾薬は装弾エリアに戻さなければならない。 ピストルは射座に置かなければならない。その他の用具については、選手の必要に応じて射座に置くことができる。選手の用具には故障したピストルに換えて使用する予備銃（セフティフラッグが挿入されていなければならない）も含まれる。 ファイナル前の弾速検査に出頭しなかった選手はファイナルに参加することは許されず、ファイナル成績表に「ＤＮＳ」と記載され８位となる。
ｇ）呼び出し 約１１分前	選手は開始時刻の約１１分前に一人ずつ紹介を受けながらＦＯＰに入場するように呼び出され、”ＴＡＫＥ　ＹＯＵＲ　ＰＯＳＩＴＩＯＮＳ（テイク　ユア　ポジションズ）”の号令がかかるまで、聴衆と対面するように立ち続ける。 下図に示すように、選手１、２、３、４は射座に、選手５、６、７、８は装弾エリアに位置しなければならない。 

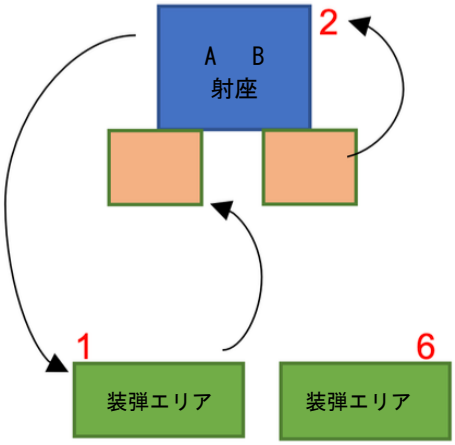
ｈ）準備と試射と装填	１０秒後、射場長は“ＰＲＥＰＡＲＡＴＩＯＮ　ＢＥＧＩＮＳ　ＮＯＷ（プレパレーション　ビギンズ　ナウ）”という号令をかける。 １分後、“ＥＮＤ　ＯＦ　ＰＲＥＰＡＲＡＴＩＯＮ（エンド　オブ　プレパレーション）” “ＦＯＲ ＴＨＥ　ＳＩＧＨＴＩＮＧ　ＳＥＲＩＥＳ...ＬＯＡＤ（フォー　ザ　サイティング　シリーズ　ロード）”の３０秒後、射場長は選手１と３の苗字を読み上げ、“ＲＥＡＤＹ（レディー）”をかける。 “ＲＥＡＤＹ（レディー）”がかけられた後、その選手たちはピストルに弾倉を入れ、撃つ準備をすることができる。 ２０秒後、“ＡＴＴＥＮＴＩＯＮ（アテンション）”の号令、標的の赤ランプが点灯する。このとき選手はレディーポジションをとらなければならない。 このシリーズが終了したら、選手２と４に対してこの手順を繰り返す。 ４名の選手の試射が終了したら、彼らは装弾エリアに退き、最大２つの弾倉に弾を装填することができる。この後、更なる“ＬＯＡＤ（ロード）”の号令はかけられないが、ファイナル中は必要に応じて弾倉に弾を装填することができる。 つづいて、射場長は選手５、６、７、８に対して”ＴＡＫＥ　ＹＯＵＲ　ＰＯＳＩＴＩＯＮＳ（テイク　ユア　ポジションズ）”と号令をかける。彼らは前方の射座に移動する。 ２０秒後、射場長は”ＰＲＥＰＡＲＡＴＩＯＮ　ＢＥＧＩＮＳ　ＮＯＷ（プレパレーション　ビギンズ　ナウ）” を号令し、上記の流れを繰り返す。“ＲＥＡＤＹ（レディ）”号令後、5標的グループ右側の選手は次のシリーズに向けてピストルを手に持つことができるが、照準練習・腕の上げ下げ・空撃ちは不可。 
ｉ）号令と射撃の詳細手順 ０：００に本射開始	ファイナルのそれぞれの本射シリーズは４秒射５発のシリーズで構成される。 初めの３シリーズでは、ファイナリストは２人ずつで撃つことになる。最初の２名は射座の左側に立つことになる。選手１と３、２と４、５と７、６と８の順で撃つことになる。 第４シリーズから、残っているファイナリストは順に単独で撃つことになる。射撃は全てのシリーズにおいて左から右（１から８）の順に行われる。 自身のシリーズを撃ち終えた選手は速やかに装弾エリアに戻らなければならず、次のグループの選手は、呼び出されることなく、待機場所へ進む。選手は、脱落するかファイナルが終了するまで、ファイナル中はローテイションをしながら撃つことになる。選手が弾倉に装填したならば、同じ射座を使用する選手が装弾エリアに移動したら、すぐに待機場所に移動しなければならない。その後すぐに射場長は、次の選手に対し”ＲＥＡＤＹ（レディー）”の号令をかける。 選手は射座へ前進する際、下図に示すような位置をとらなければならない。 各射座の左側（ＡとＣ）の選手－射座 各射座の右側（ＢとＤ）の選手－１歩後方の待機場所

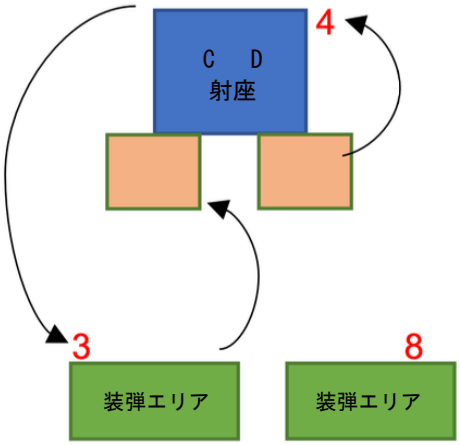




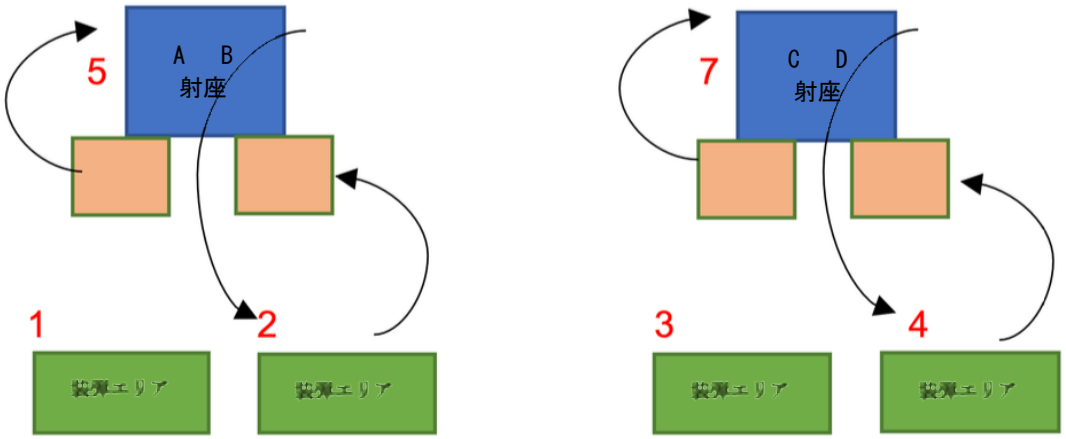
２０秒後、射場長は“[選手１の苗字]、[選手３の苗字]－ＲＥＡＤＹ（レディー)”と声をかける。
２０秒後、射場長は“ＡＴＴＥＮＴＩＯＮ（アテンション)”の号令をかけ、赤色ランプが点灯する。２人の選手はレディーポジションを取らなければならない。７秒後に緑色ランプが点灯する。４秒射の後、１０～１４秒間（標的の復旧時間）赤色ランプが点灯する。この１０～１４秒間に、射場長はそのシリーズの得点の発表をする（例：[選手１の苗字]－４ヒッツ、[選手３の苗字]－３ヒッツなど)。

左側の選手が撃ち終ったら、その選手は装弾エリアまでさがり、右側の選手は待機場所から射座に向かう。





２０秒後、技術役員が標的の準備完了を合図すると、射場長は“[選手２の苗字]、[選手４の苗字]－ＲＥＡＤＹ（レディー)”と声をかける。２０秒後、“ＡＴＴＥＮＴＩＯＮ（アテンション)”の号令がかけられ、上記の手順でシリーズが進行する。各シリーズ後、射場長は得点を発表する。
他の選手は、競技に残った全ての選手がそのシリーズを撃ち終わるまで、図に示された手順で射撃を続ける。
全ての選手が１シリーズを撃ち終わった後、１５～２０秒間の中断がある。この中断時間中に、アナウンサーは選手の最新順位、ベストスコア、敗退する選手などのコメントを行う。

	 射場長は、この手順を全ファイナリストが３シリーズを撃ち終えるまで続ける。
ｊ）エリミネーション	全てのファイナリストが第３シリーズを撃ち終わった後、下位２名の選手が脱落する（７位と８位）。 この後、次のように各シリーズ終了後に一人ずつ選手が脱落していく。 第４シリーズ後・・・６位（シュートオフなし、ファイナルスタート番号により決定） 第５シリーズ後・・・５位（シュートオフなし、ファイナルスタート番号により決定） 第６シリーズ後・・・４位（４位決定のシュートオフを行う） 第７シリーズ後・・・３位（銅メダリストの決定、必要な場合はシュートオフ） 第８シリーズ後・・・２位と１位（銀および金メダリストの決定、必要な場合はシュートオフ） 第４シリーズ以降、選手はファイナル開始時の位置で、その時点の射撃順序に従って、単独での射撃を続ける。全てのシリーズにおける射撃順序は左から右（１から８）で、射座の変更は行われない。選手は待機場所で順番を待ち、射座の準備ができたらすぐに位置につかなければならない。
ｋ）同点の順位決定	８位から５位の順位決定において、最下位の選手が同点であった場合、その順位決定はファイナルスタート番号によって行われる。４位以降の同点はシュートオフシリーズにより解消される。選手は、ファイナルスタート番号の小さい選手から順に、一人ずつ個別にシュートオフシリーズを射撃する。
ｌ）ファイナルの完了	**２名の残ったファイナリストが第８シリーズを撃ち終わった後、同点や抗議がなければ、射場長は“ＳＴＯＰ...ＵＮＬＯＡＤ（ストップ...アンロード）”と号令し、そして“ＲＥＳＵＬＴＳ ＡＲＥ ＦＩＮＡＬ（リザルツ アー ファイナル）”と宣言する。** **ジュリーはメダリストをＦＯＰに集合させ、アナウンサーは即座に、6.17.1.14 q に従って、銅、銀、金メダリストをアナウンスする。** ファイナリストやコーチが射撃線からピストルを動かす前に、射場役員は薬室が開放され、セフティフラッグが挿入され、弾倉がはずされ、弾倉からも抜弾されていることを確認するためにピストルをチェックしなければならない。ピストルは射撃線から去る前にケースに収納されていなければならない。
ｍ）時間遅れおよび不規則弾	選手がレイトショットを撃ったり、時間内に全５的を撃ちきれなかった場合、オーバータイムショットまたは未発射弾１発につき１ヒットの減点がそのシリーズの得点に科せられる。これらの発射弾または未発射弾は“ＯＴ”と表示される。 １つの標的に２発撃ち込んだ場合、標的上の２発目はミスとされ、そのシリーズの得点から１ヒットの減点が科せられる。

ｎ）レディーポジション (8.7.2、8.7.3)	ジュリーが選手の腕の振り上げが早すぎるまたは十分に腕が下がってなかったと判断した場合、選手はそのシリーズの得点から２ヒット減点されなければならない（グリーンカード）。ファイナルでは警告は与えられない。これが繰り返された場合、選手は失格とされなければならない(レッドカード)。レディーポジション違反の裁定を下す場合は、ペナルティや失格を科す前に、少なくとも２名の競技ジュリーが、選手の腕の振り上げが早すぎたことを示す表示（手をあげるなど)をしなければならない。
ｏ）故障	試射中の故障については申告も再射もできない。ファイナルを通じて本射中には１回のみ故障（許容できる故障であろうが許容できない故障であろうが）を申告できる。本射中に故障が発生した場合、射場役員はその故障が許容できるものか許容できないものかを確かめなければならない。許容できる故障ならば、選手はそのシリーズを、他のファイナリストを待たせて、即座に再射しなければならず、その再射シリーズの得点が採用される。選手は再射シリーズの準備のために２０秒与えられる。許容できない故障の場合、そのシリーズの得点から２ヒット減点されなければならない。 その後さらに故障が生じた場合、射場役員はそれが許容できる故障か許容できない故障かを判定しなければならない。再射は許されず、許容できる故障の場合は表示されたヒット数が加算される。もしその故障が許容できないものであったなら、そのシリーズの得点から２ヒットの減点が科せられなければならない。
ｐ）コーチング	コーチはファイナルの前と後に選手の用具等を運ぶ手助けができるが、弾薬の装填中の手助けをすることはできない。 コーチが、ファイナル中、選手に手助けをしたり、弾倉に装填したり、弾薬や装弾エリアにあるその他の用具に触れた場合、助けを受けた選手の最初の２ヒット得点が減点となる。 音声によらないコーチングは、選手が射座にいる時も許されるが、音声によるコーチングは選手が装弾エリアで弾の装填を行っている時のみに許される。ただし、他の選手やコーチの邪魔をしてはならない。
ｑ）射撃練習	射座における照準練習、腕の上げ下げ、空撃ちは準備時間中のみ許される。 選手は射撃の順番を待つ間、装弾エリアに留まっている時にはダンベルや類似のおもりの有無に関わらず、腕の上げ下げや運動をすることが許される。

6.17.5　　ファイナルー２５ｍピストル女子

ａ）ファイナルの様式	２５ｍピストル女子のファイナルは、速射の５発シリーズのヒットオアミススコアによる１０シリーズで構成され、第４シリーズ終了後から最下位のファイナリストの脱落が開始され、金および銀メダリストの決まる１０シリーズまで続けられる。
ｂ）標的	２５ｍＥＳＴの５的グループ２つを使用しなければならない。標的はＡ－Ｂ－Ｒ１－Ｃ－Ｄ－Ｅ－Ｆ－Ｒ２－Ｇ－Ｈと表示される。ファイナルでは、８名のファイナリストがＡ－Ｂ－Ｃ－Ｄ－Ｅ－Ｆ－Ｇ－Ｈにくじ引きによって割り当てられる。
ｃ）採点 減点	ファイナルは０点から始められる。採点はヒットオアミススコアであり、ヒットゾーンにあたった弾、１発につき１ヒットと採点される。２５ｍラピッドファイアピストル標的で１０．２点以上の発射弾はヒットと数える。 ファイナルにおける得点は加算され、各選手の最終成績は合計ヒット数により順位が決められる。同点の場合は同点が解消されるまで追加のシリーズを行う。 本射第一発目の前に起こった反則に対する減点は本射第一シリーズの成績に科せられる。その他の時点での反則に対する減点はその反則の起こったシリーズの得点に科せられる。

ｄ）出頭時刻 ３０分前と２０分前	選手は開始時刻の少なくとも３０分前に用具と競技用の服装を携えて出頭しなければならない。ジュリーは各選手が出頭したら可能な限り迅速に用具のチェックを完了させなければならない。選手または選手のコーチは、開始時刻の２０分前までには、ファイナルを行うに十分な弾薬を含む用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。選手の用具には故障したピストルに換えて使用する予備銃（セフティフラッグが挿入されていなければならない）も含まれる。
ｅ）呼び出し 準備時間と試射 約１０分前	**射場長は開始時刻の約１０分前に“ＡＴＨＬＥＴＥＳ　ＴＯ　ＴＨＥ　ＬＩＮＥ（アスリート　トゥ　ザ　ライン）”という号令をかける。** **選手は一人ずつ入場し紹介を受けながら自身の射座まで歩いていき、観客に向き合うように整列する。次にアナウンサーは射場長と担当ジュリーを紹介する。** **全ての紹介が終わった後、射場長は“ＴＡＫＥ　ＹＯＵＲ　ＰＯＳＩＴＩＯＮＳ（テイク　ユア　ポジションズ）”の号令をかける。** **１０秒後、射場長は“ＰＲＥＰＡＲＡＴＩＯＮ　ＢＥＧＩＮＳ　ＮＯＷ（プレパレーション　ビギンズ　ナウ）”という号令により２分間の準備時間を開始させる。** **２分後、射場長は“ＥＮＤ　ＯＦ　ＰＲＥＰＡＲＡＴＩＯＮ（エンド　オブ　プレパレーション）”の号令をかける。** 試射シリーズは通常の速射５発（8.7.6.4）で行われる。準備時間の後直ちに、射場長は**“ＬＯＡＤ（ロード）”**の号令をかける。 ファイナリストは１分間の時間が与えられ、２個の弾倉に装填をする（8.7.6.2ｄはファイナルでは適用されない）。 ”ＬＯＡＤ（ロード）”の号令は試射シリーズが始まる前に１回だけかけられる。ファイナル全体を通して、選手は必要に応じて弾倉に装填することができる。 “ＬＯＡＤ(ロード)”の号令の１分後､射場長は”ＳＩＧＨＴＩＮＧ　ＳＥＲＩＥＳ...ＲＥＡＤＹ（サイティング　シリーズ...レディー）”と号令をかける。この号令後、選手は弾倉をピストルに挿入し、撃つ準備をする。 ”ＲＥＡＤＹ（レディー）”の号令の２０秒後、射場長が“ＡＴＴＥＮＴＩＯＮ（アテンション)”の号令をかけ、標的の赤ランプが点灯する。このとき選手はレディーポジションをとらなければならない（8.7.2)。７秒後、速射シリーズの最初の３秒間緑ランプが点灯する。シリーズ終了後、射場長は“ＳＴＯＰ（ストップ）”の号令をかける。 試射シリーズでは得点のアナウンスは行われない。“ＳＴＯＰ（ストップ)”の号令後、標的とスコアボードがリセットされ、本射にセットされなければならない。
ｆ）号令と射撃の詳細手順 ０：００に本射開始	**３０秒後､最初の本射シリーズが開始され､射場長は“ＦＩＲＳＴ　ＳＥＲＩＥＳ...ＲＥＡＤＹ（ファースト シリーズ... レディー）”と号令をかけ､選手はピストルに弾倉を入れ、射撃の準備をする。** **“ＲＥＡＤＹ（レディー）”の号令の２０秒後、射場長は“ＡＴＴＥＮＴＩＯＮ（アテンション)”の号令をかけ､赤色ランプが点灯する｡選手はレディーポジション（8.7.2)を取らなければならない。７秒後、速射シリーズの最初の３秒間緑ランプが点灯する。** **シリーズ終了後、射場長は“ＳＴＯＰ（ストップ）”の号令をかける。** **“ＳＴＯＰ（ストップ）”の号令後、アナウンサーはファイナリストの順位と成績をコメントする。** **アナウンス終了１５秒後に、射場長は“ＮＥＸＴ　ＳＥＲＩＥＳ...ＲＥＡＤＹ（ネクスト シリーズ... レディー）”と号令をかける。 ２０秒後、射場長は“ＡＴＴＥＮＴＩＯＮ（アテンション）”の号令をかける。** **この手順をすべてのファイナリストが４シリーズを撃ち終えるまで続ける。** **第４シリーズ終了後そして８位に同点がなければ、射場長は“ＳＴＯＰ（ストップ）”の号令をかける。**

ｇ）エリミネーション	すべてのファイナリストが第４シリーズを撃ち終わった後､最下位の選手が脱落する（８位）。この後、次のように各シリーズ終了後に一人ずつ選手が脱落していく。 ５シリーズ後・・・・７位 ６シリーズ後・・・・６位 ７シリーズ後・・・・５位 ８シリーズ後・・・・４位 ９シリーズ後・・・・３位（銅メダリストの決定） １０シリーズ後・・・２位と１位（銀および金メダリストの決定）
ｈ）同点の順位決定	脱落すべき最下位の選手が同点であった場合、その同点の選手は追加の５発のタイブレイキングシリーズ（速射）を同点が解消されるまで行う。 タイブレイキングシリーズでは、射場長はすぐに同点の選手の名前**“［該当選手の苗字］”**を呼び、そして通常の射撃手順によりタイブレイキングシリーズの号令がかけられる。
ｉ）ファイナルの完了	**第１０シリーズの後、１位と２位に関わる同点がなければ､射場長は“ＳＴＯＰ...ＵＮＬＯＡＤ（ストップ... アンロード）”の号令後、“ＲＥＳＵＬＴＳ ＡＲＥ ＦＩＮＡＬ（リザルツ アー ファイナル）”と宣言する。** ジュリーはメダリストをＦＯＰに集合させ、アナウンサーは即座に、6.17.1.14.ｑに従って、銅、銀、金メダリストをアナウンスする。
ｊ）レディーポジション（8.7.2）	競技ジュリーが選手の腕の振り上げが早すぎるまたは十分に腕が下がってなかったと判断した場合、選手はそのシリーズの得点から２ヒット減点されなければならない（グリーンカード》ファイナルでは警告は与えられない。これが繰り返された場合、選手は失格とされなければならない（レッドカード）。レディーポジション違反の裁定を下す場合は、ペナルティや失格を科す前に、少なくとも２名の競技ジュリーが、選手の腕の振り上げが早すぎたことを示す表示（旗またはカードをあげるなど）をしなければならない。
ｋ）故障（8.9.1）	試射中の故障については申告も完射もできない。ファイナルを通じて本射中には１回のみ故障（許容できる故障であろうが許容できない故障であろうが）を申告できる。本射中に故障が発生した場合、射場役員はその故障が許容できるものか許容できないものかを確かめなければならない。許容できる故障ならば、選手はそのシリーズを、他のファイナリストを待たせて、即座に完射しなければならない。選手はシリーズ完射の準備のために１５秒与えられる。これ以外の故障に対して完射は許されず、表示されたヒット数が加算される。

追 6.17.5-2 **ファイナルー１０ｍビームライフル**
追 6.17.5-3 **ファイナルー１０ｍビームピストル**
追 6.17.5-4 **ファイナルー２５ｍセンターファイアピストル**

6.17.6 **表彰式**
金、銀、銅メダリストを讃える表彰式は各ファイナル後できるだけ迅速に、ＧＲ3.9.6 に従って、行われなければならない。表彰式の進行のＩＳＳＦ基準は、ＩＳＳＦ本部に用意されている、**ファイナル射場と表彰式の認定ガイドライン**に示されている。

6.18 **ライフルおよびピストルのミックス種目**

6.18.1 **１０ｍエアライフルおよび１０ｍエアピストル種目**

6.18.1.1 このルールは１０ｍエアライフルおよびエアピストルのミックス種目の特別テクニカルルールを規定する。

6.18.1.2 **チーム構成**
各国２名の選手（１名は男子、１名は女子》

6.18.1.3 **ナショナルアイデンティフィケーション／ドレスコード**
ａ）各国からの選手は、以下に示すようにして、射撃服にナショナルアイデンティフィケーションを提示しなければならない。
ｂ）**ライフル**：ジャケットの観衆に向く側のポケットにＩＯＣによって決められた３文字略称によって国名を表示する。すでに射撃ジャケットにＮＯＣがある場合は、観衆側のポケットには国旗が付けられるべきである。

ｃ）**ピストル**：ＩＯＣによって決められた３文字略称による国名をＴシャツやスポーツジャケットの観客に向く側の袖に表示すべきである。

6.18.1.4 **チームの申し込み**

ａ）ＩＳＳＦ申し込み規則により、各国は選手権大会ごとに最大２チームの申し込みができる。チームメンバーはそのミックス種目の競技日の２日前の日の正午１２時までにその選手権大会に申し込んでいる別の選手と変更することができる。この期限までにチームメンバーの登録確認ができなかったチームは、メンバーが参加資格のある選手の中から無作為に選ばれ、その後の変更はできないものとする。

ｂ）参加料は１チーム１７０ユーロである（GR3.8.4.2）。

6.18.1.5 **競技方式**

１０ｍミックス種目は２つのステージで行われる。

ａ）本選

ｂ）ファイナル

6.18.1.6 **チーム成績**

ミックス種目の得点と成績は２人のチームメンバーの合計点に基づく。

6.18.1.7 **コーチングおよびタイムアウト**

ａ）本選においては、音声によらないコーチングは許される。

ｂ）ファイナルでは、各チーム１名のコーチが認められる。コーチは、自分の選手に近づき、意思を伝えることのできる場所に着席していなければならない。コーチまたは選手は、ラウンド終了直後、アナウンスが行われている間に挙手して「タイムアウト」を要求できる。要求できるのはファイナル中１回に限る。コーチは射撃線上の自分の選手に近づいて話すことができ、その時間はコーチが選手のもとに到着してから最大３０秒間とする。

ｃ）担当ジュリーは時間を管理し、３０秒の経過を「タイム」とアナウンスしなければならない。コーチはその後すぐに自分の席に戻らなければならない。一つのチームが「タイムアウト」要求した際、他のチームのコーチも同時に自分の選手に近づき話すことができる。このことは他のチームによる自身のタイムアウトの請求には影響しない。

6.18.1.8 **銃器故障**

ａ）本選における故障は 6.13 に従って処理される。

ｂ）ファイナルにおける故障は 6.17.1.6 に従って処理される（各チーム１回の許容できる故障が許される）。

6.18.1.9 **ＥＳＴに対する不満と得点に関する抗議**

ａ）本選におけるＥＳＴに対する不満は 6.16.5.2 に従って裁定される。

ｂ）ファイナルにおけるＥＳＴに対する不満は 6.17.1.8 を参照。

6.18.1.10 **抗議**

ａ）本選における抗議は 6.16 に従って裁定される。

ｂ）ファイナル中に生じた抗議はファイナル抗議ジュリーにより、6.17.1.10.d および 6.17.1.13 に従って裁定される。

6.18.1.11 **表彰式**

ミックス種目の表彰式は 6.17.6 に従って行われる。

6.18.2 **本選**

6.18.2.1 **会場**

ミックス種目の本選は本選射場で１つ以上の射群で実施される。

6.18.2.2 **射座割**

ａ）チームの射座は 6.6.6 に従って、ランダムコンピューター抽選によって割り当てられる。

ｂ）同じ国のチームを隣り合って配置することはできない。

ｃ）各チームの２人は女子選手を左側に配置し、隣り合った射座で射撃する。

6.18.2.3 **選手の入場**

ａ）各本選射群において、射場長は公表された開始時刻の２５分前に選手を射座に入れる。

ｂ）選手は指定された射座において、１０分間の射撃用具のセッティングのための時間が許される。

ｃ）選手は射場長が射座に呼び入れるまで、銃器を取り出すことも、いかなる用具を射座に置くこともできない。

ｄ）選手は射座入り後、準備および試射時間の開始前に銃器を取り扱い、セフティフラッグを取り

外し、空撃ち、据銃、照準練習が許される。

e）ファイナルにおいては、選手は、準備および試射時間が開始されるまで、セフティフラッグの取り外し、空撃ちを行うことはできない。

6.18.2.4 **準備および試射時間**

選手は本選開始前に１５分間の試射弾数無制限の準備および試射時間が許される。

a）準備および試射時間の終了時刻は本射開始時刻のほぼ３０秒前としなければならない。

b）射場役員による競技前チェックは、準備および試射時間の始まる前の１０分間で完了しなければならない。

c）準備および試射時間は“ＰＲＥＰＡＲＡＴＩＯＮ　ＡＮＤ　ＳＩＧＨＴＩＮＧ　ＴＩＭＥ...ＳＴＡＲＴ（プレパレーション　アンド　サイティング　タイム..スタート）”の号令で開始される。“ＳＴＡＲＴ（スタート）”の号令の前に撃発することはできない。

d）準備および試射時間の“ＳＴＡＲＴ（スタート）”の号令の前に、選手が弾を発射した場合、本射の１発目を０点としなければならない。危険行為を伴う場合、選手は失格となる場合もある。

e）準備および試射時間が１４分３０秒間経過したら、射場長は“３０　ＳＥＣＯＮＤＳ（サーティ　セカンズ）”と告知しなければならない。

f）準備および試射時間の終わりには、射場長は“ＥＮＤ　ＯＦ　ＰＲＥＰＡＲＡＴＩＯＮ　ＡＮＤ　ＳＩＧＨＴＩＮＧ...ＳＴＯＰ（エンド　オブ　プレパレーション　アンド　サイティング...ストップ）”と号令をかけなければならない。標的役員が標的を本射に備えてリセットするために約３０秒間の短い休止がとられなければならない。

g）選手が、“ＥＮＤ　ＯＦ　ＰＲＥＰＡＲＡＴＩＯＮ　ＡＮＤ　ＳＩＧＨＴＩＮＧ...ＳＴＯＰ（エンド　オブ　プレパレーション　アンド　サイティング...ストップ）”の号令の後、“ＭＡＴＣＨ　ＦＩＲＩＮＧ...ＳＴＡＲＴ（マッチ　ファイアリング...スタート）”の号令の前に弾を発射した場合、その発射弾は本射として数えてはならない。 d）と同じ処置を適用する。

6.18.2.5 **弾数と制限時間**

a）本選では、チームメンバーは４０分の制限時間でそれぞれ３０発の本射弾（チームでは合計６０発）を撃つ。各選手はチームパートナーから独立して射撃を行う。

6.18.2.6 **採点**

本選においては、１０ｍエアライフルミックス種目は小数値（6.3.3.1）の得点が使われる。１０ｍエアピストルミックス種目では整数値の得点が使われる。

6.18.2.7 **チーム成績**

a）チーム成績は各チームメンバーの得点が合計された得点で決められる。

b）同点の場合はチーム得点（２人の合計得点）に6.15.5 を適用して順位を決定する。

c）上位４チームがファイナルへ進出する。

6.18.3 **ファイナル**

ファイナルでは、まずチームメンバー全員で号令に従って５発を２５０秒以内に撃つシリーズを３回行い、その後、号令に従って１発を５０秒で撃つことを３回行う。この時点で最下位のチームが４位として、ファイナルから脱落する。残ったチームはつづいて、号令に従った１発５０秒の射撃を３回行い、その時点で最下位のチームが銅メダルを獲得する。つづく３発の射撃により、金メダルと銀メダルを獲得するチームが決まる。金メダルと銀メダルを獲得したチームのメンバーはそれぞれ２４発ずつ撃つことになる。

6.18.3.1 **会場**

１０ｍエアライフルおよびエアピストルのミックス種目のファイナルは、可能であれば、ファイナル射場で行われなければならない。各チームの両選手が見ることのできる成績表示モニターはＦＯＰになければならない。

6.18.3.2 **手順**

a）ファイナルの選手またはコーチは、開始時刻の少なくとも１５分前には、指定された射座に用具を置きに行くことを許可されなければならない。その後、射場から去り、呼び込まれるまで待たなければならない。

b）ＦＯＰにバッグや運搬箱を残しておくことはできない。

6.18.3.3 **ファイナル役員**

ミックス種目のファイナルは 6.17.1.10 に従って運営および監督される。

6.18.3.4 **出頭と開始時刻**

ａ）ファイナルの開始時刻は射場長がファイナルの本射１発目の号令をかけ始める時刻である。

ｂ）ファイナルに進出した８名すべての選手は、ファイナル射場の出頭場所に、必要なすべての用具を持って、ファイナルの開始時刻の少なくとも３０分前には出頭しなければならない。チームメンバーの一人でも出頭時刻に遅れた場合、本射の第１シリーズから２点を減点される。各チーム１名のコーチが付き添うことができる。

ｃ）選手またはチームが開始時刻の２０分前よりも遅れて出頭した場合、そのチームはファイナルに参加することはできず、４位となる。

ｄ）ジュリーは各選手の出頭後、できるだけ迅速に、出頭時間内に用具のチェックを完了しなければならない。

ｅ）ファイナルの選手またはコーチは開始時刻の少なくとも１５分前には指定された射座に用具を置くことを許可されなければならない。その後、射場を離れ、射座への呼び込みがあるまで待機していなければならない。

ｆ）ファイナルのチームはファイナルの開始時刻の８分前に、射座への呼び込みに備えて、射座順に集合させられなければならない。

ｇ）表彰式がファイナルのあとに予定されているならば、全ての選手は表彰式にふさわしいチームユニフォームも持って集合しなければならない。

6.18.3.5 **射座割**

ａ）ファイナルではチームはランダムに射座Ａ－Ｂ／Ｃ－Ｄ／Ｅ－Ｆ／Ｇ－Ｈに割り当てられる。

ｂ）チームメンバーはファイナルにおいて射座を交換できる。交換の希望がある場合、本選成績の速報の抗議締切時刻までにコーチがＲＴＳジュリーにどの選手が左側で撃ち、どの選手が右側で撃つのかを申告しなければならない。

6.18.3.6 **得点**

ａ）ファイナル（ライフルおよびピストルともに）におけるすべての発射弾の得点は小数値の採点とする。

ファイナルは、まず、５発の本射を２５０秒以内で撃つシリーズを３回（５＋５＋５発）行う。その後、１発５０秒以内で撃つ射撃を９回行う。１８発目以降はその時点での最下位のチームの脱落が始まり、金メダルと銀メダルが決まるまで、３発ごとに脱落が行われる。ファイナルは合計で２４発撃つことになる。

ファイナルの採点は０．１点刻みで行う。両チームメンバーの累積得点の合計によって最終順位を決め、同点の場合はシュートオフの得点によって順位を決める。

本射第１発目前の違反による減点は、本射第１発目に科せられる。その他の違反に対する減点は違反の生じた弾の得点に科せられる。

同点の場合、同点となった各チームの各選手が、号令に従って同点が解消されるまで追加射撃（シュートオフ）を行う。

6.18.3.7 **ファイナル中のＥＳＴに対する不満**

6.17.1.8参照

6.18.3.8 **入場**

開始約８分前にファイナルに出るチームは１チームずつ入場する。各チームが入場するのに合わせてアナウンサーは観客にチームの紹介をする。選手は指定された射座の前で観客に向かい、射場長と担当ジュリーの紹介を含めて、全員の紹介が終わるまで立っていなければならない。

6.18.3.9 **準備および試射時間**

ライフルの場合は３０秒後、ピストルの場合は１０秒後、射場長は“ＦＩＶＥ　ＭＩＮＵＴＥＳ　ＰＲＥＰＡＲＡＴＩＯＮ　ＡＮＤ　ＳＩＧＨＴＩＮＧ　ＴＩＭＥ...ＳＴＡＲＴ（ファイブ　ミニッツ　プレパレーション　アンド　サイティング タイム...スタート）”の号令をかける。４分３０秒後、射場長は“**３０　ＳＥＣＯＮＤＳ**（サーティ　セカンズ）”のアナウンスをする。5分後、射場長は“**ＳＴＯＰ...ＵＮＬＯＡＤ**（ストップ...アンロード）”の号令をかける。

6.18.4 **ファイナルの手順**

ａ）準備および試射時間終了の１分後に、射場長は次の号令をかける。

ｂ）“**ＦＯＲ　ＴＨＥ　ＦＩＲＳＴ　ＣＯＭＰＥＴＩＴＩＯＮ　ＳＥＲＩＥＳ　ＬＯＡＤ**（フォー　ザ　ファースト　コンペティション　シリーズ　ロード）”5秒後、“**ＳＴＡＲＴ**（スタート）”

ｃ）各チームメンバーは、２５０秒以内に、５発のシリーズを撃つ。

ｄ）どちらの選手が先に撃ってもよい。

e）射場長は、すべての選手が撃ち終ったら“ＳＴＯＰ（ストップ”と号令することができる。
f）“ＳＴＯＰ（ストップ)”の号令の直後に、各ラウンドの合計得点が最も高いチームがアナウンスされる。
g）アナウンサーは、１５～２０秒間で、現在のチームの順位や注目に値する得点についてコメントする。個々の発射弾の得点はアナウンスしない。
h）この５発のシリーズの手順をさらに２回繰り返す。その後、号令による１発５０秒の射撃を３回行い１８発目のあと、４位が決定する。残った３チームは、号令に従って、さらに３発撃ち、銅メダル獲得チームを決める。さらに残った２チームは３発の射撃をくり返し、金メダルと銀メダルの獲得チームを決める。

6.18.4.1 **銅メダルチーム**

a）アナウンサーは銅メダル獲得チームをアナウンスする。
b）射場役員はライフル／ピストルのアクションが開けられ、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。

6.18.4.2 **ファイナルの完了**

a）金／銀メダルが決まったらすぐに、射場長は“ＳＴＯＰ...ＵＮＬＯＡＤ（ストップ...アンロード)”の号令をかけ、“ＲＥＳＵＬＴＳ　ＡＲＥ　ＦＩＮＡＬ（リザルツ　アー　ファイナル”と宣言する。アナウンサーは金メダル／銀メダル獲得チームをアナウンスする。
b）射場役員はライフル／ピストルのアクションが開けられ、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。
c）個人戦のファイナル同様、金メダリストと銀メダリストは銅メダリストと共にＦＯＰに集まらなければならず、公式写真やアナウンスのために、ジュリーによって並ばせられる。選手は、写真のために、自身のライフル／ピストルを手に取ることを許可される場合がある。

6.18.4.3 **ファイナルの演出および音楽**

a）本選ステージにおいては音楽をかけなければならない。
b）ファイナルにおいては音楽をかけなければならない。
c）ＴＤは音楽プログラムを承認すべきである。ファイナルにおける熱烈な観衆の応援は奨励され、推奨される。

6.18.4.4 **想定外や異論のある事態**

上記のルールに言及されていない事態については 6.17 が適用される。想定外や異論のある事態も、各種目のルールに従い、ジュリーによって裁定される。

6.19 **書類様式**

ＩＳＳＦ選手権大会を実施するにあたり必要な以下の書類の様式を次ページより掲載する。
a）抗議用紙（様式Ｐ）
b）上訴用紙（様式ＡＰ）
c）射場事故報告書（様式ＩＲ）
d）ＲＴＳ室採点通知書（様式ＣＮ）
e）２５ｍラピッドファイアピストル男子故障採点票（様式ＲＦＰＭ）
f）２５ｍスタンダードピストル男子故障採点票（様式ＳＴＤＰ）
g）ドレス/広告コード違反警告書（様式ＤＣ）

抗議用紙様式１ページ

	抗議用紙　１ページ	P
抗議用件［選手またはチーム役員が記入］		
種目：		
抗議するジュリー：		
対象となる行動または裁定の日付：	時刻：	
抗議の対象となる行動または裁定（記述）：		
抗議の理由（該当する ISSF ルール番号も記載）：		
抗議提出者：氏名・所属・署名：		
ご提供いただいた個人情報は抗議の手続きにのみ使用します。抗議を提出することにより、ISSF ウェブサイトの「Rules」に掲載された ISSF データ保護規定を読み、理解したことを確認します。		
抗議の受理［受理した役員が記入］		
受理日付：	受理時刻：	
受領した抗議料：	受領した者：	
抗議を受理した役員の氏名（活字体）・署名：		

抗議用紙様式２ページ

	抗議用紙　２ページ	P
ジュリーの裁定［主任ジュリーが記入］		
抗議を検討した日付：		時刻：
裁定結果：　☐ 認める　／　☐ 却下		
裁定の理由：		
主任ジュリーの氏名・署名：		
抗議提出者への通知		
通知日付：		通知時刻：
抗議料：　☐ 返却　／　☐ 収納		

上訴用紙様式１ページ

	**上訴用紙　１ページ**	AP
チームリーダーまたは代表者が記入		
ジュリーの裁定について引き続き同意できない場合は、上訴ジュリーに上訴できる。先の抗議用紙（P）のコピーを添付しなければならない。		
上訴の理由：		
上訴提出者：氏名・国名・所属・署名：		
ご提供いただいた個人情報は上訴の手続きにのみ使用します。上訴を提出することにより、ISSF ウェブサイトの「Rules」に掲載された ISSF データ保護規定を読み、理解したことを確認します。		
上訴の受理［受理した役員が記入］		
受理日付：	受理時刻：	
受領した上訴料：	受領した者：	
上訴を受理した役員の氏名（活字体）・署名：		

上訴用紙２ページ

	上訴用紙　２ページ	AP
上訴ジュリーの裁定［主任上訴ジュリーが記入］		
上訴を検討した日付：	時刻：	
裁定結果：　☐ 認める　／　☐ 却下		
上訴ジュリーの裁定の理由：		
主任上訴ジュリーの氏名・署名：		
上訴提出者への通知		
通知日付：	通知時刻：	
上訴料：　☐ 返却　／　☐ 収納		
通知した者の氏名・署名：		
上訴ジュリーの裁定は最終である。		

射場事故報告書様式

	射場事故報告書		IR
事故報告書の連続番号： （射場の記録簿に記録を残さなければならない。）			
事故の日付：		事故の時刻：	
種目：	射群：	射座：	
選手氏名：		ステージ：	
Bib 番号：	国名・所属：	シリーズ：	
事故の具体的状況：			
適用する ISSF ルール番号：			
科された罰則：			
最初に報告した射場役員の署名：	氏名（活字体）：	時刻：	
競技ジュリーの署名：	氏名（活字体）：	時刻：	
RTS 役員の署名：	氏名（活字体）：	時刻：	
RTS ジュリーの署名：	氏名（活字体）：	時刻：	
成績処理技術役員の署名：	氏名（活字体）：	時刻：	
成績修正参照番号：		参照番号：	
注：射場役員およびジュリーが記入を完了したら、この用紙のコピーを直ちに射場（EST）コントロールルームへ送らなければならない。			

ＲＴＳ室採点通知書様式

	RTS 室スコア通知用紙	CN

種目：	日付：
射群：	予選／本選：
速報を掲示した者（氏名）：	時刻：
抗議締切時刻：	時刻：
抗議なし（確認者氏名）：	成績確定：
または、	
抗議が受理された（添付抗議用紙を参照）：	抗議受理時刻：
成績はまだ確定していない。	
RTS 役員の署名：	時刻：
RTS ジュリーの署名：	時刻：
成績処理技術役員の署名：	参照番号：
注：RTS 役員が記入を完了したら、この用紙のコピーを直ちに射場（EST）コントロールルームへ送らなければならない。	

２５ｍスタンダードピストル男子故障採点票様式

	２５ｍスタンダードピストル男子故障時採点計算票		STDP
射群：		シリーズ：１／２／３／４	
射撃時間：１５０／２０／１０秒		故障時刻：	
射座番号：		選手氏名：	
Bib 番号：	国名・所属：	日付：	

許容できる故障には「AM」、許容できない故障には「NAM 0」、未発射弾には「0」を記入する。0 を記入するのは、失中、または当該弾番号の弾が両シリーズ以上のいずれでも標的に発射されなかった場合に限る。

シリーズ／弾番号	1	2	3	4	5	合計
本射						
故障再射						
２度目の故障再射						
最終得点						

最終得点は、全体のうち最も低い５発の得点の合計とする。

１０発シリーズの後半の場合は前半５発の得点を記入し､そうでなければ空欄とする。	前半５発の得点：	正しい１０発の得点：	
最初に報告した射場役員の署名：	氏名（活字体）：	時刻：	
競技ジュリーの署名：	氏名（活字体）：	時刻：	
RTS 役員の署名：	氏名（活字体）：	時刻：	
RTS ジュリーの署名：	氏名（活字体）：	時刻：	
成績処理技術役員の署名：	氏名（活字体）：	時刻：	
成績修正参照番号：		参照番号：	

注：射場役員およびジュリーが記入を完了したら、この用紙のコピーを直ちに射場（EST）コントロールルームへ送らなければならない。

２５ｍラピッドファイアピストル男子故障採点票様式

	２５ｍラピッドファイアピストル男子故障時採点計算票	RFPM

ステージ・射群：		シリーズ：１／２	
射撃時間：８／６／４秒		故障時刻：	
射座番号：		選手氏名：	
Bib 番号：	国名・所属：	日付：	

許容できる故障には「AM」、許容できない故障には「NAM 0」、未発射弾には「0」を記入する。0 を記入するのは、失中、または両シリーズのいずれでも当該標的に弾が発射されなかった場合に限る。

シリーズ／標的	左モニター	モニター	中央モニター	モニター	右モニター	合計
本射						
故障再射						
最終得点						

最終得点は、各列の最も低い得点の合計とする。

１０発シリーズの後半の場合は前半５発の得点を記入し､そうでなければ空欄とする。	前半５発の得点：	正しい１０発の得点：	

射場役員の署名：	射場役員の氏名（活字体）：
射場ジュリーの署名：	射場ジュリーの氏名（活字体）：
RTS 役員の署名：	RTS ジュリーの署名：
成績表作成コンピューターでの手動得点修正の確認：	技術役員の署名：
RTS ジュリーの署名：	修正参照番号：

注：射場役員およびジュリーが記入を完了したら、この用紙のコピーを直ちに射場（EST）コントロールルームへ送らなければならない。

6.20 **ＩＳＳＦドレスコード**

ＩＳＳＦルールＧＴR6.7.5 では次のように明言されている。

“公式スポーツ行事に適したマナーに則った服装で射場に現れることは選手、コーチおよび役員の責任である。選手と役員の服装はＩＳＳＦドレスコードを遵守しなければならない。6.20のＩＳＳＦドレスコード全文を参照すること。”

このルールは、***ＩＳＳＦドレスコード***の基礎となる。

6.20.1 **通則**

全てのスポーツは自身が若者、大衆やメディアに提供するイメージに影響を受ける。特にオリンピックスポーツでは、選手、コーチや役員が与える素晴らしいプロフェッショナルなイメージによって判断される。射撃のスポーツとしての成長、新たな参加者やファンを引きつけることおよびオリンピックスポーツとして地位が保証される可能性は、選手や役員の服装によって大いに影響を受ける。このＩＳＳＦドレスコードは、6.7.5 の実行のための規定およびガイドラインを提供している。

6.20.2 **選手の服装規定**

6.20.2.1 練習、予選、本選、ファイナルで選手が着用する全ての服装は、国際的なスポーツの競技大会に参加する選手として適切なものが着用されなければならない。選手の服装はオリンピックスポーツのアスリートとしての射撃選手の良いイメージを伝えなければならない。

6.20.2.2 競技会ではライフル、ピストル、ショットガンおよびムービングターゲット選手は各国、各国オリンピック委員会、各国競技団体の色やエンブレムを含んでいたり付いているスポーツタイプの服を着るべきである。競技中に着用する適切な服装には、各国競技団体や各国オリンピック委員会が支給したトレーニングスーツ、トラックスーツ、ウォームアップユニフォームなどが含まれる。

6.20.2.3 団体戦に参加するチームメンバーは、代表する国を反映する同じユニフォームを着用すべきである。

6.20.2.4 表彰式やその他のセレモニーでは、選手は公式ユニフォームまたは公式トレーニングウエアの着用を要求される。団体戦では全チームメンバーは適切なナショナルユニフォームを着用しなければならない。ナショナルチームのユニフォームを着用せずに表彰式に現れた選手がいた場合、ジュリーは、式が始まる前に選手に適切な衣服に着替えるように要求し、そのために表彰式の開始を遅らせることができる。

6.20.2.5 ライフル選手の服装は、7.5 に記載されたライフル服装規定を遵守していなければならない。射撃ズボンまたは射撃シューズを着用しない場合、競技会での服装はこのＩＳＳＦドレスコードを遵守しなければならない。

6.20.2.6 すべてのピストル種目の練習ならびに競技中は、女性はドレス、スカート、キュロット、半ズボンまたはズボンならびにブラウスまたはトップス（上半身の前後と両肩を覆う上着）の着用を求められる。男性は長ズボンまたは半ズボンならびに長袖または半袖のシャツの着用を求められる。選手はどのようなタイプの競技力向上衣服を着用することは許されない。すべての選手の服装は ＩＳＳＦドレスコード（6.7.5および6.20）が守られていなければならない。

6.20.2.7 ショットガン選手は 9.13.1 に記載されたショットガン服装規定を遵守しなければならない。

6.20.2.8 競技中に半ズボンを着用する場合、裾の位置は膝蓋骨の中心から上方１５ｃｍを超えてはならない。スカートおよびドレスもこの寸法基準を守らなければならない。

6.20.3 **禁止品目**

6.20.3.1 競技中や表彰式で着用が禁止される衣服はブルージーンズ、またスポーツに適さない色のジーンズまたは類似のズボン、迷彩柄の衣服、ノースリーブのシャツ、短すぎる半ズボン（6.20.2.8 参照）、ほつれた切り口の半ズボン、つぎあてや穴のあいているズボン、スポーツに適さないまたは不適切なメッセージ（宣伝の禁止：6.12.1参照）の書かれたシャツやズボンが含まれる。スポーツに適した色は各国のユニフォームの色であるべきである。ナショナルカラーを身につけない場合、身に着けてはいけないスポーツに適さない色とは、迷彩柄、格子柄、カーキ色、オリーブ色、褐色である。

6.20.3.2 選手はサンダル履きまたは靴を履かない（靴下を履く、履かないにかかわらず）ことはできない。

6.20.3.3 衣服の着替えは指定された場所で行わなければならず、ＦＯＰでは禁止される。射座内または射場内での着替えは許されない。

6.20.3.4　全ての服装は、メーカーおよびスポンサーマークの表示に関するＩＳＳＦ資格認定、商業上権利、スポンサーシップおよび広告ルールを遵守しなければならない。 オリンピック大会では、ＩＯＣ規則５０を遵守しなければならない。

6.20.4　コーチおよび**役員の服装規定**

6.20.4.1　ＩＳＳＦドレスコードはＩＳＳＦジュリーや射場役員やショットガンレフリーを含むナショナル技術役員（NTO）にも適用される。ＩＳＳＦドレスコードは、練習、競技またはファイナル中にＦＯＰ内で職務に従事するコーチについても適用される。

6.20.4.2　組織委員会から特別な役員衣服が提供されない場合、ジュリーは、色の濃いズボンまたはスカートに襟付きの明るい色の長袖または半袖のシャツを着用すべきである。天候によりセーターや上着を着用する必要のある時は、なるべくなら色の濃いものを着用すべきである。暖かい気候の時には軽いズボンが推奨される。色の濃い普通の靴またはスポーツシューズを履くことを推奨する。

6.20.4.3　職務中のジュリーはＩＳＳＦの承認した赤のジュリーベスト（ＩＳＳＦ本部で購入できる）を着用しなければならない。

6.20.4.4　職務中のショットガンレフリーはＩＳＳＦの承認した青のレフリーベスト（ＩＳＳＦ本部で購入できる）を着用しなければならない。

6.20.4.5　競技役員およびコーチは、6.20.3 に記述されている禁止された服装を着用することはできない。

6.20.5　**カメラマン、コメンテイターやＴＶカメラマンの服装規定**

6.20.5.1　認定されたカメラマン、コメンテイターやＴＶカメラマンがＦＯＰに立ち入る際には、公衆の面前で働いているとの観点から、ＩＳＳＦドレスコードを尊重しなければならない。

6.20.5.2　カメラマンやＴＶカメラマンは、ノースリーブのシャツ、裾を切り落とした半ズボン、体操用またはランニング用の半ズボンを着用すべきではない。半ズボンを着用する場合、靴下と靴を着用しなければならない。

6.20.5.3　ＦＯＰ内で仕事をするカメラマンは、ＩＳＳＦの発行する、公式のＰＯＯＬまたはＮＯＮ－ＰＯＯＬＰＨＯＴＯＧＲＡＰＨＥＲ用ビブベストを着用しなければならない。カメラマンベストにはＩＳＳＦロゴマークが付けられ、ＩＳＳＦロゴマークよりも大きくないスポンサーマークを１つ入れることができる。カメラマンベストには番号が入れられており、それによってフォトコーディネーターやテクニカルデレゲートがカメラマンの個別認識ができるようになっている。

6.20.5.4　ＦＯＰで仕事をするＴＶカメラマンは、ＴＶカメラマン用の公式ビブベストを着用しなければならない。ＴＶカメラマンベストにはＩＳＳＦロゴマークが付けられ、ＴＶカメラマンを個別に認識できるよう、その前後に容易に見分けのつく番号が入れられていなければならない。

6.20.5.5　カメラマンとＴＶカメラマンは、ＦＯＰで仕事をするときは、広告表示の入った他のベストやジャケットを着ることは許されない。

6.20.6　**ドレスコードの執行手順**

6.20.6.1　ＩＳＳＦ用具検査、ライフル、ピストル、ショットガンジュリーはＩＳＳＦ服装規定およびＩＳＳＦドレスコードを守らせる責任がある。

6.20.6.2　ＩＳＳＦ選手権大会の期間中、ＩＳＳＦジュリーは１回目の違反から違反を正す事を求める文書警告を与える。文書警告を受けた選手が服装違反を正す（服装を換える）ことがない場合、失格となる。ジュリーは、通常、用具検査や練習中に警告を与える。ジュリーは、着替えのための十分な時間がない場合、着替え前に選手に競技前練習（ショットガンまたは２５ｍピストル）を完了する許可を与えることができる。いかなる選手も本選またはファイナルの競技または表彰式に不適切なまたは禁止された衣服を着たままで参加することは許されない。

6.20.6.3　競技前および競技中に、ジュリーはドレスコードまたは広告表示違反の通知および違反の矯正要請のために、ＩＳＳＦドレスコード／広告表示違反警告書（様式ＤＣ）を使用しなければならない。

ドレス/広告コード違反警告書（様式ＤＣ）

	ドレス／広告コード違反警告書	DC
事故報告書番号： （射場の記録簿に記録を残さなければならない。）		
違反の日付：	違反の時刻：	
選手氏名：		
Bib 番号：	国名・所属：	
ドレス／広告コード違反の内容：		
必要な是正措置：		
ジュリーの署名：	氏名（活字体）：	時刻：
重要：ドレス／広告コード違反の警告を受けた選手は、その違反を是正しなかった場合、競技から失格となることがある。		

6.21 **索引**

（注：索引は日本語において編集されている。）

項目	**条項**
０点－撃ちきれなかった弾	6.11.1.2.f
１個の標的の故障	6.10.9.2
３分間以上の中断	6.11.3.1
５分間以上の中断または射座を移動したとき	6.11.3.2
１０m/５０m電子標的の故障	6.10.9
１０mエアピストルー標的	6.3.4.6
１０mエアライフルー標的	6.3.4.3
１０mエアライフル／ピストルミックスチーム種目	6.18
１０m屋内射場	6.4.3.3.c
１０m射場－射座基準	6.4.10
１０m射場－照度測定	6.4.14
１０m種目－１０mエアガン種目の特別ルール	6.11.2
１０m種目における競技中の空気等の放出	6.11.2.2
２５m/５０m屋内射場	6.4.3.3.d
２５m/５０m精密ピストルー標的	6.3.4.5
２５m屋外射場－屋外部分	6.4.3.3.g
２５m射場－射座の備品	6.4.11.10
２５m射場－射座の広さ	6.4.11.7
２５m射場－射座基準	6.4.11
２５m射場－射座間のスクリーン	6.4.11.8
２５m射場－セクション（グループ）	6.4.11.3
２５m種目－標的－ＲＦＰ	6.3.4.4
２５m種目－標的－精密	6.3.4.5
２５m電子標的－コントロールシート	6.3.5.4
２５m電子標的の採点時間の設定	6.4.13
２５m標的－採点時間	6.4.12
２５m標的－標的の番号	6.4.3.6
２５m標的露出時間	6.4.12
２５mラピッドファイアピストル種目－射座割	6.6.6.2
２５mラピッドファイアピストル種目－標的	6.3.4.4
２５mラピッドファイアピストル種目－標的グループ	6.4.11.3
５０m/３００mの予選における団体得点	6.6.6.1.g/6.6.6.1.f
５０m屋外射場－屋外部分	6.4.3.3.f
５０m射場－射座基準	6.4.9
５０mライフルー標的	6.3.4.2
３００m屋外射場－屋外部分	6.4.3.3.e
３００m射場－射座基準	6.4.8
３００m電子標的－誤射（クロスファイア）	6.11.6.9.c
３００mライフルー標的	6.3.4.1
Ｂｉｂ番号（スタート番号）	6.7.7
ＩＳＳＦルールの精神と意思	6.8.13
ＩＳＳＦルールの趣旨と目的	6.1.1
ＩＳＳＦルールの適用	6.1.2
ＩＳＳＦ選手権大会の組織と監督	6.1.5
ＩＳＳＦ選手権大会の運営	6.1.5
ＬＯＡＤ－２発以上の装填	6.11.2.4
ＬＯＡＤ－定義	6.2.3.4
ＬＯＡＤ／ＳＴＡＲＴ前の発射	6.2.3.5

項目	条項
ＲＴＳジュリー－採点の監督	6.8.b/6.10.3.1
ＲＴＳジュリー－電子標的	6.10.3
ＲＴＳジュリーの裁定	6.10.3.1/6.16.5
ＲＴＳ役員－任務と職務	6.9.4
ＲＴＳ長－任務と職務	6.9.3
ＳＴＡＲＴ前の発射	6.11.1.1.h
ＳＴＯＰの号令	6.11.1.3
ＳＴＯＰ後の射撃の再開	6.2.3.6
ＳＴＯＰ後の発射	6.11.1.3
ＴＲの範囲	6.1.3
ＵＮＬＯＡＤ／ＳＴＯＰ後の発射	6.2.3.5
ＶＡＲ	6.8.d
厚さ測定装置	6.5.1
雨、日光、風を防ぐ	6.4.1.5
安全	6.2
安全規定－通則	6.2.1
安全に関してのジュリーおよび射場役員による射撃中止	6.2.1.6
安全に関する用具検査	6.2.1.7
偽りの情報	6.12.6.1.c
違反－明白なもの	6.12.6.1.a
違反の隠蔽	6.12.6.1.b
イレギュラーショット（不規則弾痕）－１０m、５０m、３００m	6.11.5
撃ちきれなかった弾	6.11.1.2.f
エクストラショット－モニターへの不表示	6.10.9.4
エクストラショット－モニターへの表示	6.10.9.3
エクストラショット－最終弾の取り消し（競技弾数の超過弾）	6.10.9.3.d
エクストラショット－照準した撃発の指示	6.10.9.3
屋内射場－照度測定	6.4.14.1/6.4.14.3
屋内射場－要求照度（Lux）	6.4.14
屋内射場での照度測定	6.4.14.2/6.4.14.3
屋内射場における要求照度	6.4.14
「お知らせ」の標示	6.11.8.h
オリンピック種目のファイナルでの同点	6.15.4
音響減衰装置	6.2.5
音響発生装置	6.7.4.3
固さ測定装置	6.5.2
紙またはゴムロールの送り不良	6.10.6
空撃ち	6.2.4.1/6.11.1.1.e
空撃ち－定義	6.2.4.1
観客エリア	6.4.1.5/6.4.3.4
規格の変更	6.4.1.10
危険行為による安全規定違反	6.12.6.3
喫煙	6.11.8.e
機能確認射場	6.4.11.11
競技後検査	6.7.9
競技前練習（前日練習）	6.6.3.2
競技中のコーチング	6.12.5
競技中の用具、銃器、姿勢の検査	6.8.5
競技中の音楽	6.11.8.a
競技役員	6.9
競技ルール　１０m/５０mライフルおよびピストル種目	6.11.1

項目	条項
虚偽情報	6.12.6.1.c
許容できない故障	6.13.2.2
許容できる故障	6.13.2.1
記録	6.14.9
記録されなかった弾痕	6.10.9.3
技術役員－電子標的	6.10.1
疑問の残る弾痕－コンピューターに記録の残ってない弾痕	6.10.9.3.e
疑問の残る弾痕－採点	6.10.9.3
空気／ＣＯ２シリンダー－交換と再充填	6.11.2.3
空気／ＣＯ２シリンダー－選手の責任－有効期間	6.7.6.2.h/6.2.4.2
空気／ＣＯ２シリンダー－有効期間	6.2.4.2/6.7.6.2.h
空気銃弾－１発のみ装填	6.11.2.4/6.2.3.3
靴底柔軟性測定装置	6.5.3
警告	6.12.6.2.a
携帯電話	6.11.8.f/6.7.4.4
携帯電話－制限情報の表示	6.11.8.h
ゲージと器具	6.5
減点	6.12.6.2.b
減点－ＳＴＡＲＴの号令前の発射	6.11.1.1.h
減点－種目または姿勢における超過弾	6.11.5
減点－準備時間前の圧縮気体の放出	6.11.2.1
減点－虚偽の申告	6.12.6.1.c
交換と充填－ガスおよびエアシリンダー	6.11.2.3
抗議－書面抗議	6.16.3
抗議－ジュリーによる取り扱い	6.8.11
抗議－得点の抗議－ＲＴＳジュリー	6.16.5
抗議－口頭	6.16.2
抗議時間	6.16.5.1/6.16.3
抗議と上訴	6.16
抗議料	6.16.4
公式行事への適切な服装－服装規定	6.7.5/6.20
公式射撃種目表	P(9-11)
公式スケジュール	6.6.1.2
公式大会プログラム	6.6.1.1
公式練習	6.6.3.1
口頭抗議	6.16.2
故障	6.13
故障－許容できる故障－追加の試射	6.13.4
個人種目の同点	6.15.1
コーチング	6.12.5
音声によらないコーチング	6.12.5.1
コントロールシート－２５ｍＥＳＴ	6.3.5.4
コントロールシートの外の弾痕	6.3.5.4
号令　ＬＯＡＤ/ＳＴＡＲＴ－ＵＮＬＯＡＤ/ＳＴＯＰ	6.2.3.1
誤射（クロスファイア）	6.11.6
誤射－３００ｍ電子標的	6.11.6.9.c
誤射－誤射の否認	6.11.6.6
誤射－誤射を受けたことが確認できたときの処置	6.11.6.4
誤射－誤射を受けたことが確認できなかったときの処置	6.11.6.5
誤射－採点	6.11.6.1

項目	条項
誤射－試射を他の選手の試射的に撃った場合	6.11.6.2
誤射－試射を他の選手の本射的に撃った場合	6.11.6.3
誤射－射場役員が確認できなかった場合	6.11.6.8
誤射－選手が撃ってないことを射場役員が確認できた場合	6.11.6.7
誤射－弾痕の取り消し	6.11.6.7/6.11.6.9
最大参加数	6.6.1.4/6.6.1.5
裁定－ジュリー	6.8.8/6.8.9
裁定－ジュリー－ＩＳＳＦルールでカバーできない事項	6.8.13
採点および成績手順	6.14
サイドブラインダー	6.7.8.1
参加身分および制限	6.6.1.4
参加申込－最終締切	6.6.4
式典－選手の出席	6.20.2.4
試射	6.11.1.1
試射から本射への切り替え	6.10.4
試射中の不満	6.10.5
試射中の不満－ファイナル	6.17.1.8.a
失格	6.12.6.2.c
失格－重大な安全規則違反	6.12.6.3
失格－役員または選手への暴力	6.12.6.4
指名検査	6.7.9.4
射距離	6.4.5
射距離－測定	6.4.5.1
射撃線	6.4.3.2
射撃線－表示と計測	6.4.5.4
射撃テーブル	6.4.7.1
射撃の準備－選手の定時出頭	6.12.4.a
射撃マット	6.4.7.2.b
射座－物質	6.11.8.b
射座－備品－２５ｍピストル射場	6.4.11.10
射座－備品－全般	6.4.7.2
射座内のテーピング	6.11.8.c
射座の全般的基準	6.4.7
射座の水平方向への許容差	6.4.6.3
射座割	6.6.6
射座割－１０ｍ種目	6.6.6.f/6.6.6.g
射座割－２５ｍラピッドファイアピストル	6.6.6.2
射座割－ＴＤの監督	6.6.6.a
射座割－屋外射場の予選種目	6.6.6.1
射座割－射場の制約	6.6.6.c
射座割－団体種目－２射群以上	6.6.6.h
射座割－同条件	6.6.6.d
射座割－基本原則	6.6.6
射座割表	6.6.5
射場および他の設備	6.4
射場基準	6.4
射場共通基準	6.4.3
射場スコアボード	6.4.2.i
射場長－任務と職務	6.9.1
射場での号令	6.2.3
射場内全部の標的の故障	6.10.9.1

項目	条項
射場における安全に関する措置	6.2.1.4
射場の安全	6.2.1.2
射場の時計	6.4.3.5
射場の通信設備	6.4.2.q
射場役員－ＩＳＳＦルールの知識と効力	6.1.2.e
射場役員－任務と職務	6.9.2
射場役員による電子標的の本射への切り替え	6.10.4.b
射場役員の責任－ＬＯＡＤ/ＳＴＡＲＴ-ＵＮＬＯＡＤ/ＳＴＯＰ	6.2.3.1
種目表	P(9-11)
種目や姿勢における超過弾	6.11.5
照準練習－１０ｍ、５０ｍ	6.11.1.1.e
小数値採点	6.3.3.1/6.3.3.2/6.3.3.3
照度測定－１０ｍ屋内射場	6.4.14.4
書式	6.19
書面抗議	6.16.3
書面抗議－ＩＳＳＦ本部への裁定の送付	6.16.7
銃器/弾薬の故障	6.13
銃器ケース	6.2.2.8
銃器の安全の確認	6.2.2.4
銃器のテスト（機能テスト）	6.4.11.11
銃器の修理または交換	6.13.3
銃器の修理または交換－時間延長なし、追加試射は可能	6.13.4
銃器の取り扱い	6.2.2
銃器の取り扱い－ＳＴＯＰ後	6.2.3.6
銃器の取り扱い－射座からの銃器の移動	6.2.2.1
銃器の取り扱いルール	6.2.2
銃器への装填	6.2.3.2
銃器への装填－弾倉の使用－ライフル、１０ｍ／５０ｍピストル種目	6.2.3.3
銃器や用具の再検査	6.7.6.2.j
銃器や用具の改変	6.7.9.4
銃器を置く（手から離す）	6.2.2.4
重大な安全違反	6.12.6.3
ジュリーー競技後検査の再検査に通らなかった時の裁定	6.7.9.3
ジュリーー競技ジュリーー任務と職務	6.8
ジュリーー競技前の検査とチェック	6.8.3
ジュリーー裁定	6.8.9
ジュリーージュリーによる時間延長	6.11.3.2.b
ジュリーージュリーの任命	6.1.5.1
ジュリーー助言、援助と監督	6.8
ジュリーー監督－用具、銃器、姿勢の検査	6.8.5/6.8.6
ジュリーー責任	6.8
ジュリーー過半数が射場にいること	6.8.8
ジュリーが射場にいること	6.8.8/6.8.15
ジュリーによる検査－弾痕が表示されない時のエクストラショット	6.10.9.3
ジュリーによる時間延長－５分間以上の中断	6.11.3.2
ジュリーによる時間延長－別の射座への移動	6.11.3.2
ジュリーによる時間延長－事故報告書への記入	6.11.3.2.b
ジュリーの任務と職務	6.8
ジュリーー公式ＩＳＳＦ公認ジュリーベストの着用	6.8.2
ジュリー団－選手またはチーム役員	6.8.14

項目	条項
準備時間－試射的、競技前チェック	6.11.1.1.b/6.11.1.1.f
準備時間－銃器の取り扱い、空撃ち、照準練習	6.11.1.1.e
準備時間前の風旗の交換	6.4.4.6
準備時間前の風旗のチェック（５０ｍ／３００ｍ）	6.4.4.6
上訴	6.16.6
上訴－競技後検査での失格	6.7.9.3
女子種目/男子種目	6.1.2.h
スタート番号（Ｂｉｂ番号）	6.7.7
成績配布	6.14.3
成績表－公式ＩＳＳＦ成績提供者による作成	6.14.4
成績表－略号	6.14.4.2
成績表－記載事項	6.14.4.1
成績表に使う略号	6.14.4.2
世界記録	6.14.9
世界記録－ジュニア	6.14.9.2
世界記録－公認	6.14.9.4
セフティフラッグ	6.2.2.2
選手、射場役員、観客の安全	6.2.1.3/6.2.2.3
選手およびチーム役員の行動ルール	6.12
選手権大会のプログラムとスケジュール	6.6.1
選手権大会の運営	6.6
選手の遅刻	6.11.4
選手の責任	6.12.4
選手の責任－用具	6.7.2
選手の資格（ルール 4.1）	6.7.7.3
宣伝（プロパガンダ）	6.12.1
前日練習（ＰＥＴ）	6.6.3.2
全般および運営上の設備	6.4.2
装填－２発以上の装填	6.11.2.4
速報（成績の中間発表）	6.14.1
組織委員会と任命	6.1.5.2
太陽－射場の方向	6.4.3.1
他の射座への移動	6.10.9.4
他の選手に対する不当な有利	6.7.1
他の選手に対する妨害	6.12.4
代表者会議（テクニカルミーティング）	6.6.2
弾痕の位置表示や得点記録に対する不満（ＥＳＴ）	6.10.8/6.10.9.3
弾痕の表示や記録の故障の記載（ＥＳＴ）	6.10.9.3
弾痕の取り消し	6.11.6.9
弾痕の取り消し－選手が撃っていないことの確認	6.11.6.9.a/6.11.6.7
弾痕の取り消し－他の選手からの申告	6.11.6.9.b
男子種目/女子種目	6.1.2.h
団体種目における選手の交代	6.6.5.c
団体種目の同点	6.15.5
弾薬の装填	6.2.3.4
遅刻	6.11.4
チームリーダー－責任	6.12.3
抽選－射座割	6.6.6
中断	6.11.3
超過弾の得点の移動－カウントバック	6.11.5
追加の試射－故障	6.13.4

項目	条項
テクニカルデレゲートー電子標的のチェック	6.3.2.8
テクニカルデレゲート：射座割の監督	6.6.6.a
テクニカルデレゲート：世界記録の報告	6.14.9.4
テクニカルデレゲートによる射場の検査	6.4.1.9
テクニカルデレゲートによる電子標的の検査	6.3.2.8
テクニカルミーティング（代表者会議）	6.6.2
電子装置	6.7.4.4/6.11.8.f
電子標的（ＥＳＴ）	6.3.2
電子標的－選手の責任	6.10.4
電子標的－テクニカルデレゲートによるチェック	6.3.2.8
電子標的における得点に関する抗議	6.10.7/6.16.5.2
電子標的の技術役員	6.10.1
電子標的の検査	6.3.2.8
電子標的の検査手順	6.10.8
特殊な装置－服装	6.7.4.2
得点からの減点	6.14.7
得点の抗議	6.10.7/6.16.5
得点の抗議－電子標的	6.10.7
得点の抗議－電子標的：２点の減点	6.16.5.2.c/6.10.7.d
時計－射場内	6.4.3.5
同点の順位決定－カウントバック	6.15.1.b
同点の順位決定－全般	6.15
同点の順位決定－団体種目	6.15.5
同点の順位決定－個人	6.15.1
ドレスコード	6.7.5 / 6.20
ドレスコードー禁止アイテム	6.20.3
残り時間	6.11.1.2.e
バッキングカードとコントロールシート５０m/３００m	6.3.5.5
バッキングターゲット（副的）－２５m	6.3.5.3
バッキングターゲット（副的）－５０m/３００m	6.3.5.2
非公式練習	6.6.3.3
非スポーツマン行為	6.12.6.2.d
左利き/右利き	6.1.2.g
表彰式	6.17.6
標的および標的基準	6.3
標的基準	6.3
標的コントロールシステム	6.3.5
標的上の影	6.4.3.1
標的線	6.4.5.4
標的線－射撃線と平行	6.4.3.2
標的装置	6.4.1.8
標的中心位置	6.4.6
標的中心位置の水平方向での許容差	6.4.6.2
標的の全般的必要条件	6.3.1
標的のナンバーリング	6.4.3.6
標的の基準	6.3
標的の高さ	6.4.6.1
標的役員－電子標的	6.10.2
標的役員による試射－本射の切り替え	6.11.1.1.j
標的枠と射座の番号	6.4.3.6
ファイナルー１個の標的の故障－１０m/５０m種目	6.17.1.8

項目	条項
ファイナルー１個の標的の故障－２５m種目	6.17.1.8
ファイナルー１個の標的の故障－試射中	6.17.1.8.a
ファイナルー１個の標的の故障－ファイナル中	6.17.1.8.b
ファイナルー２５mピストル	6.17.5
ファイナルー２５mピストル女子－緑ランプ前の発射	6.17.1.14.j
ファイナルー２５mラピッドファイアピストル	6.17.4
ファイナルー２５mラピッドファイアピストル男子－緑ランプ前の発射	6.17.1.14.j
ファイナルーＳＴＡＲＴ前またはＳＴＯＰ後の発射－１０m/２５m/５０m	6.17.1.14.h/6.17.1.14.i
ファイナルーエアガンにおけるガスの放出：２点の減点	6.11.2.1
ファイナルーエクストラショットの発射	6.17.1.14.l
ファイナルー演出と音楽	6.17.1.11
ファイナルー開始時刻	6.17.1.3
ファイナルー空撃ちの禁止	6.17.1.14.e
ファイナルー競技手順	6.17.1
ファイナルー競技手順－１０mエアライフル/１０mエアピストル	6.17.2
ファイナルー競技手順－２５mピストル女子	6.17.5
ファイナルー競技手順－２５mラピッドファイアピストル男子	6.17.4
ファイナルー競技手順－５０mライフル三姿勢男子/女子	6.17.3
ファイナルー競技手順－ライフル/ピストル	6.17
ファイナルー抗議の裁定まちによる開始の遅れ	6.8.12
ファイナルー公式結果の発表	6.17.1.14.q
ファイナルーコーチング	6.17.1.14.o
ファイナルー号令－１０mライフル/ピストル	6.17.2
ファイナルー号令－５０m三姿勢男子、女子	6.17.3
ファイナルー採点	6.17.1.5
ファイナルー試射中の不満	6.17.1.8.a
ファイナルー試射の号令－１０mライフル/ピストル	6.17.2.d
ファイナルー試射の号令－２５mピストル女子	6.17.5.e
ファイナルー試射の号令－２５mラピッドファイアピストル男子	6.17.4.h
ファイナルー試射の号令－５０mライフル三姿勢	6.17.3.d
ファイナルー射座割	6.17.1.2
ファイナルー射場への出頭	6.17.1.3
ファイナルー射場備品	6.17.1.9
ファイナルー出頭時刻に遅刻した選手：２点の減点	6.17.1.3
ファイナルー小数採点	6.3.3.3
ファイナルー銃器の故障－１０m/５０mファイナル	6.17.1.6
ファイナルー銃器の故障－２５mＲＦＰ（ルール 8.9）	6.17.4.o
ファイナルー銃器の故障－２５mピストル女子（ルール 8.9.1）	6.17.5.k
ファイナルー準備時間－１０m	6.17.2.d
ファイナルー準備時間－２５m種目	6.17.4.h/6.17.5.e
ファイナルースタート番号	6.7.7.2
ファイナルーすべてのファイナル標的の故障	6.10.9.1
ファイナルーすべてのファイナル標的の故障－１０m/５０m種目	6.10.9.1
ファイナルーすべてのファイナル標的の故障－２５m種目	8.10.1
ファイナルーセフティフラッグ	6.17.1.14.d/6.2.2.2.a
ファイナルー待機場所への出頭	6.17.1.3
ファイナルー遅刻	6.17.1.4
ファイナルー電子標的への不満	6.17.1.8
ファイナルー得点	6.17.1.5
ファイナルー得点の発表－１０m/５０m種目	6.17.2.e/6.17.2.f

項目	条項
ファイナルー得点の発表－２５m種目	6.17.5.f
ファイナルー得点の発表－２５mラピッドファイアピストル	6.17.4.i
ファイナルー同点－１０m	6.17.2.h
ファイナルー同点－２５mピストル女子	6.17.5.h
ファイナルー同点－２５mラピッドファイアピストル男子	6.17.4.k
ファイナルー同点－５０mライフル三姿勢	6.17.3.i
ファイナルーピストルサポートスタンド	6.4.11.10.c
ファイナルーファイナリストの紹介	6.17.1.12
ファイナルーファイナリストの人数－１０m/２５m/５０m種目	6.17.1.1
ファイナルーファイナル公式成績	6.17.1.5
ファイナルーファイナルでの失格	6.12.6.2.c/6.17.1.14.h
ファイナルーファイナルにおける抗議ー裁定	6.17.1.13
ファイナルーファイナルにおける抗議ー得点に関する抗議	6.17.1.7
ファイナルーファイナルのあるオリンピック種目の同点	6.15.4
ファイナルーファイナルの演出と音楽	6.17.1.11
ファイナルーファイナルの開始の遅れ	6.8.12
ファイナルーファイナルの遅れ	6.8.12
ファイナルーファイナル前の選手と用具のチェック	6.17.1.3
ファイナルーファイナル前の用具検査	6.17.1.3
ファイナルー本選ーフルコース	6.17.1.1
ファイナルーメダリストの紹介	6.17.1.14.q
ファイナルー役員	6.17.1.10
ファイナルールールと手順	6.17.1.14
風旗－５０m、３００m	6.4.4
不規則弾痕（イレギュラーショット）－１０m、５０m、３００m	6.11.5
服装規定ー適切な服装	6.7.5/6.20
服装と用具	6.7
不当な有利ー他の選手より	6.7.1/6.1.4
不発射弾	6.11.1.2.f
フラッシュ撮影禁止の時間	6.11.8.g
物質ー射座にまくこと	6.11.8.b
プリンター用紙へのサインー電子標的	6.10.4.f/6.10.4.g
プリンター用紙へのサインもれー電子標的	6.10.4.g
プロパガンダ	6.12.1
別の射座への移動	6.10.9.4
ペナルティカード	6.12.6.2.a/b/c/f
本射後の試射	6.11.1.2.c
本射後の発射ガスの放出	6.11.2.2
本射の開始	6.11.1.2
本射前の試射	6.11.1.1
妨害	6.11.7
右利き/左利き	6.1.2.g
ミスー不発射弾	6.11.1.2.f
ミックス種目－１０mライフル／ピストル	6.18
耳の保護	6.2.5
迷彩生地	6.20.3.1
明白な反則	6.12.6.1.a
メインスコアボード	6.4.2.i
目かくし板（ブラインダー）	6.7.8
メダル授与式	6.17.6
メディアのための設備	6.4.2.s

項目	条項
目の保護	6.2.6
モニターー画面全面が見えること	6.10.4.d
役員、選手、観客エリア	6.4.1.5
役員または選手に対する暴力行為	6.12.6.2.d/6.12.6.4
要求照度－屋内射場	6.4.14
用具検査－タグとシリアル番号の確認	6.7.6.2.e
用具検査－器具－厚さ測定装置	6.5.1
用具検査－器具－固さ測定装置	6.5.2
用具検査－器具－靴底柔軟性測定装置	6.5.3
用具検査－器具、ゲージ	6.5
用具検査－再検査料金	6.7.6.2.j
用具検査－ジュリーの監督	6.8.c
用具検査－選手およびチーム役員への通知	6.7.6.2.a
用具検査－選手の責任	6.7.2
用具検査－他の選手より不当な有利	6.7.1
用具検査－服装のタグ付けとピストルの登録	6.7.6.2.e/6.7.6.2.g
用具検査－用具の使用前の検査	6.7.6.1
用具検査－用具の登録	6.7.6.2.f
用具検査の手順	6.7.6.2
用具と競技用服装	6.7
様式	6.19
予選種目	6.6.6.1
予選の公式	6.6.6.1.d
予備射座への移動	6.10.9.2.a
予備銃－故障	6.13.3
ライフル種目および１０ｍ、５０ｍピストル種目のルール	6.11.1
ライブエイミング装置	6.7.4.5
料金－抗議と上訴	6.16.4
ルール違反－ペナルティ	6.12.6.2
ルール違反－明白な	6.12.6.1.a
ルール違反－隠蔽された	6.12.6.1.b
ルール違反のペナルティ	6.12.6
ルールの熟知	6.1.2.e
練習－全般	6.6.3
ロードー２発以上の装填	6.11.2.4
ロードー定義	6.2.3.4
ロール紙やゴムバンドの異状	6.10.6

付則　紙標的採点に関するルール

序文

２０１７－２０２０ＩＳＳＦルールの開始にあたり、ＩＳＳＦ紙標的の採点に関するルールはＩＳＳＦゼネラルテクニカルルール、ライフルルールおよびピストルルールから外されＩＳＳＦゼネラルテクニカルルールの付則として整理統合された。オリンピック大会の射撃競技およびすべてのＩＳＳＦ世界選手権大会、ワールドカップ大会およびジュニアワールドカップ大会では、電子標的によって運営されなければならなくなっているが、ＩＳＳＦは、大陸選手権大会や国内、地域およびクラブレベルでの競技会については紙標的を使用することを認めている。この*紙標的採点に関するルール*は紙標的を使用する競技会の運営において有効であり、この他のＩＳＳＦルールはこのこと以外のすべての競技会運営において適切に運用されなければならない。

1.0　　紙標的および採点ゲージ

1.1　　**公式ＩＳＳＦ標的**

1.1.1　　すべてのＩＳＳＦ公認標的の標的および得点圏の直径および仕様明細は 6.3.4 に記述してあるとおりである。

1.1.2　　標的は同心円状に各得点圏に分割されている。各得点圏の直径は各得点圏の最外端（外側直径）までを測定したものである。

1.1.3　　※ＩＳＳＦ選手権大会では、ムービングターゲットの標的を除き、１枚の標的紙に１個の標的しかないもの（一文的）しか使用は認められない。

1.1.4　　試射的には右上隅に明瞭な黒い斜線を入れなければならない。その斜線は通常の光条件下で規定の距離から肉眼ではっきりと見えるものでなければならない（２５ｍラピッドファイアピストル用および５０ｍムービングターゲット用を除く）。

1.2　　**紙標的の必要条件（ＩＳＳＦ選手権大会のみ適用）**

1.2.1　　※ＩＳＳＦ選手権大会に用いる紙標的は大会の行われる少なくとも６ヶ月前にそれぞれの見本５部をＩＳＳＦ事務総長に送付してＩＳＳＦ規格に適合するか否かの認定を受けなければならない。

1.2.2　　すべての標的は、各ＩＳＳＦ選手権大会の開始前に、テクニカルデレゲートによりその紙質と規格寸法の再検査を受ける。認定されたものと同じ標的のみ、使用することができる。

1.3　　**標的の採点**

1.3.1　　標的は 1.4（下記）の規格に適合した採点ゲージによって採点されるかまたはＩＳＳＦの公認した電子標的採点機によって採点されなければならない。

1.3.2　　ライフルとピストルの標的は整数値で採点することができ、ＩＳＳＦ公認の電子式採点装置を使用する場合には小数値で採点することもできる。小数値の得点圏は整数値の得点圏を１０等分したもので、その得点は０（例：10.0、9.0 など）から始まり９（例：10.9、9.9 など）で終わるものである。

1.3.3　　標的紙は無反射性の色と紙質のものとし、規定の距離における通常の光線条件の下で黒点圏がはっきりと視認できるものでなければならない。紙質や印刷された得点圏はどのような気象条件下においても、その寸法を保持するものでなければならない。紙質は過大な破断やゆがみを生じることなしに、弾痕をとどめるものでなければならない。

1.4　　**採点ゲージとその使用法**

紙標的を使用するときは、得点の疑わしい弾痕の採点にはＩＳＳＦの公認した電子標的採点機または採点ゲージが使用されなければならない。採点ゲージは以下の必要条件を守らなければならない。

1.4.1　　**２５ｍセンターファイアピストル**

つばの直径	９．６５ｍｍ（＋０．０５ ～ －０．００ｍｍ）
つばの厚さ	約０．５０ｍｍ
心棒の直径	それぞれの弾径に合った太さ
心棒の長さ	１０ｍｍ ～ １５ｍｍ
使用される種目	センターファイアピストル種目

※３００ｍライフル

つばの直径	８．００ｍｍ（＋０．０５ ～ －０．００ｍｍ）
つばの厚さ	約０．５０ｍｍ
心棒の直径	それぞれの弾径に合った太さ

心棒の長さ	１０mm ～ １５mm

使用される種目	３００mライフル種目

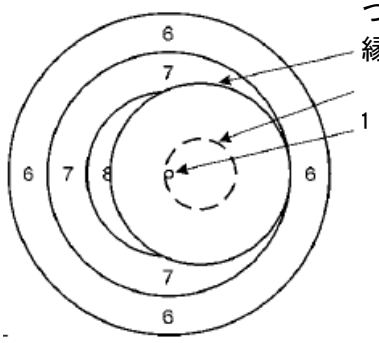
1.4.3 **スモールボアライフルおよびピストル５．６mm（２２口径）**

つばの直径	５．６０mm（＋０．０５ ～ －０．００mm）
つばの厚さ	約０．５０mm
心棒の直径	５．００mm （＋０．０５mm）
心棒の長さ	１０mm ～ １５mm
使用される種目	５．６mm弾を使用するすべての種目

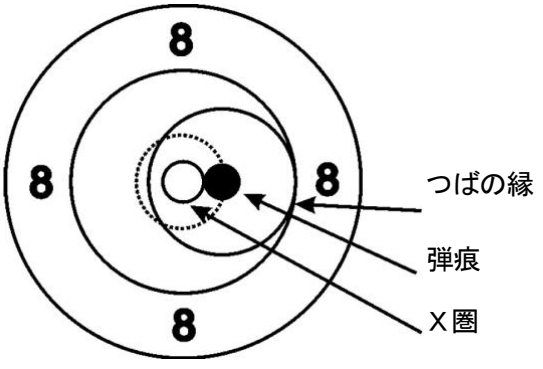
1.4.4 **４．５mm内線ゲージ**

つばの直径	４．５０mm（＋０．０５ ～ －０．００mm）
つばの厚さ	約０．５０mm
心棒の直径	つばの直径マイナス０．０２mm（４．４８mm）
心棒の長さ	１０mm ～ １５mm
使用される種目	エアライフル種目の１点および２点圏の判定 エアピストル種目の１点圏の判定

1.4.5 **エアピストル外線ゲージによるエアライフルのＸ圏の判定**

	エアピストル外線ゲージのつばの外縁がエアライフル標的の７点圏の外側に出ていなければ、Ｘ圏（インナーテン）となる。

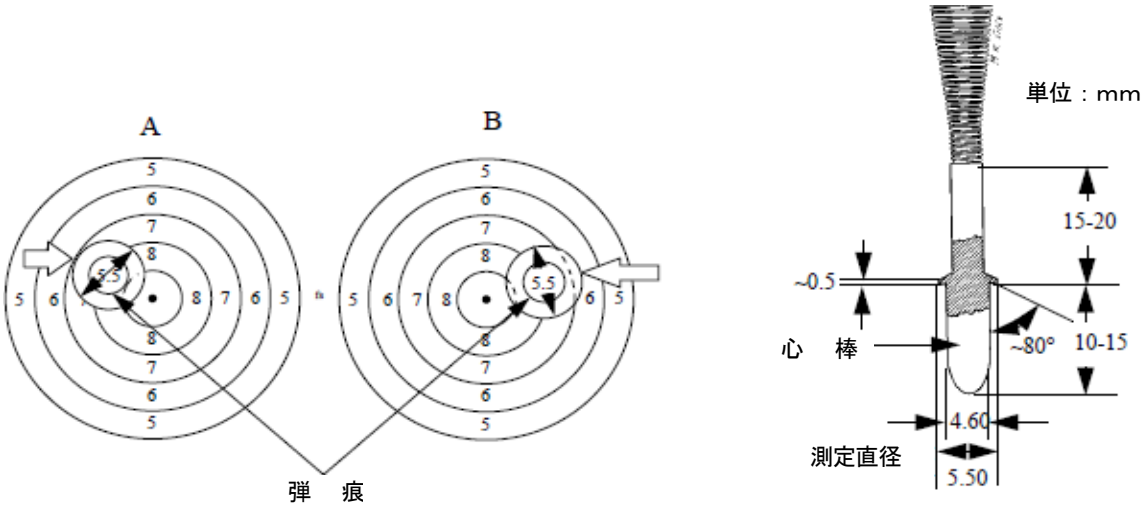
1.4.6 **エアピストルＸ圏外線ゲージによるエアピストルのＸ圏の判定**

つばの直径	１８．０mm（＋０．００ ～ －０．０５mm）
つばの厚さ	約０．５０mm
心棒の直径	４．６０mm（＋０．０５mm）
心棒の長さ	１０mm ～ １５mm
使用される種目	エアピストル種目のＸ圏の判定
	エアピストルＸ圏外線ゲージのつばの外縁がエアピストル標的の９点圏の外側に出ていなければ X圏(インナーテン)となる。

1.4.7 **１０mエアライフル用４．５mm外線ゲージ**

つばの直径	５．５０mm（＋０．００ ～ －０．０５mm）
つばの厚さ	約０．５０mm
心棒の直径	４．６０mm（＋０．０５mm）
心棒の長さ	１０mm ～ １５mm
使用される種目	１０mエアライフル種目の３～１０点圏の判定

1.4.8　　**エアライフル外線ゲージの使用法**

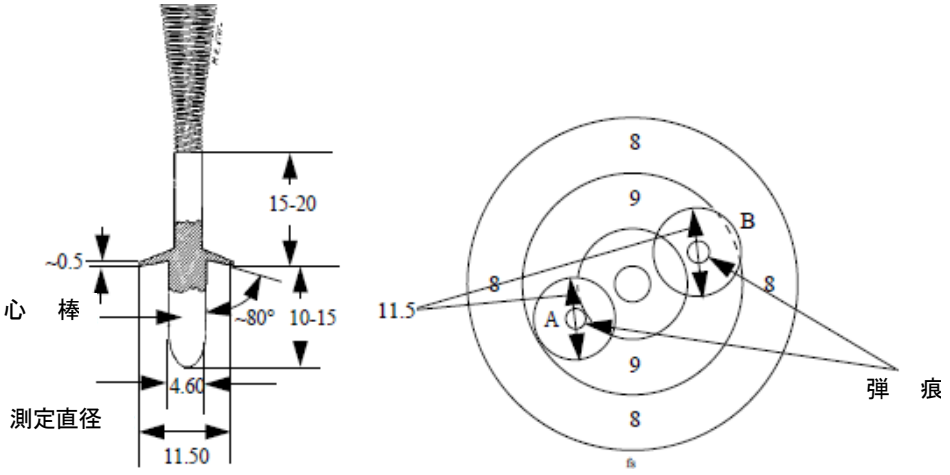


Ａ：つばの外側の縁が７点圏の内側にあるので、得点は９点となる。
Ｂ：つばの外側の縁が７点圏を超えて６点圏にあるので、得点は８点となる。

1.4.9　　**１０ｍエアピストル用４．５mm外線ゲージ**

つばの直径	１１．５０mm（＋０．００ ～ －０．０５mm）
つばの厚さ	約０．５０mm
心棒の直径	４．６０mm（＋０．０５mm）
心棒の長さ	１０mm ～ １５mm
使用される種目	１０mエアピストル種目の２～１０点圏の判定

1.4.10　　**エアピストル外線ゲージの使用法**



Ａ：つばの外側の縁が９点圏の内側にあるので、得点は１０点となる。
Ｂ：つばの外側の縁が９点圏を超えて８点圏にあるので、得点は９点となる。

1.4.11 **スキッドゲージ**

スキッドゲージとは透明なプラスチック板の片面に２本の平行線が刻印された物をいう。

ａ）２５mセンターファイアピストル（９．６５mm口径）では１１．００mm（＋０．０５mm ～ －０．００mm）間隔の２本の平行線の内縁の間で測定する。

ｂ）スモールボア種目（５．６mm口径）では７．００mm（＋０．０５mm ～ －０．００mm）間隔の２本の平行線の内縁の間で測定する。（２５m５．６mm口径のピストル種目に使用される。）

2.0 射場および射座の備品

2.1 **バッキングターゲット**

５０mおよび３００mの標的では 6.3.5.2 に従ってバッキングターゲットが用いられなければならない。標的の直ぐの背面はコントロールシートで覆われていなければならない。新しいコントロールシートは、各選手のステージごとに提供されなければならない。

2.2 **２５mのバッキングターゲット**

ａ）すべての２５mピストル種目において、標的を外した弾痕の特定を助けるためにバッキングターゲットが使用されなければならない。

ｂ）バッキングターゲットの大きさは、最小限、２５mピストル標的枠（５的分）の巾と高さをカバーするものでなければならない。バッキングターゲットは標的の１m後方に一様な距離で設置されるべきである。バッキングターゲットは標的と標的の間に撃ち込まれた弾を認識するために、横に連続しているか、あるいは枠と枠の間にすき間のないものでなければならない。

ｃ）バッキングターゲットは標的の白い部分と似た色の非反射紙で作られていなければならない。

ｄ）２５m種目では各選手のステージごとに新しいバッキングターゲットが提供されなければならない。

2.3 **標的交換装置**

2.3.1 １０m射場には１発ごとに標的交換が可能な標的キャリアーまたは標的交換機が設置されていなければならない。

2.3.2 ５０m射場には１発ごとに標的交換が可能な標的交換機、標的キャリアーまたは監的壕が設置されていなければならない。

2.3.3 ３００m射場には１発ごとに標的を引き寄せ採点することができる標的キャリアーが設置されていなければならない。

2.4 記点係がつく場合に射座に必要な備品

2.4.1 記点係用の机と椅子各１脚と監的用スコープ１台が提供されなければならない。

2.4.2 記点係が観客に選手の得点を仮発表するための約５０ｃｍ×５０ｃｍのスコアボード１枚。スコアボードは、観客が選手を見るのに邪魔にならないところで、観客が容易に見ることができる位置にあるべきである。

2.5 **２５m標的回転装置の設置基準**

２５mラピッドファイアピストル種目の標的枠は５的を１グループとして、すべての標的が＋１ｃｍ以内の同じ高さで、同調して機能することおよびグループの真中の標的を中央とする射座に正対するように設置されなければならない。５的１グループ中の各標的の中央間、軸から軸、は７５ｃｍ（＋１ｃｍ）でなければならない。

2.5.1 射場には垂直軸を中心として９０°（±１０°）の角度で回転する標的回転装置が設置されなければならない。２５mピストル種目の精密射撃では固定標的枠を使用してもよい。

※ ａ）回転時間は０．３秒以内でなければならない。

ｂ）標的が回転するとき、選手を惑わすような目に見える振動があってはならない。 ｃ）上から見て、標的は時計回りに回転し正面向きとなり、反時計回りに回転して側面向きとならなければならない。

標的回転装置の回転方向

正面向きへの作動方向



側面向きへの作動方向

ｄ）各セクション内の全標的は同時に回転しなければならない。同時回転は、効率的な操作と正確な時間を提供できる機械装置によって行われなければならない。

2.5.2　自動回転制御装置は、規定時間正面向きの位置を維持し、規定時間（＋０．２秒～０．０秒）が経過すると側面向きの位置に標的を戻すという動作と時間を正確に変動なく作動することを保証するものでなければならない。

ａ）規定時間は標的が正面向きに回転する瞬間に始まり、側面向きに回転する瞬間に終わるものとしなければならない。

ｂ）もし計測した時間が規定時間に足りないかまたは０．２秒より長いときは、射場役員は自分自身またはジュリーの指示により計時装置の調節のため射撃を中断しなければならない。そのような場合、ジュリーは射撃の開始または再開を遅らせることができる。

2.5.3　**２５ｍピストル種目の本選の標的正面静止時間は、**　ａ）２５ｍラピッドファイアピストル：８秒、６秒、４秒　ｂ）２５ｍスタンダードピストル：１５０秒、２０秒、１０秒

ｃ）２５ｍピストルと２５ｍセンターファイアピストルの速射ステージ：１発ごとに３秒間正面を向き、次の７秒間（±０．１秒）側面を向く。

ｄ）正面静止時間の許容差は＋０．２秒～０．０秒である。

2.5.4　固い材質のバッキングボードが使用される場合、採点を容易にするために、標的の８点圏より内側にあたる部分は切り取られるかまたは段ボールで作られていなければならない。

3.0　競技役員の任務

3.1　ジュリーの任務－２５ｍ種目のみ

ａ）紙標的を使用する２５ｍ種目では、各セクションまたは５～１０標的ごとに１名のＲＴＳジュリーおよび/またはピストルジュリーが任命されなければならない(すなわち１名の標的役員に対して１名のジュリーが任命される)。ジュリーは標的役員と標的線にて行動を共にしなければならない。

ｂ）ジュリーは採点をはじめる前に、標的上の正確な弾痕数、得点圏線付近などを観察し標的を調べ、チェックしなければならない。疑わしい状態は採点を始める前に解決されていなければならない。

ｃ）　疑わしい状態の裁定は、２人のジュリーおよび標的役員が同時に行わなければならない。この場合、ジュリーの一人が主任を務め、ゲージの挿入が必要な場合はその任にあたる。　ｄ）標的線にいるジュリーは標的線において第二記点係が記録したすべての結果が正確であることおよびジュリーの裁定が採点票に正しく記録され、認証されていることを確認しなければならない。

ｅ）ジュリーは、疑わしき状態が解決され、得点が第二記点係によって正確に記録されるまでは、弾痕を治痕せず、また着色円板で弾痕の表示をさせてはならない。

3.2　記点係の任務と職務

紙標的が使用される場合、記点係を各射座ごとに任命してもよい。

ａ）記点係は得点票と速報板に関連する情報（選手の名前、Ｂｉｂ番号、射座番号など）を記入するか、または記入してあるものを確認しなければならない。

ｂ）遠隔操作される標的交換機を使用している場合、記点係には監的スコープが用意されなければならない。記点係が標的交換を行う場合、選手に弾着確認の時間を与えるため、標的交換の合図を送る前に数秒待たなければならない。

ｃ）記点係は得点票に仮得点を記入し、その得点を観客のために机の上方または側方に備えられた速報板に記入しなければならない。

ｄ）射撃線まで標的が戻ってくる装置のある射場においては、記点係は撃ち終わった標的を１０発の１シリーズごとにすみやかにまとめて回収し、標的運搬係がＲＴＳ室に標的を運ぶため

の鍵のかかる容器に収納しなければならない。

3.3 **標的役員および監的役員の任務と職務 ― ５０ｍおよび３００ｍ射場**

ａ）監的役員の数は射場役員の数と同数にすべきである。監的での作業において、監的役員は割り当てられた射場セクションや標的群の標的を、選手の次弾の発射のために、素早く交換、採点、示点、再掲示することを確実に行うことに責任を負う。

ｂ）監的役員は標的の白い部分に弾痕がないことを確認するとともに、標的枠上のどのような弾痕についても明確に印が付けられていることを確認しなければならない。

ｃ） 標的上に弾痕が無かった場合、監的役員は近接の標的への弾痕の有無を判定することと、ジュリーおよび射場役員と協議して、事態を解決する責任を負わなければならない。

ｄ）自動標的交換機が使用される場合、監的役員は交換機に正しい標的を装填するとともに撃ち終わった標的を取り出しＲＴＳ室に運ぶ準備をする責任を負わなければならない。

ｅ）標的上に生じるあらゆる不測の事態について印を付け記録する責任を負わなければならない。

3.4 **２５ｍ標的役員**

標的役員は標的グループの各セクションまたは５～１０標的ごと任命されなければならない。標的役員と射場役員は同数でなければならない。

ａ）標的役員は割り当てられた標的グループに対して責任を負わなければならない。

ｂ）標的役員は得点の紛らわしい弾痕についてジュリーに注意を促さなければならない。採点がなされた後、標的役員は発射弾の位置および点数を示点しなければならない。

ｃ）標的役員は標的を速やかに、正確に、能率的に採点し、治痕し、ルールに従って標的交換を行わなければならない。

ｄ）標的役員は射場役員およびジュリーと協力しＩＳＳＦルールに従って疑わしい事態の解決を補助しなければならない。

3.5 **２５ｍ第二記点係 ― 紙標的**

２５ｍ種目のすべてのステージの公式採点は射場にて行われる。第二記点係は標的線において、標的役員が呼び上げた点数を記録用紙に記入しなければならない。記点係に記録された得点と第二記点係のそれとが異なり、解決できない場合は、第二記点係のものが有効となる。

3.6 **２５ｍ標的治痕係― 紙標的**

採点が完了後、標的治痕係は、標的、コントロールシートおよびバッキングターゲット上の弾痕を治痕し、指示に従って、標的やコントロールシートの交換を行なう。

4.0 競技手順

4.1 **１０ｍエアライフルおよびエアピストルの紙標的操作**

ａ）標的交換は射場役員の監督のもと、選手によって行われる。

ｂ）選手は正しい標的に射撃する責任を負う。

ｃ）選手は１０発の各シリーズが終了したら直ちに１０枚の標的を記点係が受け取りやすい場所に置かなければならない。記点係はその標的を標的運搬係がＲＴＳ室に標的を運ぶための安全な箱に格納しなければならない。

4.2 **５０ｍライフルおよび５０ｍピストルの紙標的操作**

ａ）自動標的回収機または自動標的交換機が使用される場合、選手または記点係によって標的交換を行うことができる。

ｂ）いずれの場合でも、選手は正しい標的に射撃する責任を負う。

ｃ）もし選手が示点または標的交換が遅すぎると思った場合、選手は射場役員にその旨を申し立てることができる。射場役員またはジュリーはその申し立てが妥当であると判断した場合、事態を改善しなければならない。事態が改善されていないと選手またはチーム役員が思った場合、選手やチーム役員はジュリーに抗議できる。ジュリーは最大１０分間の延長時間を認めることができる。本射の最後の３０分間には、特別の事情がない限り、この申し立てを行うことはできない。

4.3 **紙標的上の超過弾**

ａ）選手が種目の規定標的撃ち込み数以上の弾を１枚の本射的に撃ち込んだ場合、最初の２発まではペナルティは科されない。

ｂ）その種目での３発目以降は１発につき２点の減点がペナルティとして科せられる。

ｃ）２点の減点は３発目以降の超過弾の生じたシリーズに科せられる。選手は超過した分を次に続く標的の中で減らして撃たなければならない。こうして発射弾数が要項で示された数を超

えないようにする。

ｄ）この場合の採点要領は超過弾の得点を規程弾数に満たない標的に移す方式で行われる。したがって各標的には要項やルールに規定された弾数が撃ち込まれたことになる。

ｅ）どの弾痕を移すべきか明確でない場合、最も低い得点の弾痕を次の標的に移すかまたは最も高い得点の弾痕を前の標的に移さなければならない。こうしてこの選手が同点の順位決定での“カウントバック”で有利にならないようにする。

ｆ）ライフル三姿勢種目は１種目として考える。

4.4 **試射が認められた場合** 選手が妨害を受けたり、別の射座に移動したときには本射中であっても試射をすることが認められる。この際、新しい試射的の挿入ができない自動標的交換機が使用されている場合、その試射は次の未使用の本射的に行われるべきである。そして、その次の本射的に射場役員またはジュリーの指示に基づき２発の本射弾が撃ち込まれるべきである。

5.0 採点手順

5.1 次の種目で紙標的を使用する場合、標的はＲＴＳ室で採点されなければならない。

ａ）１０ｍ、５０ｍおよび３００ｍのライフル種目。

ｂ）１０ｍおよび５０ｍのピストル種目

ｃ）１０ｍおよび５０ｍのムービングターゲット種目

ｄ）射場において採点された種目やステージの結果はすべて仮発表とみなされる。

5.1.1 ＲＴＳジュリーはＲＴＳ室や紙標的が使われるときの２５ｍ標的線で行われる採点およびその他すべての作業について監督しなければならない。疑わしい発射弾をどのように採点するのか、得点の決定および質問や得点に関する抗議を解決することを指揮監督する。

5.1.2 ＲＴＳ室で採点される種目のすべての標的は鍵付きの容器に入れられて、射撃後直ちに、適切な警備の下、標的線からＲＴＳ室まで運ばれなければならない。

5.1.3 ＲＴＳ室で採点される種目の本射的は番号が付けられなければならず、得点票と一致していなければならない。ＲＴＳ室は標的番号の正確を期する責任を負っており、各種目の標的が射場長または射場役員に渡される前に、その正確性を確認しなければならない。

5.1.4 ＲＴＳ室では、次の採点手順が第二ＲＴＳ役員によってチェックされなければならない。

ａ）各発射弾の得点の確認。

ｂ）Ｘ圏（インナーテン）の数の確認。

ｃ）得点の集計および減点の計算。

ｄ）各シリーズの得点と総合計の計算。

ｅ）各ＲＴＳ役員は、標的、記録用紙または成績表に頭文字をつけることによって、自分の仕事であることを認証しなければならない。

5.2 **発射弾の得点－紙標的**

5.2.1 弾痕はすべて、その弾痕が位置する得点圏または圏線の高位点に接している場合の上位点として採点される。圏線のどの部分かにでも弾痕がふれている場合は、２つの得点圏のうちの高位点が与えられる。このような判定は弾痕またはゲージのつばが圏線の外縁のどこかに触れている場合に下される。

この規則の例外はエアライフル標的のＸ圏の判定に関するものである。

5.2.2 問題のある弾痕の得点はゲージやその他の装置によって決定されなければならない。ゲージは常に標的を水平にした状態で弾痕に挿入されなければならない。

5.2.3 ２発以上の弾痕が接近したり、穴の破れがひどかったり、重なり合っていてプラグゲージを正確に使うことが難しい場合は、平らで透明な素材に適切な大きさの円が刻印されたゲージを用いて点数が決定されていなければならない。このような採点ゲージは圏線や弾痕の正確な位置を再現する際に助けとなる。

5.2.4 ２人のＲＴＳ役員の点数が一致しない場合、即座にジュリーによる裁定を求めなければならない。

5.2.5 採点ゲージはどの弾痕においても一度だけ、ジュリーによってのみ挿入される。このため、ゲージを使用した場合には、その標的上にＲＴＳ役員により採点者の頭文字（イニシャル）と採点結果とともに印が付けられなければならない。

5.3 **２５ｍ種目紙標的採点手順**

ジュリーは採点手順を監督しなければならない。得点票(第二記点係が保持)は標的役員と標的線 ジュリーがサインをしなければならない。得点票の原本は得点の集計を確認し、最終記録を行うために、安全な方法によって、ＲＴＳ室に送られなければならない。

5.3.1　**スキッドショット（斜め弾痕）**

※ａ）標的の回転中に発射された弾は命中弾として採点されてはならない。ただし水平方向の弾痕の大きさが２５ｍリムファイア５．６ｍｍ（．２２口径）弾では７mm未満、２５ｍセンターファイアピストル弾では１１mm未満のもの（標的面上の鉛または弾頭の痕跡は計測に含めない）については有効弾として採点されなければならない。

※　ｂ）標的上の水平方向に伸びた弾痕の大きさはスキッドゲージで判定されなければならない。ゲージに刻まれた線の内側が標的の圏線に触れる場合、点数の高い方を得点として採点する。

5.3.2　標的役員は射場が安全であるという合図を受け取ったら、すぐに標的を選手のほうに向けなければならない。標的役員は、少なくとも 1 名のジュリーを伴い、各標的の弾痕の得点を示し、射撃線にいる記点係にその得点を大きな声で伝えなければならない。記点係はその得点を個票および/または速報板に記録する。第二記点係は標的役員に同行し、標的役員が読み上げる得点を得点票に記録しなければならない。標的上の弾痕の位置と得点は、次の方法によって、選手と観客に表示されなければならない。

※　ａ）２５ｍラピッドファイアピストルの場合、色の付いた弾着表示円板が用いられる。円板の大きさは直径３０mmから５０mmであるべきである。また、片面が赤色でもう一方の面は白色でなければならない。そして直径約５mm、長さ約３０mmの心棒が両面の中心から出ているものであるべきである。５発シリーズごとに、得点が決定し、発表された後、標的役員によって、この円板が弾痕に差し込まれなければならない。

ｂ）１０点は選手に赤色面を向けて示されなければならない。９点以下は選手に白色面を向けて示さなければならない。この様にして弾痕が表示された後、シリーズの合計点は標的線近くの小型の得点板に表示され、第二記点係によって記録されなければならない。シリーズの合計点も読み上げられなければならない。その後で、円板は取り外されなければならない。そして標的は治痕される。

ｃ）２５ｍスタンダードピストル、２５ｍピストル、２５ｍセンターファイアピストルの場合、得点と弾着の位置は指示棒で表示される。指示棒は約３００mmの長さの柄の一端に直径３０mmから５０mmの円板が取り付けられたもので、その円板は片面が赤色でもう一方の面が白色となっている。標的役員はその弾の得点が１０点なら赤色面を選手に向けて、９点以下なら白色面を選手に向けて円板を弾痕の上に置き、得点を読み上げなければならない。同じ標的に撃ち込まれた１シリーズの弾痕は、１０点のものから読み上げられるべきである。シリーズの合計点は個々の弾痕が表示された後に、読み上げられるべきである。

ｄ）試射も表示され、記録されなければならない。

5.3.3　標的役員と射場役員は掲示板の結果と標的線で記録したものが同じであることを確認しなければならない。得点に関して意見が分かれた場合は速やかに解決しなければならない。

5.3.4　弾痕が表示され、記録されたら、直ちに、

ａ）標的は治痕されて、次のシリーズの準備がなされなければならない(ラピッドファイアピストル種目や速射ステージ)。または、

ｂ）次のシリーズのために標的が交換され、バッキングターゲットも治痕されるか、交換されなければならない。または、

ｃ）次の選手のため、使用済みの標的とバッキングターゲットは迅速に取り除かれ、新しい標的と新しいバッキングターゲットに交換されなければならない。

5.3.5　完成した得点票は､選手が射場から出る前に､合計点の横に選手によってサインされるべきである。

5.4　**同点の順位決定**

同点の場合の順位決定は 6.15 に従って行われる。

5.5　**紙標的の得点に関する抗議**

5.5.1　紙標的が使用される場合、採点や集計に誤りがあると思った選手またはチーム役員はその得点に関し抗議をすることができるが、その得点がゲージを用いて採点された点数であった場合、それは最終的なものであり、抗議することはできない。得点に関する抗議はそれぞれの弾に対してのみ行うことができる。別の弾に関して抗議する場合にはそれぞれに対して抗議料の支払い義務が生じる。

5.5.2　得点に関する抗議はゲージが用いられてない採点または公表された順位表や得点表に誤記があった場合のみ行うことができる。

5.5.3　抗議料（５０．００ユーロ）は抗議が行われた時点で支払われなければならない。

5.5.4　※紙標的が使用されＲＴＳ室で採点されている場合、チーム役員または選手は抗議に係る弾痕を見

る権利を持つが、標的に触れることは許されない。

6.0　※３００ｍ種目の採点および示点手順

6.1　示点係は標的に向けて射撃されたという合図を受けたら、すぐに示点をしなければならない。**示点**は次の方法に従って行われなければならない。示点係は合図を受けたら速やかに以下のことを行われなければならない。

ａ）標的を**下げる**。

ｂ）弾痕を透明ステッカーで**覆い**、その上に対照色のステッカーを重ねて貼り弾痕の位置を示す。

ｃ）**標的を上げる**。

ｄ）示点円板を使用して得点を**示す**。

6.2　示点円板を用いて点数表示を行う場合、直径２００～５００ｍｍの円板で、一面が黒色もう一面が白色に塗られ、通常その白色面の中心から右側に３０～５０ｍｍの細い棒が取り付けられた物を用いなければならない。

6.3　弾痕の**得点**の表示は次のように行われる（図参照）

ａ）まず、**当該弾痕**の位置が示されなければならない。

ｂ）１～８点の得点は、円板の**黒色面を射撃線側に向け**、後の図に示す位置に適切に円板をあてることにより示されなければならない。

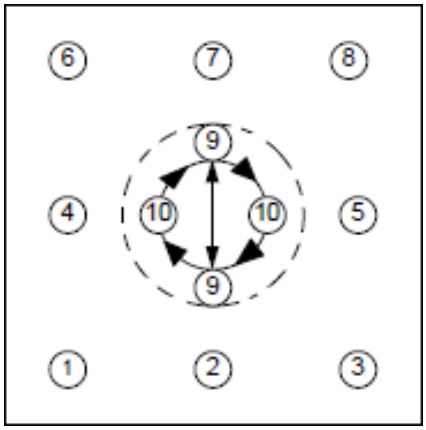
ｃ）**９点の場合**は、円板の白色面を射撃線側に向け、標的の黒点圏の中央部の前を２回上下させなければならない。

ｄ）**１０点の場合**は、円板の白色面を射撃線側に向け、後の図に示されるように、標的の黒点圏に沿って右回りに２回転させなければならない。

ｅ）**標的に当たらなかった弾**については、円板の黒色面を選手側に向け、標的の前面で３～ ４回左右に動かすことで示される。

ｆ）**標的上の弾痕が０点の場合**は、まず前項の０点の表示を行い、その後弾痕の位置を示す。

6.4 **示点表示図**



6.5 試射的には、標的の右上隅に黒い斜線を入れ、明確な印が付けられなければならない。その線は通常の光条件下で適切な距離から裸眼ではっきりと見えなければならない。監的壕で標的交換をする場合、本射中は試射的を上げてはならない。